

PHILIPS

Signage Display

4000 Series

43BDL4050Q

50BDL4050Q

55BDL4050Q



ユーザーマニュアル (日本語)

目次

1. 安全上の注意	1	7. OSD メニュー	48
2. 開梱と設置	4	7.1. OSD メニューをナビゲートする	48
2.1. 開梱	4	7.2. OSD メニューの概要	48
2.2. 梱包箱に含まれているもの	6	8. 対応するメディア形式	54
2.3. 設置に関する注意	6	9. 入力モード	55
2.4. 壁に取り付ける	7	10. 画素欠陥ポリシー	56
2.5. 縦長向きの設置について	8	10.1. 画素とサブ画素	56
3. 各部の機能	9	10.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義	56
3.1. コントロールパネル	9	10.3. 明るいドット欠陥	56
3.2. 入力 / 出力端子	10	10.4. 暗いドット欠陥	57
3.3. リモコン	11	10.5. 画素欠陥の近接	57
3.4. リモコンに乾電池を挿入する	15	10.6. 画素欠陥の許容範囲	57
3.5. リモコンの取り扱い	15	10.7. MURA	57
3.6. リモコンの動作範囲	15	11. 清掃とトラブルシューティング	59
3.7. USB カバー	16	11.1. 清掃	59
3.8. AC スイッチカバー	17	11.2. トラブルシューティング	60
4. 外部機器を接続する	18	12. 技術仕様	61
4.1. 外部機器の接続 (マルチメディアプレーヤー) ..	18	索引	63
4.2. PC の接続	18		
4.3. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接 続する	19		
4.4. IR 接続	19		
4.5. IR パススルー接続	19		
4.6. ネットワークへの接続	20		
5. 取り扱い	21		
5.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する	21		
5.2. 画像形式を変更します	21		
5.3. 概要	21		
5.4. Media Player (メディアプレーヤー)	23		
5.5. ブラウザー	27		
5.6. PDF Player (PDF リーダー)	31		
5.7. カスタムアプリ	34		
6. 設定 UI	35		
6.1. 設定	35		
6.2. Network & Internet (ネットワークとインターネッ ト)	35		
6.3. Signage Display (サイネージディスプレイ)	36		
6.4. Apps (アプリケーション)	43		
6.5. Display (ディスプレイ)	44		
6.6. Security (セキュリティ)	44		
6.7. Accessibility (アクセシビリティ)	44		
6.8. System (システム)	44		
6.9. About (製品について)	44		
6.10. Supplementary (補足)	45		

1. 安全上の注意

安全のための注意事項とメンテナンス



警告：本書で指定していない制御、調整または手順を使用すると、感電、電氣的障害、機械的災害につながる可能性があります。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。

この製品は、ビジネス環境における専門的な設置での使用のみを目的としており、家庭での使用には適していません。

このデバイスが意図されている以外の使用は、保証を無効にする可能性があります。

操作時：

- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- ディスプレイを油に近づけないでください。プラスチックカバーが損傷する可能性があります。
- ディスプレイは十分に換気されている場所に設置してください。
- 屋外で使用する場合は、紫外線フィルターが必要です。
- 温度が高い、湿度が高い、表示頻度が高い、動作時間が長いなど、極端な条件下でディスプレイを使用する場合は、Philips のアプリケーションエンジニアにご相談ください。ご相談いただかなかった場合、ディスプレイの信頼性と機能への保証が損なわれる可能性があります。極端な条件は、空港、乗換駅、銀行、証券取引所、制御システムになどでよく見受けられます。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源コードを再び取り付けて通常操作を行ってください。
- Philips が提供する認可された電源コードを使用してください。電源コードが入っていない場合、カスタマサポートにお問い合わせください。
- 操作中、ディスプレイを強い振動や高い衝撃条件にさらさないでください。
- ディスプレイの操作中あるいは運搬中に、モニターを叩いたり落としたりしないでください。
- アイボルトはメンテナンスや設置の際に短期間使用するためのものです。1 時間以上にわたりアイボルトを使用し続けることを推奨します。長期にわたっての使用は禁止されています。アイボルトを使用する際には、ディスプレイの下に障害物を置かないようにして安全エリアを確保してください。

メンテナンス：

- ディスプレイを損傷の可能性から保護するために、LCD パネルに過剰な圧力をかけないでください。ディスプレイを動かしているとき、フレームをつかんで持ち上げます。LCD パネルに手や指を置いてディスプレイを持ち上げないでください。
- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。落ちにくい場合は少量の水をしめらせた布でふき取ってください。ただし、アルコール、アンモニアベースの液体などの有機溶剤を使用してディスプレイを洗浄することは絶対におやめください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを埃、雨、水、湿気の多い環境にさらさないでください。
- ディスプレイが濡れたら、できるだけ速やかに乾いた布で拭いてください。
- ディスプレイに異物や水が入ったら、直ちに電源をオフにし、電源コードを抜いてください。それから、異物や水を取り除き、メンテナンスセンターに送ってください。
- 熱、直射日光、極端な低温にさらされる場所でディスプレイを保管したり、使用したりしないでください。
- ディスプレイ最高のパフォーマンスを維持し長く使用するために、次の温度および湿度範囲に入る場所でディスプレイを使用することを強くお勧めします。

環境的絶対定格

項目	最小	最大	単位
保管温度	-20	60	°C
動作温度	0	40	°C
ガラス面温度（動作時）	0	65	°C
保管湿度	5	95	% RH
動作湿度	20	80	% RH

- 輝度の性能を向上させるため、LCD パネルの温度は常に摂氏 25 度に保つ必要があります。
- 適切な動作条件でディスプレイが使用された場合にのみ、本仕様に記載されているディスプレイの寿命が保証されます。

重要：ディスプレイの顔を離れるときは、常にスクリーンセーバーをオンにしてください。装置が変化しない静止コンテンツを表示している場合、常に定期的にスクリーンリフレッシュアプリケーションを起動してください。長時間静止画像を表示すると、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られる「焼き付き」が表示される原因となります。これは LCD パネル技術ではよく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」は時間とともに徐々に消えます。

警告：「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」症状はひどくなり、消えることも修理することもできなくなります。これは、保証には含まれません。

サービス：

- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- 修理または統合が必要な場合、最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。
- ディスプレイを直射日光にさらさないでください。



本書で設定した指示に従っても本製品が正常に動作しない場合は、修理スタッフまたは最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

安定性上の危険性。

ディスプレイが落下すると、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。怪我を防止するため、設置説明書に従って、床 / 壁にディスプレイをしっかり固定してください。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。



- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。電源をオフにしているとき、画面を乾いた布で拭くことができます。ただし、アルコール、溶剤、またはアンモニアベースの液体は絶対に使用しないでください。
- 本書の指示に従っているときにディスプレイが正常に作動しない場合、修理スタッフにお問い合わせください。
- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイは乾燥した状態を保つようにしてください。感電の原因となるため、雨や過度の湿気にさらさないでください。
- 電源ケーブルや DC 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源ケーブルや DC 電源コードを取り付けて通常操作を行ってください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを雨や過度の湿気にさらさないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- 重要：ディスプレイを使用しない場合、スクリーンセーバープログラムを常に有効にしておいてください。コントラストの高い静止画像が長期間画面に表示されていると、画面の前面に「残像」または「ゴースト像」が残ることがあります。これは、LCD 技術に特有の欠点に起因する、よく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると残像は時間と共に徐々に消えます。残像症状は修理できず、保証に含まれないことにご注意ください。
- 電源コードに 3 ピン取り付けプラグが付属している場合は、接地（アース）された 3 ピンコンセントにコードを接続してください。2 ピンアダプターを取り付けるなどして、電源コードの接地ピンを無効にしないでください。接地ピンは重要な安全機能です。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

<アプリのインストールについての注意事項>

●アプリのインストールは安全であることを確認の上、自己責任において実施してください。

ウイルスへの感染や各種データの破壊などが発生する可能性があります。

●万が一、お客様がインストールを行ったアプリなどにより各種動作不良が生じた場合、当社では責任を負いかねます。この場合、保証期間内であっても有償修理となります。

●お客様がインストールを行ったアプリなどにより自己または第三者への不利益が生じた場合、当社では責任を負いかねます。

●アプリによっては、自動的にパケット通信を行うものがあります。パケット通信は、切断するかタイムアウトにならない限り、接続されたままです。

●アプリによっては、自動的にアップデートが実行される場合があります。

●Android OS のバージョンダウンもバージョンアップも行わないで下さい。

●Android OS のバージョンに合わせたアプリをインストールしてください。

粗分類		化学物質表					
		Pb	Hg	Cd	Cr6+	PBBs	PBDEs
前面ベゼル		○	○	○	○	○	○
背面カバー		○	○	○	○	○	○
パネル		除外項目	○	○	○	○	○
LCD パネル	WLED	除外項目	○	○	○	○	○
	CCFL	除外項目	除外項目	○	○	○	○
PCBA		除外項目	○	○	○	○	○
ケーブル & ワイヤ		除外項目	○	○	○	○	○
リモコン		除外項目	○	○	○	○	○
*:PCBA はベア印刷回路基板、で構成され、はんだ付けおよび抵抗器、コンデンサ、アレー、コネクタ、チップなど、その表面実装エレメントで構成されます。 注 1:「○」は、計算される物質の含有率が参照含有率を超えていないことを示します。 注 2:「除外項目」項目は、特定の化学物質が JIS C 0950: 2021 の規格により除外項目とされた項目に対応することを意味します。							
JIS C 0950: 2021							

2. 開梱と設置

2.1. 開梱

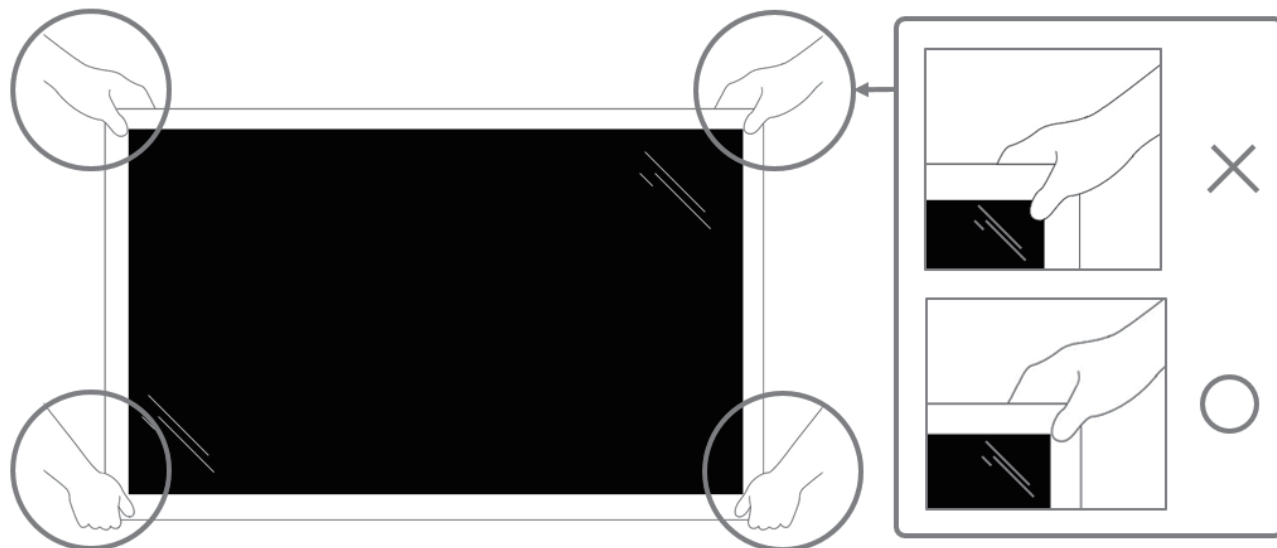
- 本ディスプレイは、標準アクセサリと共に専用の箱に梱包されています。
- オプションのアクセサリは、別途ご購入が必要です。
- 本ディスプレイは背が高く重いため、移動させる際には 2 人の技術者が行うようにしてください。
- 開梱後、内容物に不足がなく、状態に問題がないことをご確認ください

■ 開梱する前に

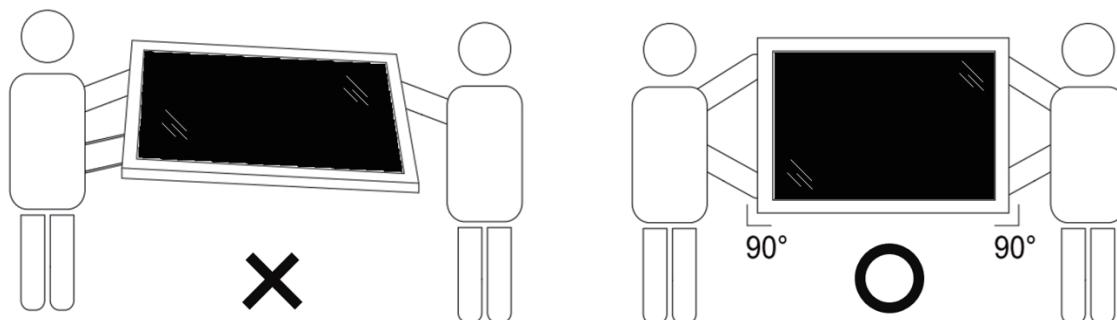
- 設置する前に、開梱通知を読んで十分に理解してください。
- 梱包を確認し、きしみ、へこみ等の異常がないことを確認してください。
- ディスプレイを段ボールから取り出す前に、必要な検査を行ってください。
- 損傷を防ぐために、常に経験豊富な技術者がディスプレイを取り付けるようにしてください。

■ 通知

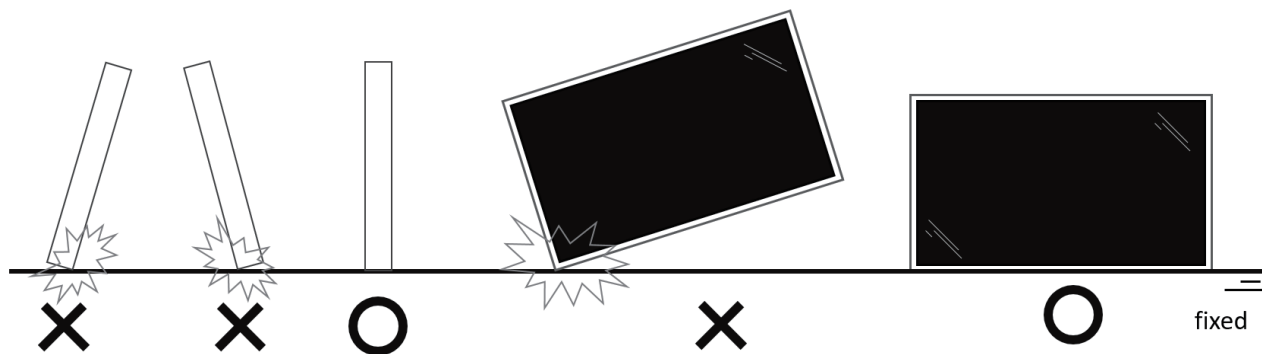
- 大人 2 人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
- ディスプレイのガラスをつかんだり触れたりしないようにしてください。
- ディスプレイのベゼル面（プラスチックまたは金属の部分）をつかむようにしてください。



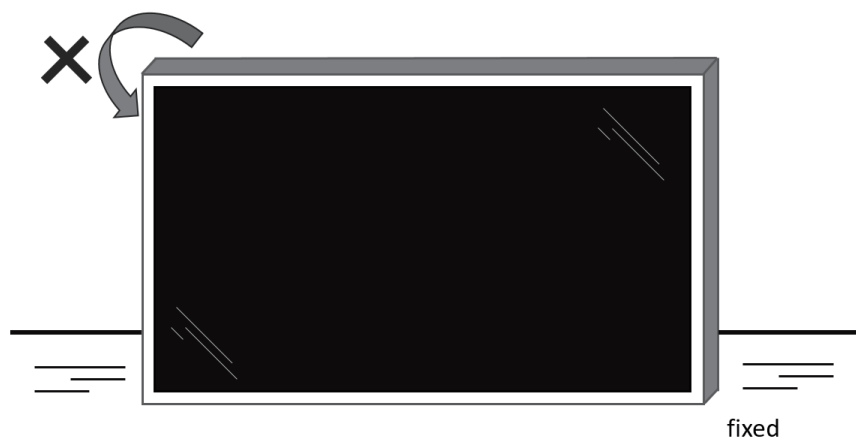
- ディスプレイを移動するときは、ディスプレイを垂直に維持してください。



- ディスプレイを垂直にすることで、ディスプレイの重量が表面に均等に分散します。



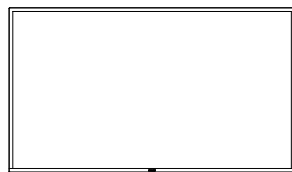
- ディスプレイを移動している間、曲がったりねじれたりしないように、垂直に維持してください。



2.2. 梱包箱に含まれているもの

パッケージに次の品目が揃っていることを確認してください：

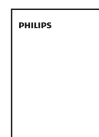
- LCD ディスプレイ
- リモコンとリモコン用単 4 乾電池
- 保証書
- クイックスタートガイド
- 電源ケーブル
- RS232 ケーブル
- RS232 デイジーチェーンケーブル
- IR センサーケーブル
- AC スイッチカバー
- USB カバー
- Philips ロゴ
- HDMI ケーブル
- DVI/D-Sub 変換ケーブル



LCD ディスプレイ



リモコンとリモコン用単4乾電池



保証書



クイックスタートガイド

* 付属電源コードは目的地によって異なります。



電源ケーブル



RS232 ケーブル



RS232 デイジーチェーンケーブル



IR センサーケーブル



AC スイッチカバー



USB カバー



Philips ロゴ



HDMI ケーブル



DVI/D-Sub 変換ケーブル

* 地域によって異なります。

* ディスプレイデザインとアクセサリは、イラストと異なる場合があります。

メモ：

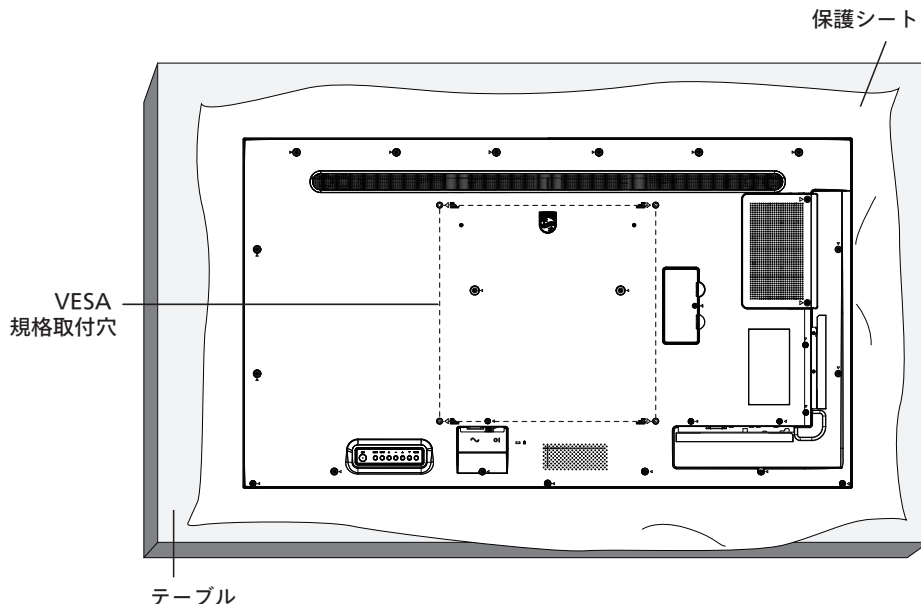
- 他の地域の場合は、その地域のコンセントの AC 電圧と一致し、その国の安全規定で承認されている適合する電源コードを使用してください。（H05W-F タイプ、2G または 3G、0.75 または 1mm² を使用します）。
- 製品を開梱した後は、梱包材を適切に保管してください。

2.3. 設置に関する注意

- 本ディスプレイに付属する電源ケーブルのみを使用してください。延長コードが必要な場合は、代理店にお問い合わせください。
- 本ディスプレイは、倒れる可能性を考慮して、平らな面に設置してください。ディスプレイの背面と壁の間には、適切な換気が保てるようにスペースを確保してください。台所、浴室など、湿気のある場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、内部部品の寿命が短くなる可能性があります。
- 高度が 5000 m 以上の場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、誤動作する可能性があります。

2.4. 壁に取り付ける

壁に本ディスプレイを取り付ける場合は、標準の壁取り付けキット(市販品)が必要です。北米では TUV-GS および / または UL1678 規格に準拠した取り付け用インタ - フェイスを使用してください。



1. ディスプレイよりも大きい平らで水平な面を用意し、その上に厚い保護シートを広げて、画面を傷つけずに操作できるようにしてください。
2. すべてのタイプの取り付け(壁掛け、天上取り付け、テーブルスタンドなど)に対応するアクセサリがあることを確認してください。
3. 取り付けにあたっては取付金具に同梱の説明書をよくお読み下さい。取付手順を誤ると、破損や作業者の怪我につながる恐れがあります。誤った取付方法が原因で生じた破損は、当社の保証の対象外となりますので、ご注意下さい。
4. 壁取り付けキットには、M6 取り付けねじ(取り付けブラケットの厚さより 10 mm 以上長いもの)を使用し、しっかりと締め付けてください。

2.4.1. VESA 規格取付穴

43BDL4050Q	200 (横) x 200 (縦) mm
50BDL4050Q	400 (横) x 400 (縦) mm
55BDL4050Q	400 (横) x 400 (縦) mm

注意:

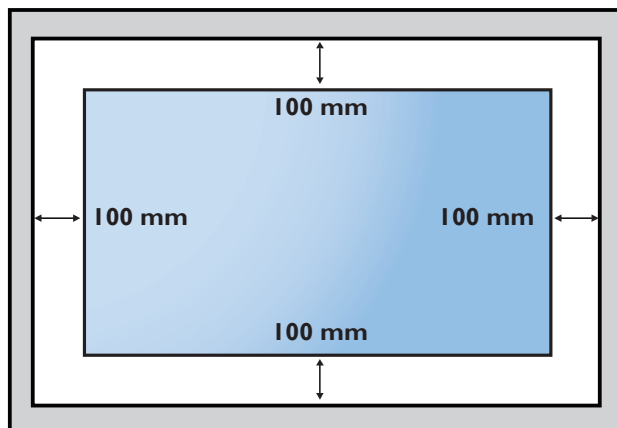
本製品の落下を防止するために:

- 本製品を壁または天井へ設置する場合は、市販の金属製ブラケットを使用して設置することを推奨します。設置に関する詳細な手順については、ブラケットに付属の取扱説明書を参照してください。
- 地震または他の自然災害が発生した場合に本ディスプレイが落下することがないように、取り付ける位置については、ブラケットのメーカーにお問い合わせください。
- 本ディスプレイは背が高く重いので、設置は 4 人の技術者が行うようにしてください。

換気用に必要なスペース

換気のために、上部、背面、左右に 100mm のスペースを空けてください。

注記:ディスプレイを壁に取り付ける場合は、専門技術者にご相談されることを推奨します。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。

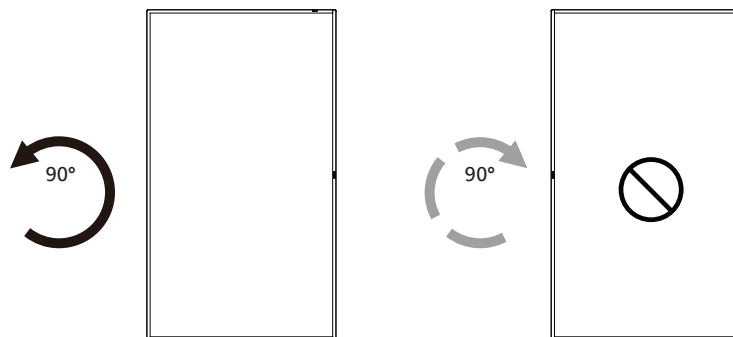


2.5. 縦長向きの設置について

本ディスプレイは、縦長向きに設置できます。

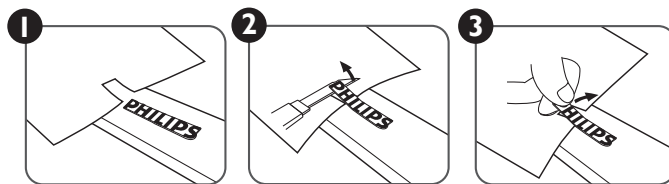
ディスプレイを反時計回りに 90 度回転させます。ディスプレイを正面に見て、「**PHILIPS**」ロゴが側面にある必要があります。

注記： 縦・横いずれも 24 時間の連続稼働が可能です。



2.5.1. ロゴプレートのはがし方

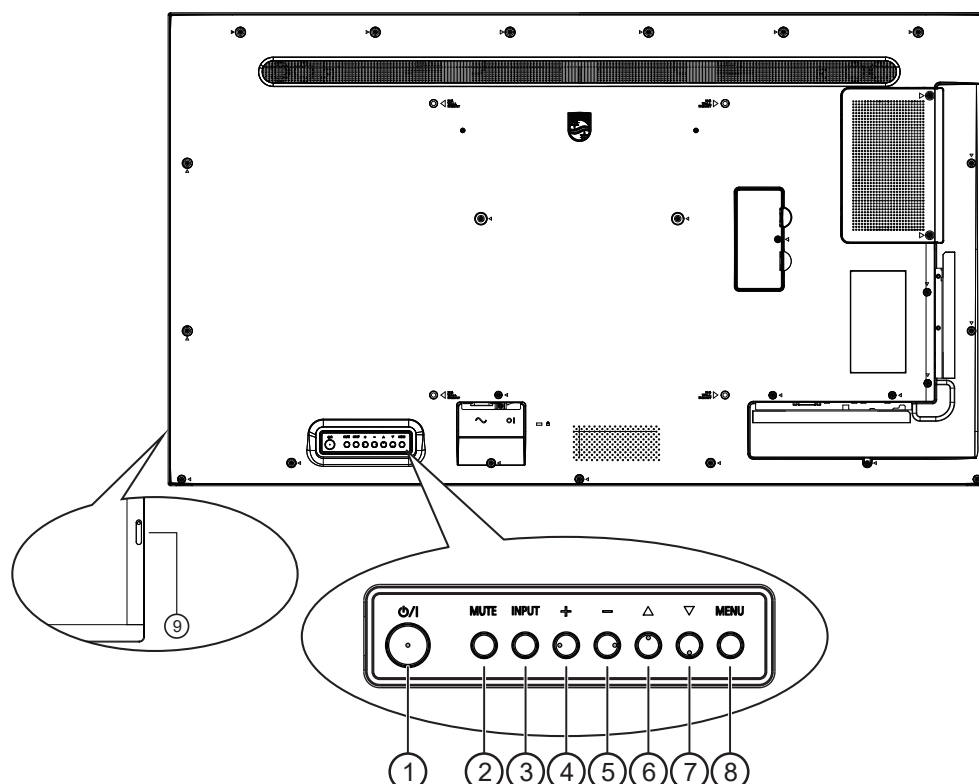
1. 前面ベゼルに傷がつかないように、ロゴ部分を切り抜いた紙を用意して当て紙として使用します。
2. 下に紙を敷いた状態で、ナイフを使って注意深くロゴシールをはがしていきます。
3. ロゴシールを取り除きます。



注記： ディスプレイを壁に取り付ける場合は、専門技術者にご相談されることを推奨します。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。

3. 各部の機能

3.1. コントロールパネル



① [O/I] ボタン

このボタンを押して、ディスプレイの電源を入れたり、ディスプレイをスタンバイモードにしたりします。

② [消音] ボタン

このボタンを押して、音声をミュートしたり、音声を復元したりします。

③ [入力] ボタン

入力ソースを選択します。
OSD メニューで選択を確認します。

④ [＋] ボタン

OSD メニューが ON の時には調整を上げ、OSD メニューが OFF のときには、音声出力レベルを上げます。

⑤ [－] ボタン

OSD メニューが ON のときには調整を下げ、OSD メニューが OFF のときには音声出力レベルを下げます。

⑥ [▲] ボタン

OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを 1 つ上げます。

⑦ [▼] ボタン

OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを 1 つ下げます。

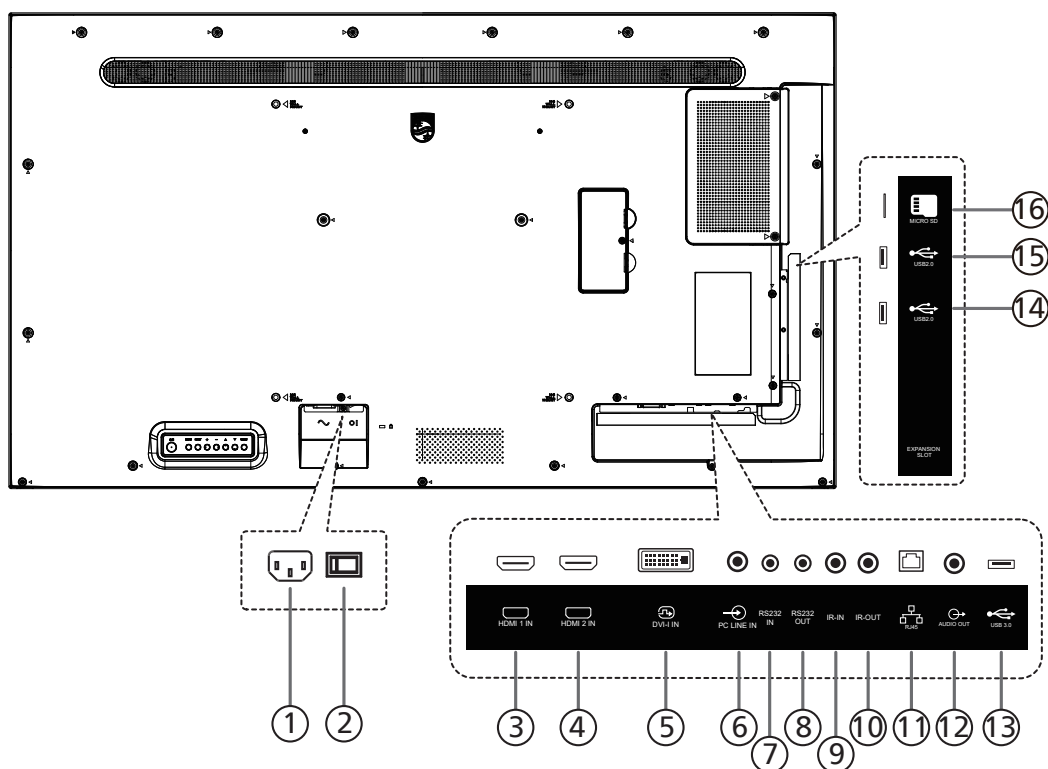
⑧ [MENU] (メニュー) ボタン

OSD メニューがオンのときには前のメニューに戻ります。また、このボタンは、OSD メニューがオフのときに OSD メニューを有効にするためにも使用します。

⑨ リモコンセンサーと電源状態インジケーター

- リモコンからの指令信号を受信します。
- 本ディスプレイの動作状態を表示します：
 - 本製品の電源がオンのとき緑色点灯する。
 - 本製品がスタンバイモードのとき赤色点灯する。
 - ディスプレイがスリープモードに入るとオレンジ色に点灯する。
 - {スケジュール} が有効の場合はオレンジと赤色に点滅する。
 - 赤色点滅の場合は故障の検出を示す。
 - 本製品の主電源がオフの場合消灯する。

3.2. 入力 / 出力端子



① AC 入力

壁コンセントからの AC 電源入力。

② 主電源スイッチ

主電源のオン / オフを切り替える。

③ HDMI1 入力 / ④ HDMI2 入力

HDMI ビデオ / 音声入力。

⑤ DVI-I 入力

DVI-I ビデオ入力。VGA ビデオ入力。

⑥ PC 線入力

VGA ソース用の音声入力 (3.5mm ステレオ電話)。

⑦ RS232 入力 / ⑧ RS232 出力

ループスルー機能向けの RS232 ネットワーク入力 / 出力。

⑨ IR 入力 / ⑩ IR 出力

ループスルー機能向けの IR 信号入力 / 出力。

メモ:

- このディスプレイのリモコンセンサーは、[IR 入力] が接続されている場合、動作を停止します。
- 本ディスプレイを使ってお持ちの AV デバイスをリモート操作する場合は、19 ページに記載されている「IR バススルー接続」を参照してください。

⑪ RJ-45

LAN 制御機能は、コントロールセンターからリモコン信号を送信するために使用されます。

⑫ 音声出力

外部 AV デバイスへの音声出力。

⑬ USB 3.0

USB ストレージデバイスを接続します。

⑭ USB 2.0 / ⑮ USB 2.0

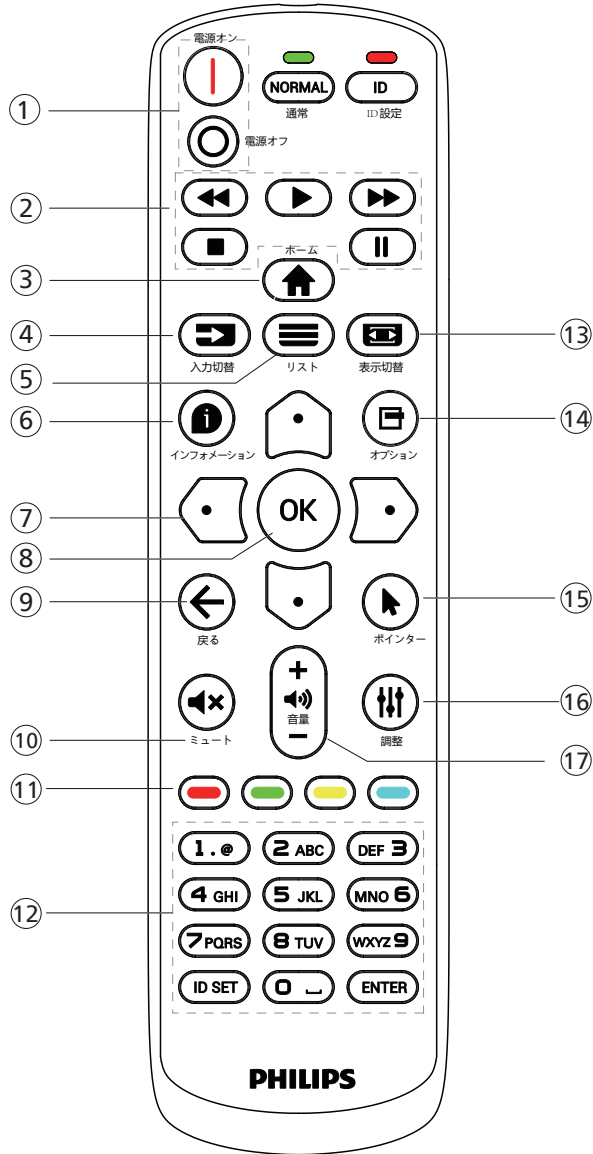
USB ストレージデバイスを接続します。

⑯ Micro SD カードスロット

micro SD カードを挿入します。

3.3. リモコン

3.3.1. 一般の機能



① [I/O] 電源ボタン

- [I] 電源をオンに切り替えます。
- [O] 電源をオフに切り替えます。

② [再生] ボタン

- メディアファイルの再生を制御します(メディア入力の場合のみ)
- フリーズ機能
- 一時停止:すべての入力コンテンツをフリーズするためのホットキー。
- 再生:すべての入力コンテンツをフリーズ解除するためのホットキー。

③ [🏠] ホームボタン

- ルートメニュー:メインメニューの OSD に移動します。
- その他:OSD を終了します。

④ [📺] 入力切替ボタン

- ルートメニュー:ビデオソースの OSD に移動します。

⑤ [≡] リストボタン

- 予約済み。

⑥ [i] インフォメーションボタン

- インフォメーション OSD を表示します。

⑦ ナビゲーションボタン

- [🏠]

- ルートメニュー:スマートピクチャーの OSD に移動します。
- 親画面メニュー:選択した項目を上に移動して調整します。

- IR デイジーチェーンメニュー:操作するグループ ID 番号を増やします。

- [🔍]

- ルートメニュー:オーディオソースの OSD に移動します。

- 親画面メニュー:選択した項目バーを下に移動して調整します。
- IR デイジーチェーンメニュー:操作するグループ ID 番号を減らします。

- [🔍]

- 親画面メニュー:メニューの前のレベルに移動します。

- ソースメニュー:ソースメニューを終了します。

- 音量メニュー:音量を小さくします。

- [🔍]

- 親画面メニュー:メニューの次のレベルに移動するか、選択したオプションを設定します。

- ソースメニュー:選択したソースに移動します。

- 音量メニュー:音量を大きくします。

⑧ [OK] ボタン

- ルートメニュー:Primary(プライマリ)/Secondary(セカンダリ)モードの IR デイジーチェーンの OSD に移動します。

- 親画面メニュー:入力または選択を確定します。

⑨ [←] 戻るボタン

- 前のページに戻る、または前の機能を終了します。

⑩ [🔇] 消音ボタン

- 音声を消音したり、消音解除したりします。

⑪ [🔴][🟢][🟡][🟠] 色ボタン

- [🟠] バックライトをオンおよびオフに切り替えるためのホットキー。

⑫ [番号 / ID 設定 / 入力] ボタン

- ネットワーク設定の際にテキストを入力します。

- ここを押して、ID を設定します。詳細については 3.3.2. リモコン ID を参照してください。

⑬ [📺] 表示切替ボタン

- 画像ズームモードを「フル画面」、「4:3」、「1:1」、「16:9」、「21:9」、「カスタム」から選択します。

⑭ [🔍] オプションボタン

- 予約済み。

⑮ [🔍] ポインターボタン

- 予約済み。

⑯ [🔍] 調整ボタン

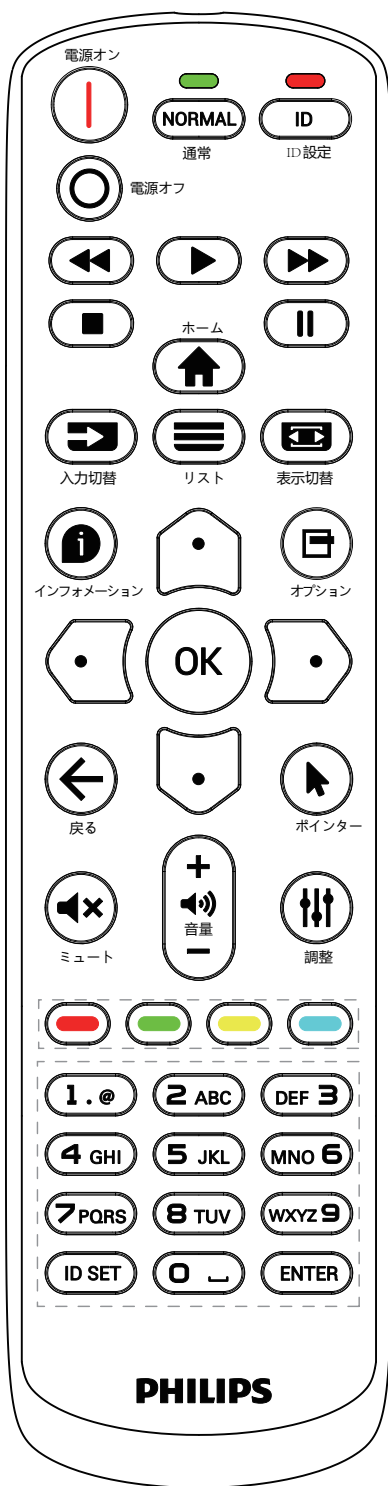
- オートアジャストの OSD に移動します (VGA の場合のみ)

⑰ [–][+] 音量ボタン

- 音量を調整します。

3.3.2. リモコン ID

複数台のディスプレイを使用する場合は、リモコンの ID 番号を設定してください。



[ID] ボタンを押すと、赤い LED が 2 回点滅します。

1. ID モードに移行するためには、[ID 設定] ボタンを 1 秒以上押してください。赤い LED が点灯します。

[ID 設定] ボタンを再度押すと、ID モードを離れます。赤い LED が消えます。

[0] ~ [9] の数字を押して、制御するディスプレイを選択してください。
例: ディスプレイ番号 1 では、[0] と [1]、ディスプレイ番号 11 では、[1] と [1] を押してください。

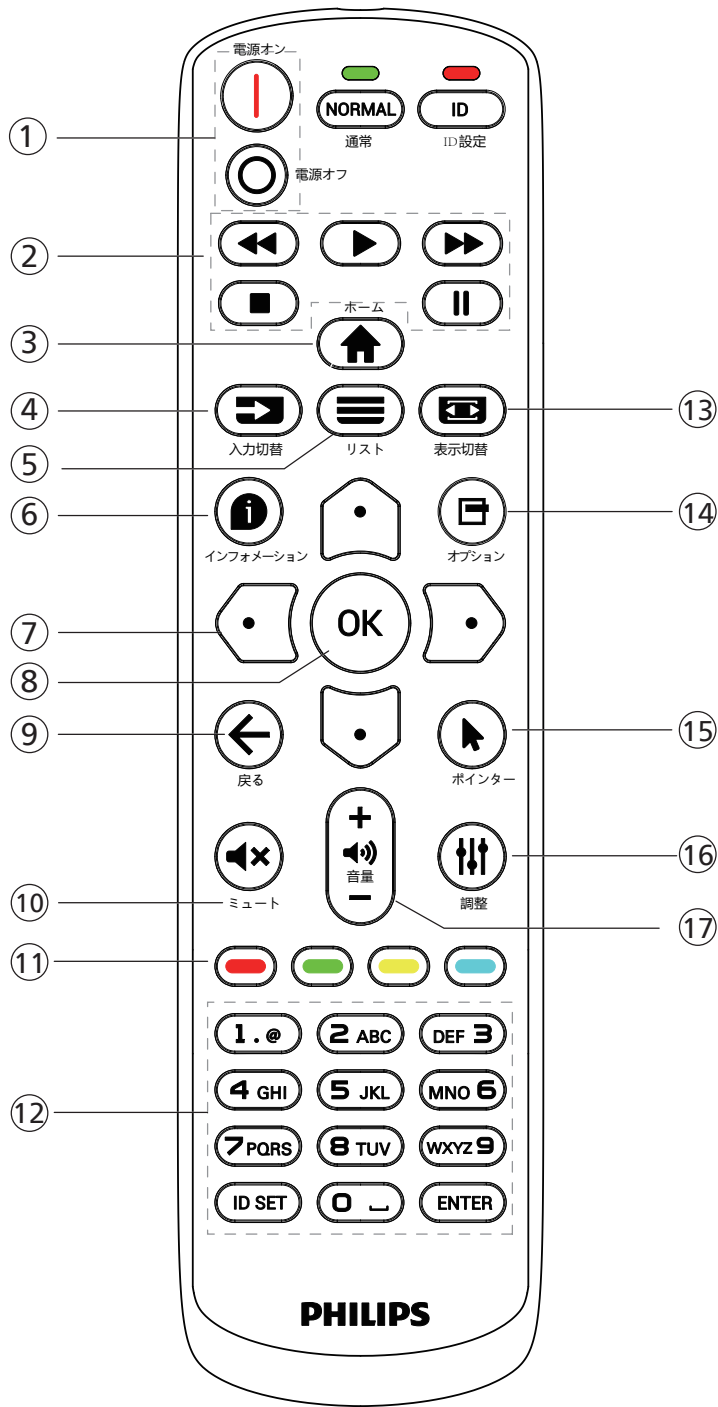
使用できる番号は [01] ~ [255] です。

2. 10 秒以内にボタンを押されない場合、ID モードは終了します。
3. 間違ったボタンを押した場合には、赤い LED が消えて再度点灯するまで 1 秒間待って、正しい数字を押してください。
4. [ENTER] ボタンを押して選択を確認します。赤い LED が 2 回点滅して、消えます。

注記:

- [NORMAL] (ノーマル) ボタンを押してください。緑の LED が 2 回点滅して、ディスプレイが正常に作動していることを示します。
- ID 番号を選択する前に、それぞれのディスプレイで ID 番号を設定する必要があります。

3.3.3. Android ソース用のリモコンボタン



① [I/O] 電源ボタン

ディスプレイをオンにしたり、スタンバイモードにしたりします。
ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

② [再生] ボタン

1. メディア(動画 / オーディオ / 画像)ファイルの再生を操作します。
メディアファイルを再生する方法には 3 通りあります。

1) 「Media Player(メディアプレーヤー)」->「Compose(構成)」->「Edit or add a new playlist(再生一覧を編集または新規に追加)」->「Choose any media files(任意のメディアファイ

ルを選択)」の順に移動し、[▶] ボタンを押して、メディアファイルを直接再生します。

2) 「Media Player(メディアプレーヤー)」->「Play(再生)」->「Choose non-empty play list(空でない再生一覧を選択)」の順に移動し、[OK] を押して再生一覧のすべてのメディアファイルを再生します。

3) OSD メニューにより、ブート時のソースまたはスケジュールにメディア再生一覧を設定します。

2.PDF ファイルの再生

PDF ファイルを再生する方法は 2 つあります。

- 1) PDF プレーヤー -> 再生 -> 空ではない再生一覧の選択
-> [OK] を押して、再生一覧内のすべての PDF ファイルを再生します。
- 2) OSD メニューにより、ソース起動またはスケジュールに PDF 再生一覧を設定します。

3.PDF、ビデオまたは音楽を再生中に、[■] を押して、再生を停止します。その後、再度 [▶] を押すと、ファイルの最初から再生が開始されます。

4.PDF、ビデオまたは音楽を再生中に、[⏸] を押して、再生を一時停止します。

5. すべてのメディアファイルまたは PDF ファイルは、指定されたストレージ(内部 / USB/SD カード)のルートディレクトリの下の「philips」と名前を付けられたサブフォルダーを含むフォルダーに配置する必要があります。すべてのサブフォルダー(ビデオ / 写真 / 音楽 / PDF)には、メディアタイプ別に名前を付ける必要があります。

動画:{ ストレージのルートディレクトリ }/philips/video/
写真:{ ストレージのルートディレクトリ }/philips/photo/
音楽:{ ストレージのルートディレクトリ }/philips/music/
PDF:{ ストレージのルートディレクトリ }/philips/pdf/

3 つのストレージのルートディレクトリは次の通りであることに注意してください

内部ストレージ: /sdcard
USB ストレージ: /mnt/usb_storage
SD カード: /mnt/external_sd

③ [🏠] ホームボタン

OSD メニューにアクセスします。
ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

④ [↔] 入力切替ボタン

入力ソースを選択します。
ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

⑤ [=] リストボタン

1. ウェブページのコンテンツでは、上にある次の選択できる項目にフォーカスを移動します。
2. 上にある次のコントロールまたはウィジェットに(ボタンなど)フォーカスが移動します。

⑥ [i] インフォメーションボタン

1. 現在の入力信号に関する情報を表示します。スカラーにより表示されます。
2. 「Media Player(メディアプレーヤー)」->「Compose(構成)」->「Edit or add a new playlist(再生一覧を編集または新規に追加)」->「Choose any media files(任意のメディアファイルを選択)」の順に移動し、[i] を押すと、選択したメディアファイルの情報が表示されます。

⑦ ナビゲーションボタン

1. メニューを移動し、項目を選択します。
2. Web ページのコンテンツでは、このボタンは画面のスクロールバーを操作するために使います。垂直スクロールバーを上または下に移動するには、またはを押します。水平スクロールバーを左または右に移動するには、またはを押します。

3. PDF の場合

次のページに進むには、を押します。

前のページに進むには、を押します。

⑧ [OK] ボタン

入力または選択を確定します。

⑨ [←] 戻るボタン

前のページに戻る、または前の機能を終了します。

⑩ [M] 消音ボタン

音声を消音したり、消音解除したりします。

ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

⑪ [■][■][■][■] 色ボタン

[■] バックライトをオンおよびオフに切り替えるためのホットキー。

⑫ [番号 / ID 設定 / 入力] ボタン

1. Android ソース上の ID セット  および ENTER  に対する機能がありません。

2. PDF ファイルの場合、数字ボタンを押すことでページ番号を入力し、次に、を押して、指定したページにジャンプします。

⑬ [■] 表示切替ボタン

画像形式を変更します。ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

⑭ [■] オプションボタン

メディアプレーヤーまたは PDF リーダーでツールボックスを開きます。

1. メディアプレーヤー -> 構成 -> 再生一覧の編集または新規追加 -> を押して、ツールボックスを開きます。ツールボックスが、画面の左側からスライドします。

2. PDF ファイルの場合、数字ボタンを押すことでページ番号を入力し、次に、ボタンを押して、指定したページにジャンプします。

⑮ [▶] ポインターボタン

予約済み。

⑯ [■] 調整ボタン

1. ウェブページのコンテンツでは、下にある次の選択できる項目にフォーカスを移動します。

2. 下にある次のコントロールまたはウィジェットに(ボタンなど)フォーカスが移動します。

⑰ [－][＋] 音量ボタン

音量を調節します。ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

3.4. リモコンに乾電池を挿入する

リモコンは 2 本の 1.5V 単 4 乾電池で作動します。

乾電池を取り付ける、または交換する：

1. カバーを押してスライドさせ、開いてください。
2. 正しい極性 (+) と (-) で乾電池を挿入してください。
3. カバーを閉じてください。

注意：

乾電池を誤って使用すると、液漏れまたは爆発を引き起こす可能性があります。以下の指示に必ず従ってください：

- 正しい極性 (+ と -) で単 4 乾電池を挿入してください。
- 違う種類の乾電池を一緒にして使用しないでください。
- 使用済みの乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。そうしないと、液漏れが発生したり、乾電池の寿命が短くなったりする可能性があります。
- 切れた乾電池は乾電池収納部に液漏れする原因となるため、直ちに取出してください。皮膚が負傷する可能性があるため、乾電池の漏れた酸に触れないでください。
- バッテリーを火や高温のオープンに廃棄したり、バッテリーを機械的に押しつぶしたり切断したりすると、爆発する可能性があります。バッテリーを非常に高温の周囲環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏れが発生する可能性があります。バッテリーを非常に低い空気圧にさらすと、爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。

注記：長期間にわたって使用しない場合は、乾電池収納部から乾電池を取り外してください。

3.5. リモコンの取り扱い

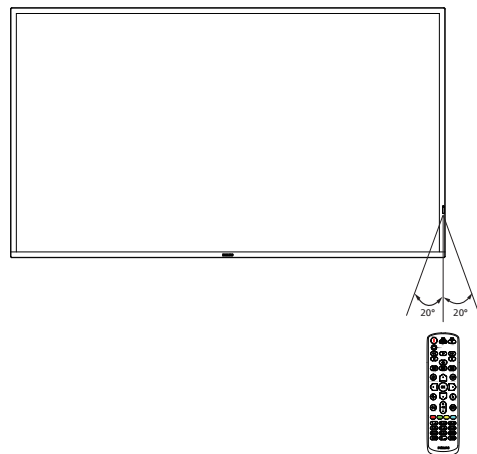
- リモコンを落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。
- リモコンの内部に液体が入らないようにしてください。リモコンに水が入った場合は、乾いた布で直ちに拭いてください。
- 熱や蒸気を発生するものの近くに、リモコンを置かないでください。
- リモコンの乾電池を交換する以外の場合、リモコンを分解しようとししないでください。

3.6. リモコンの動作範囲

ボタンを押すときに、リモコンの前面上部をディスプレイのリモートセンサーに向けてください。

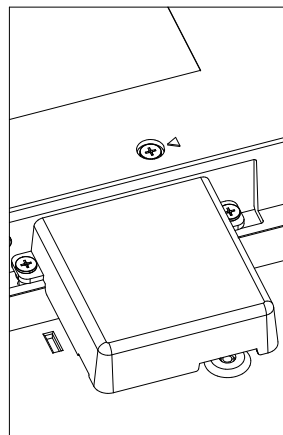
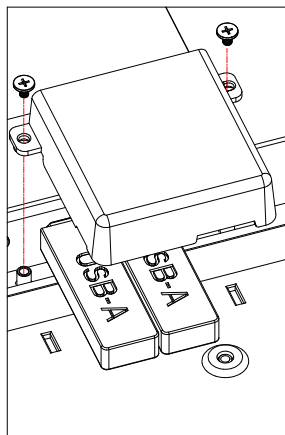
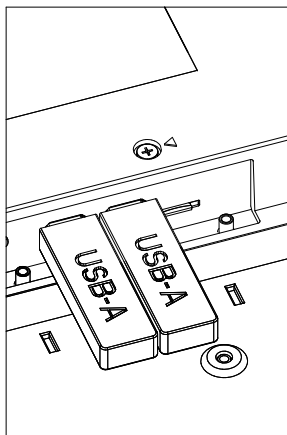
ディスプレイのセンサーから 4 メートル (16 フィート) 以内の距離で、水平方向と垂直方向に 20 度未満の範囲内でリモコンを使用してください。

注記：ディスプレイのリモコンセンサーに直射日光や強い照明が当たっていたり、またはリモコンとディスプレイのリモートセンサーの間に障害物がある場合は、リモコンが適切に作動しないことがあります。

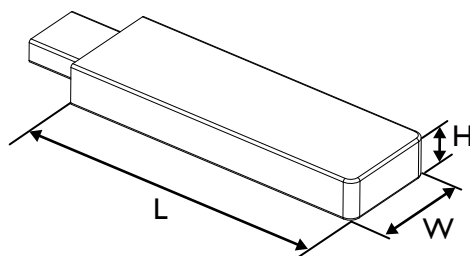


3.7. USB カバー

- USB カバーとネジで、USB スティックをカバーします。
1. USB デバイスを差し込み、micro SD カードを挿入します。
 2. 付属のネジを使用して、USB カバーを固定します。

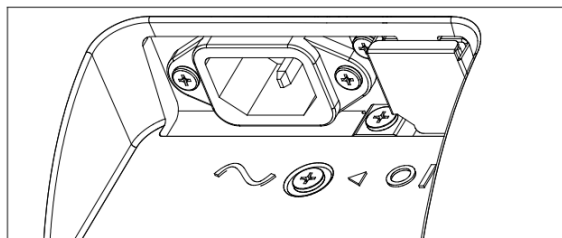
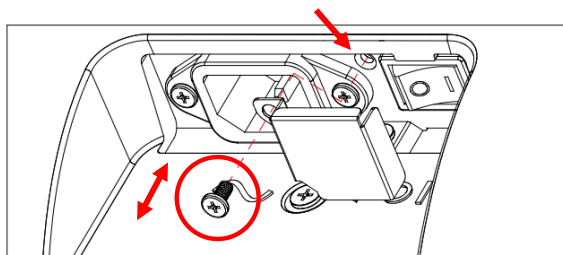


- フィットする USB スティックの最大サイズ:
USB: 20(幅)x10(高さ)x60(奥行)mm



3.8. AC スイッチカバー

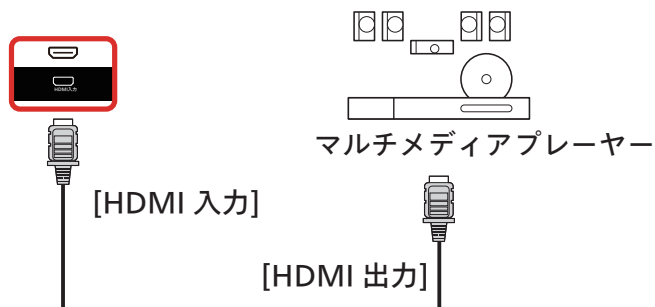
- AC スイッチカバーを使用して、AC スイッチをカバーします。
1. ネジを緩めます。
 2. AC スイッチカバーを取り付けます。
 3. ステップ 1 のネジで AC スイッチカバーを固定します。



4. 外部機器を接続する

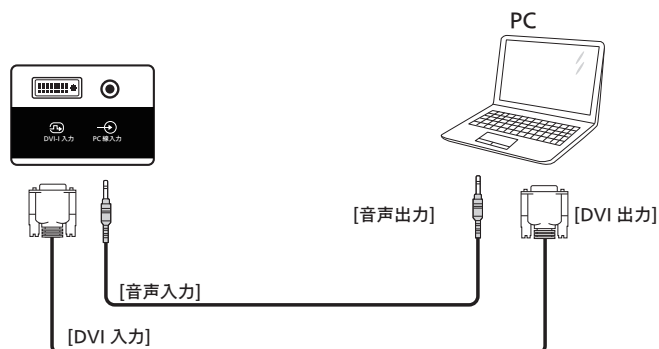
4.1. 外部機器の接続 (マルチメディアプレーヤー)

4.1.1. HDMI ビデオ入力の使用

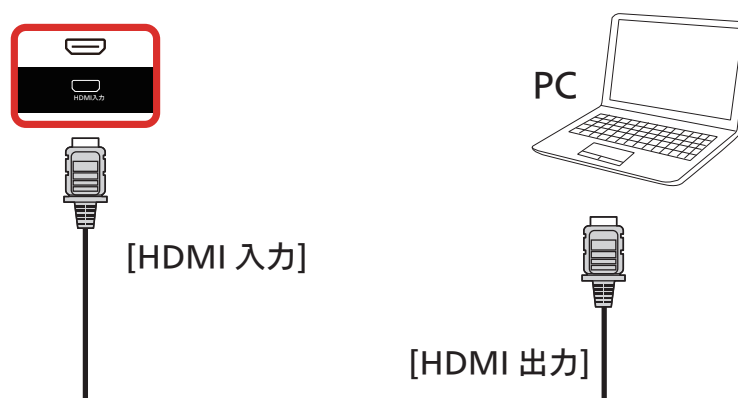


4.2. PC の接続

4.2.1. DVI 入力の使用



4.2.2. HDMI 入力の使用

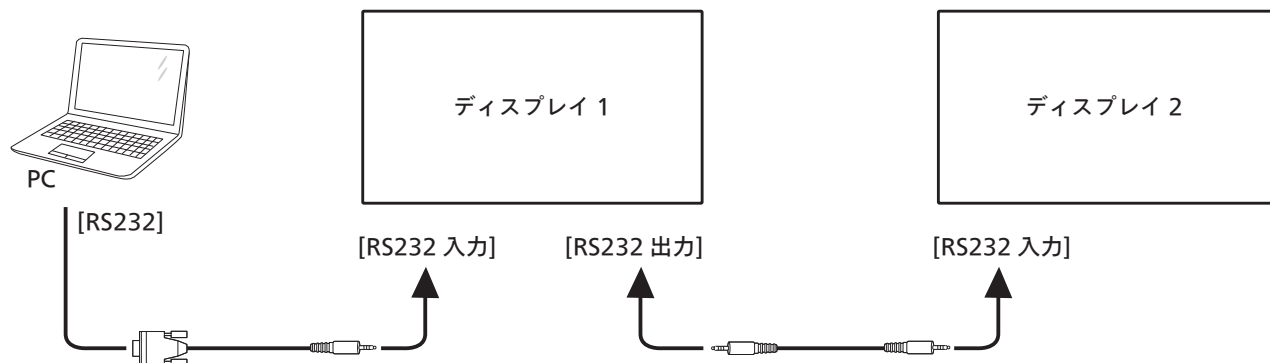


4.3. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する

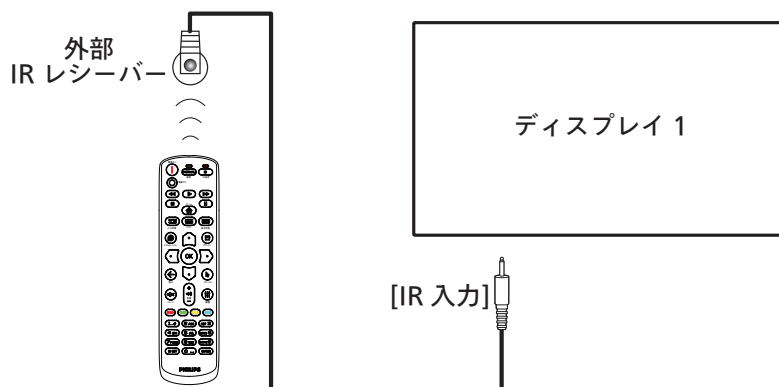
複数のディスプレイを相互接続し、メニューボードなどの用途向けに、デイジーチェーン構成を作成することが可能です。

4.3.1. ディスプレイコントロール接続

ディスプレイ 1 の [RS232 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [RS232 入力] コネクタに接続します。



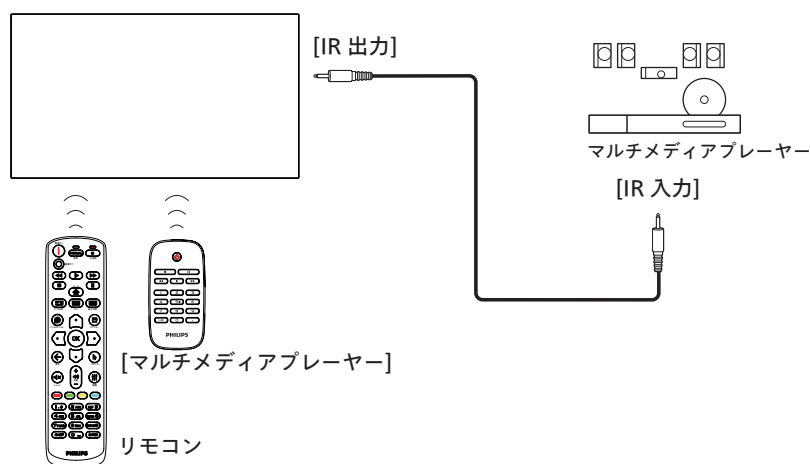
4.4. IR 接続



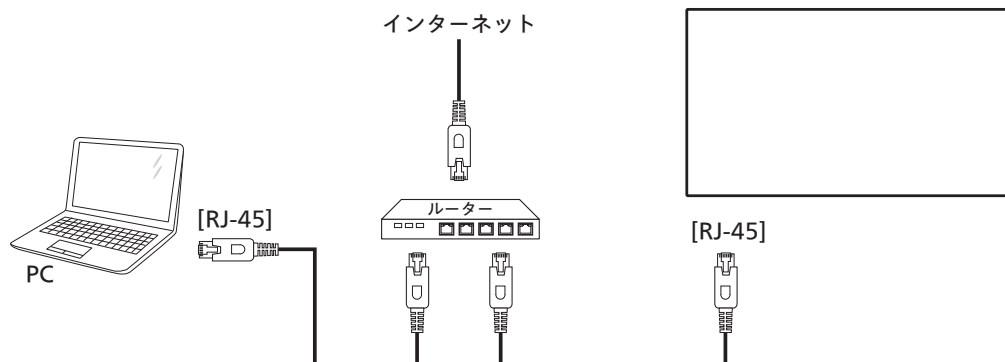
注記:

[IR 入力] が接続されている場合、本ディスプレイのリモコンセンサーは動作を停止します。

4.5. IR パススルー接続



4.6. ネットワークへの接続



ネットワーク設定:

1. ルーターの電源を入れ、DHCP 設定を有効にします。
 2. イーサネットケーブルを使って、ルーターを本ディスプレイに接続します。
 3. リモコンの [] ホームボタンを押した後に、**セットアップ**を選択します。
 4. **ネットワークに接続する**を選択して、[**OK**] ボタンを押します。
 5. 本ディスプレイがネットワーク接続を検出するまで待ちます。
 6. [エンドユーザーライセンス同意書] ウィンドウが表示されたら、同意書を受け入れてください。
- 注記: EMC 指令に準拠するため、シールドされた CAT-5 イーサネットケーブルを使って接続してください。

5. 取り扱い

注記: この章で説明されている操作ボタンは、特に記述のない限りリモコン上にあるボタンを指します。

5.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する

1. [] 入力切替ボタンを押します。
2. [] または [] ボタンを押して、デバイスを選択し、次に [] ボタンを押します。

5.2. 画像形式を変更します

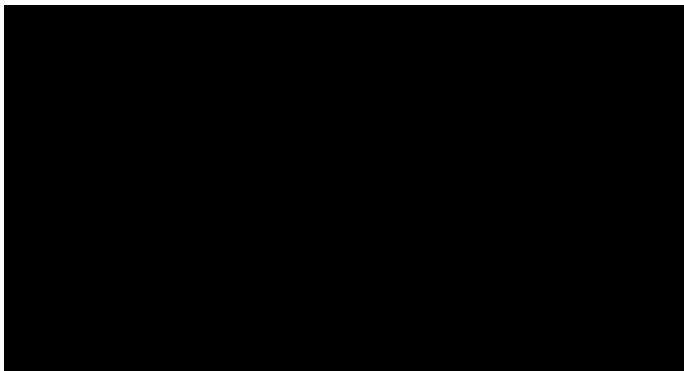
ビデオソースに合わせて画像フォーマットを変更することができます。それぞれのビデオソースに対して、使用可能な画像フォーマットがあります。

使用可能な画像フォーマットはビデオソースによって異なります。

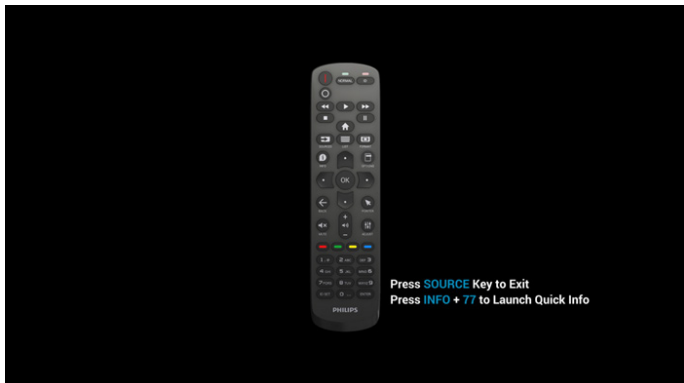
1. [] 表示切替 ボタンを押して画像フォーマットを選択します。
 - PC モード:{ フル } / { 4:3 } / { リアル } / { 21:9 }。
 - ビデオモード:{ フル } / { 4:3 } / { リアル } / { 21:9 }。

5.3. 概要

1. Android PD 起動画面:
 - Android PD 起動画面は、以下に示すような黒いページです。



- 「戻る」キーを押してアプリを終了すると、画面が Android PD 起動画面に入ります。
- Android PD 起動画面に戻ると、ヒント画像が画面に 5 ~ 10 秒間表示されます。
- ヒント画像は、ソースキーを押して、ソースを変更できる旨を通知します。



2. 管理モード:
 - 「Home + 1888」を押すと管理モードに入ります。「ホーム」を押した時にホーム OSD メニューが表示されることを確認してから、その次に 1888 と押してください。「ホーム」キーを 2 回押すと有効なホットキーになりません。

- 管理モードは次のアプリで構成されています:「Settings(設定)」、「Apps(アプリケーション)」、「Network(ネットワーク)」、「Storage(ストレージ)」、「Help(ヘルプ)」。
- 管理モードを終了すると、システムは前回選択していたソースに戻ります。

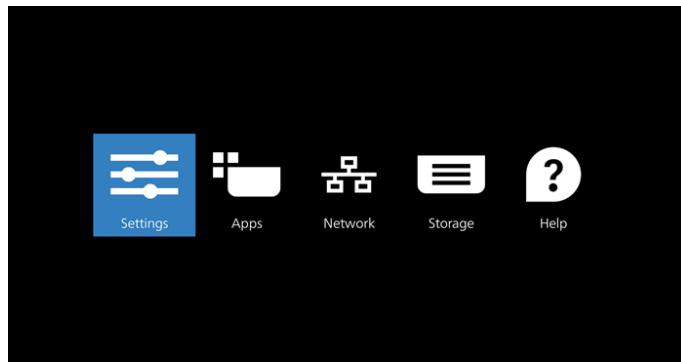
Settings (設定):「Settings(設定)」ページに進みます。

Applications (アプリケーション): すべてのアプリを表示します。

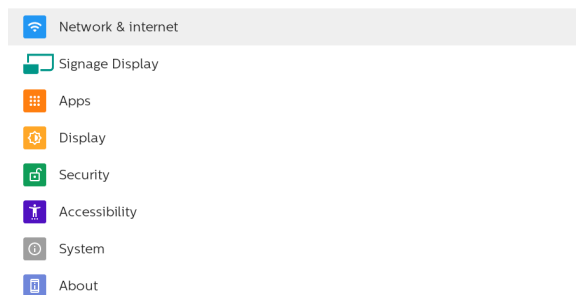
ネットワーク: イーサネットを設定します

Storage(ストレージ):「Storage(ストレージ)」ページに進みます。

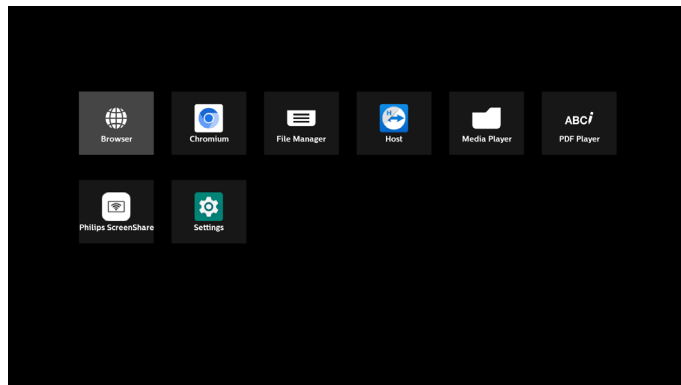
Help(ヘルプ): サポートを受けるための QR コードを表示します。



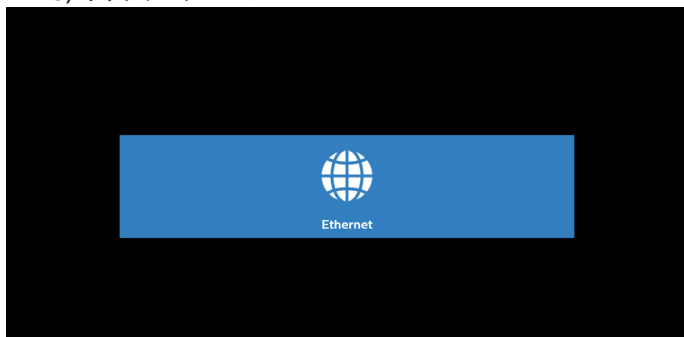
1) 設定ページ



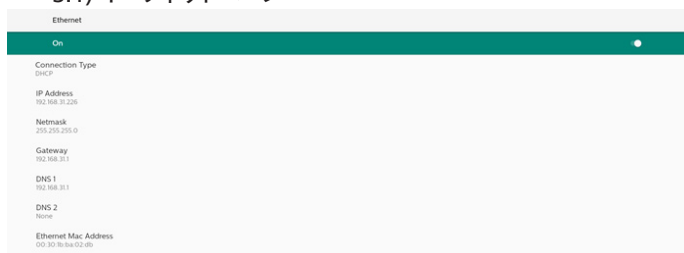
2) アプリケーションページ



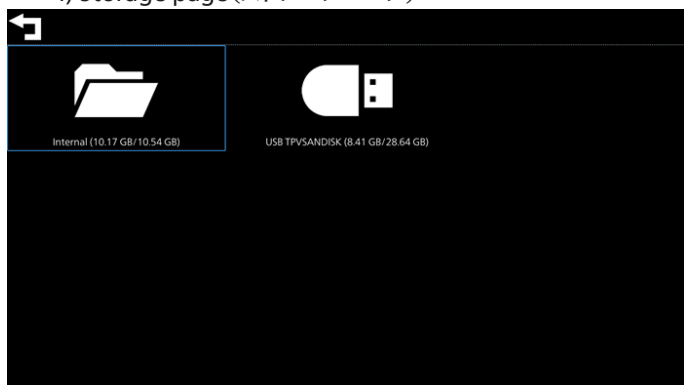
3) ネットワークページ



3.1) イーサネットページ

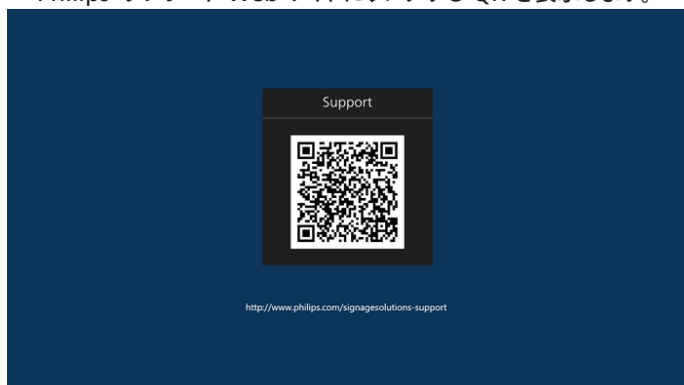


4) Storage page(ストレージページ):



5) Help page(ヘルプページ)

Philips のサポート Web サイトにリンクする QR を表示します。



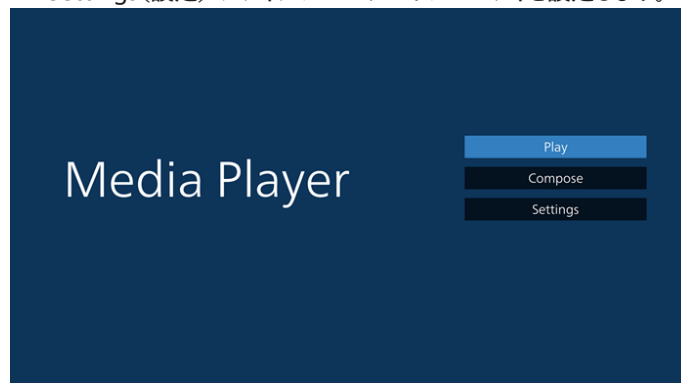
5.4. Media Player(メディアプレーヤー)

5.4.1. OSD メニューでのメディアプレーヤーの操作:

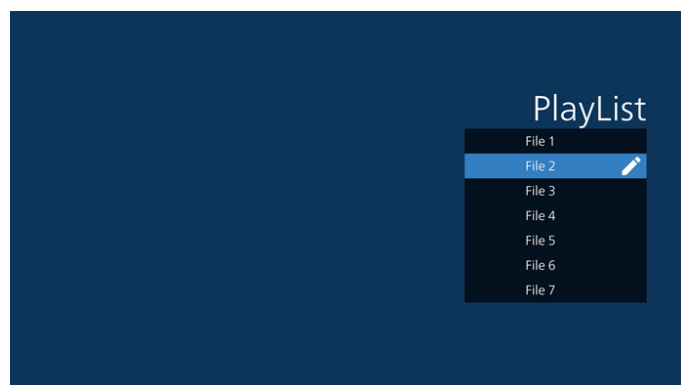
1. Boot on source(ソース起動):
 - 入力:
 - メディアプレーヤーをソースとして選択すると、起動プロセスが完了次第、システムは自動的にメディアプレーヤーに入ります。
 - プレイリスト:
 - 0:メディアプレーヤーのメインページに移動します。
 - 1-7:メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル1～ファイル7を自動的に再生します。
 - USB 自動再生:メディアプレーヤーに移動し、USB ファイルを自動的に再生します。
2. スケジュール:
 - Schedule list(スケジュール一覧):
 - 最大7つのスケジュールを設定します。
 - 有効:
 - スケジュールを有効 / 無効にします。
 - Start time(開始時間):
 - 開始時間を設定します。
 - End time(終了時間):
 - 終了時間を設定します。
 - プレイリスト:
 - 1～7:メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル1～ファイル7を自動的に再生します。
 - USB 自動再生:メディアプレーヤーは、USB ストレージ内のメディアファイルを自動再生します。
 - Days of the week(曜日):
 - 日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日を設定します。
 - Every week(毎週):
 - 毎週のスケジュールを設定します。
 - 保存:
 - スケジュールを保存します。

5.4.2. メディアプレーヤーのご紹介:

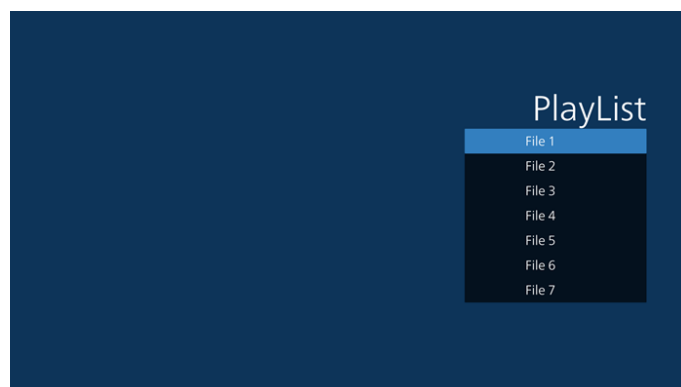
1. メディアプレーヤーのメインページです。このページは3つのオプション(「Play(再生)」、「Compose(構成)」、「Settings(設定)」)で構成されます。
 Play(再生):再生するプレイリストを選択します。
 Compose(構成):プレイリストを編集します。
 Settings(設定):メディアプレーヤーのプロパティを設定します。



2. メインページで「Play(再生)」を選択し、最初に、ファイル1とファイル7の間から再生する1つのプレイリストを選択する必要があります。鉛筆アイコンは、プレイリストが空ではないことを意味します。



3. メインページで「Compose(構成)」を選択します。最初に、ファイル1～ファイル7の中から編集するプレイリストを選択します。鉛筆アイコンは、プレイリストが空ではないことを意味します。

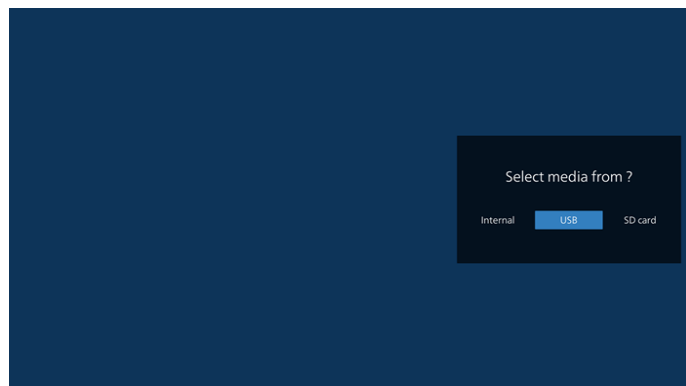


4. 空のプレイリストを選択した場合、アプリはメディアソースを選択するようにガイドします。

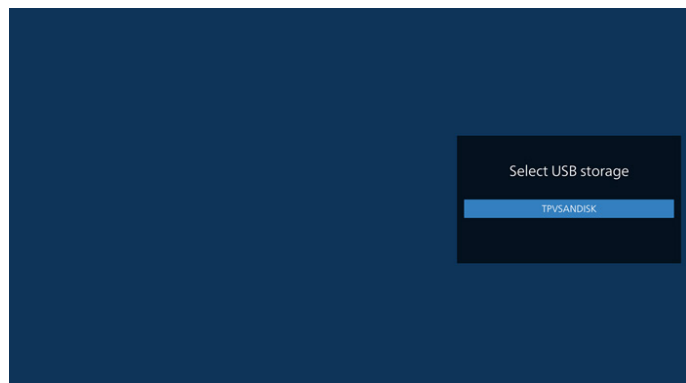
すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの /philips/ に保存する必要があります。

例えば、

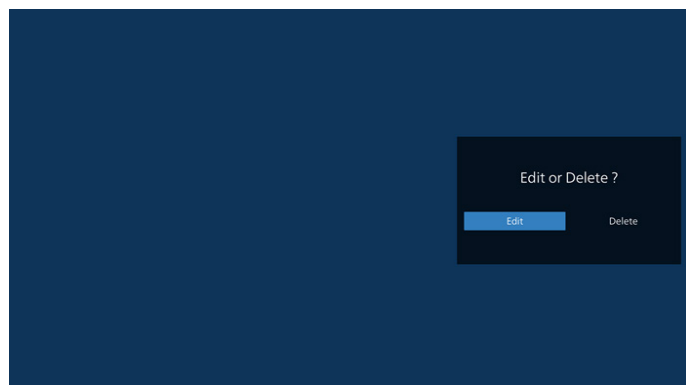
- /philips/video/ の動画
- /philips/photo/ の写真
- /philips/music/ の音楽



5. 「USB」ストレージを選択すると、アプリが USB デバイスの選択をガイドします。

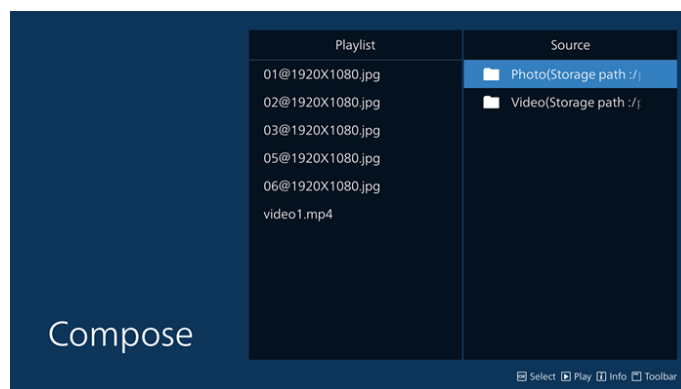


6. 空でないプレイリストを編集または削除するには、ファイルの右側に鉛筆アイコンが付いているプレイリストを選択します。



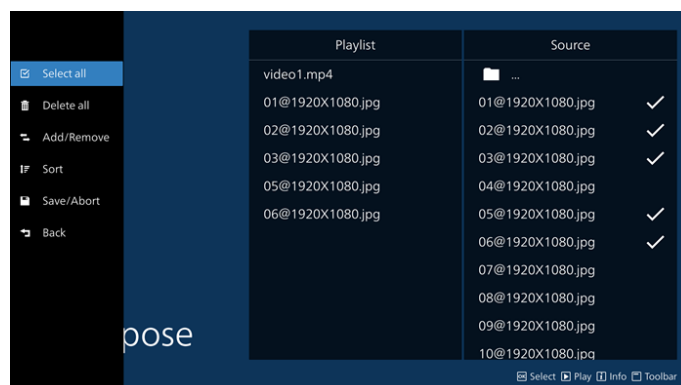
7. プレイリストを編集し始めると、以下の画面が表示されます。
 Source(ソース) - ストレージ内のファイル。
 Playlist(プレイリスト) - プレイリスト内のファイル。
 Option(オプション) - サイドメニューバーを起動します。
 Play(再生) - メディアファイルを再生します。
 Info(情報) - メディア情報を表示します。
 Touch file(タッチファイル) - ファイルを選択 / 選択解除します。

注記: ソース内のディレクトリの 1 つを長押しすると、フルパスが表示されます。



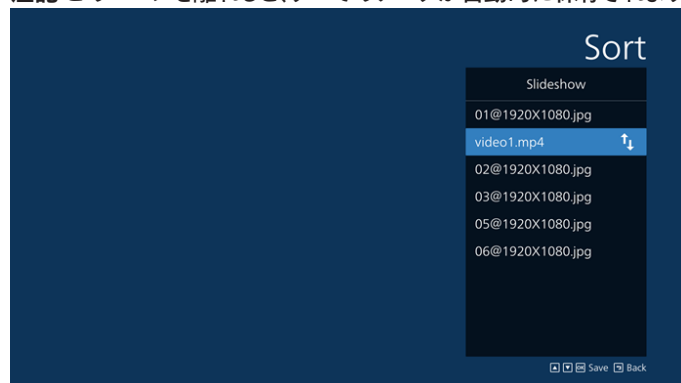
- 7.1 サイドメニューバーから、次の機能を使用できます。

- Select all (すべて選択): すべてのストレージファイルを選択します。
- Delete all(すべて削除): すべてのプレイリストファイルを削除します。
- Add/Remove (追加 / 削除): ソースから再生一覧を更新します。
- Sort (並べ替え): 再生一覧を並べ替えます。
- Save/abort (保存 / 中断): 再生一覧を保存または中断します。
- Back(戻る): 前のメニューに戻ります。

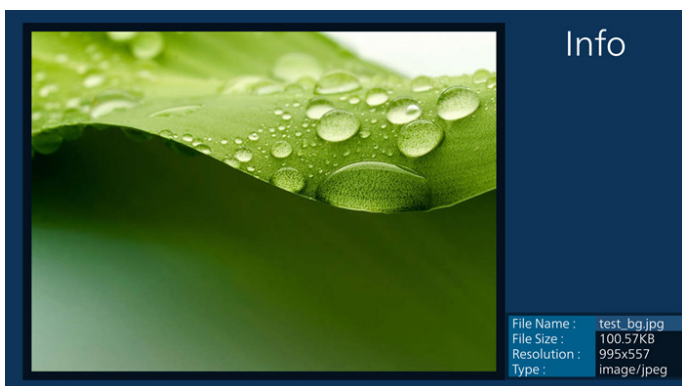


8. 「Sort(並べ替え)」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタマイズできます。

注記: このページを離れると、すべてのデータが自動的に保存されます。



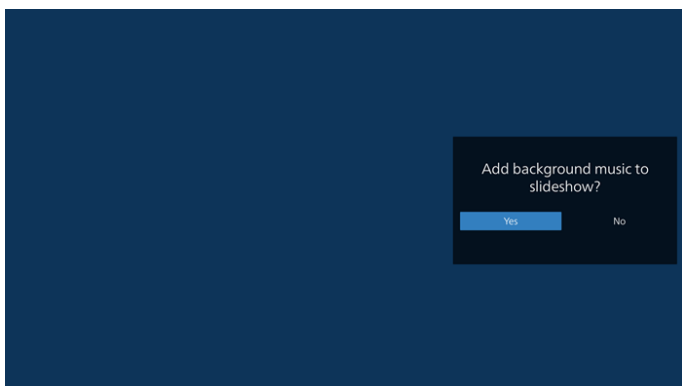
9. 目的のファイルを選択した後、「Info(情報)」キーを押して詳細情報を取得します。



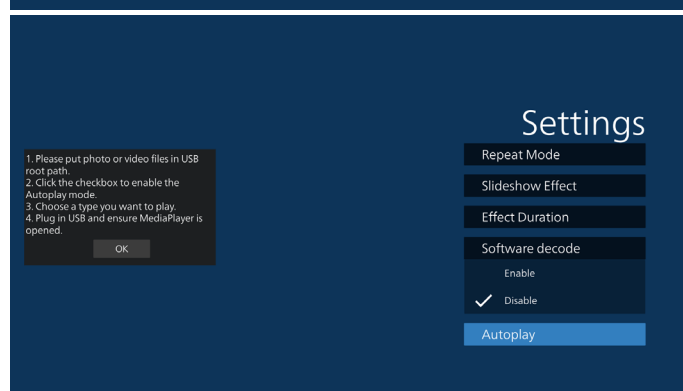
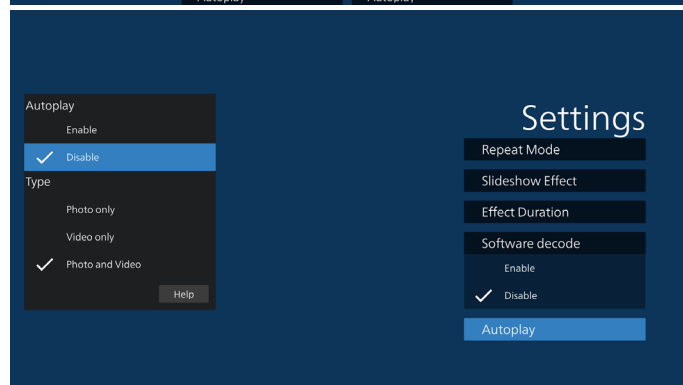
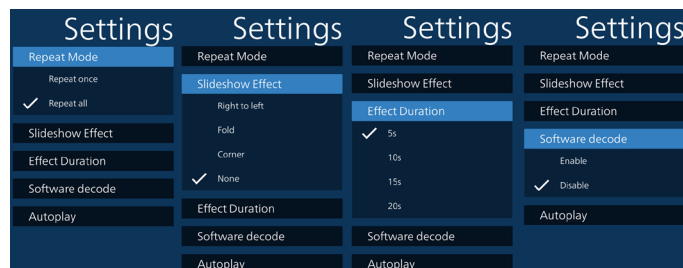
10. 目的のファイルを選択した後、「Play(再生)」キーを押してメディアファイルを直ちに再生します。



11. すべての画像ファイルでプレイリストを作成した場合は、保存する前にスライドショーに BGM を追加するように求められます。



12. メインページで「Settings(設定)」を選択します。次の 5 つのオプションが利用可能です。「Repeat Mode」(繰り返しモード)、「Slideshow Effect」(スライドショー効果)、「Effect Duration」(効果時間)、「Software Decode」(ソフトウェアデコード)、「Autoplay」(自動再生)があります。
- Repeat Mode(繰り返しモード): [1 回繰り返す] または [すべて繰り返す] を選択します。
 - Slideshow Effect(スライドショー効果): 写真スライドショーの効果。
 - Effect Duration(効果時間): 写真の効果時間。
 - Software Decode(ソフトウェアデコード): ビデオ再生の間にブラック画面を表示しません。
 - Autoplay(自動再生): USB デバイスを接続すると、USB ルートパスからファイルが自動的に再生されます。



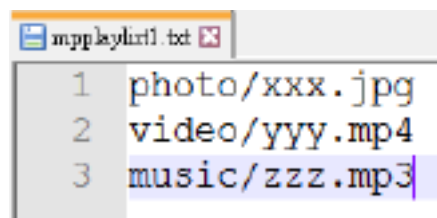
13. メディアプレーヤーによるテキストファイルのインポート

ステップ 1、メディアプレーヤーテキストファイルを作成します。

- ファイル名: mpplaylistX.txt。「X」が再生一覧の番号です (1、2、3、4、5、6、7)。

例: mpplaylist1.txt, mpplaylist2.txt

- 内容:



注記: プレイリストに動画ファイルと音楽ファイルが含まれている場合、音楽ファイルを再生すると画面が真っ暗になります。

ステップ 2、「mpplaylistX.txt」を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス: /storage/emulated/legacy/philips (DL、PL の場合)
例: /storage/emulated/legacy/philips/mpplaylist1.txt

ステップ 3、「philips」フォルダ内の「photo」、「video」、「music」フォルダにメディアファイルを準備します(内部ストレージのみ)。

- 例: /storage/emulated/legacy/philips/photo/xxx.jpg
/storage/emulated/legacy/philips/video/yyy.mp4
/storage/emulated/legacy/philips/photo/zzz.mp3

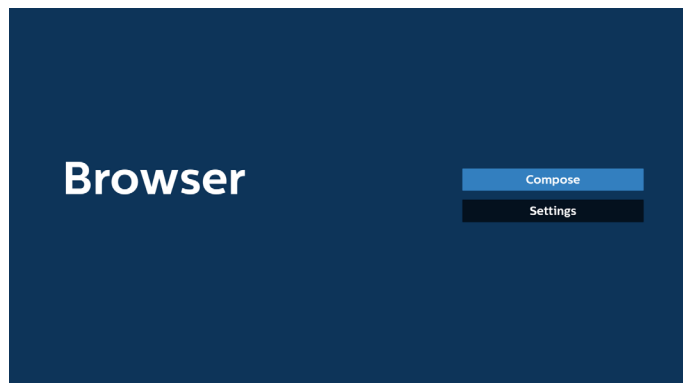
ステップ 4、メディアプレーヤーアプリを開始すると、メディアプレーヤーテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記: プレイリストファイル(テキスト)をインポートした後に、リモコンを使ってユーザーがプレイリストを変更した場合、この変更はプレイリストテキストファイルには反映されません。

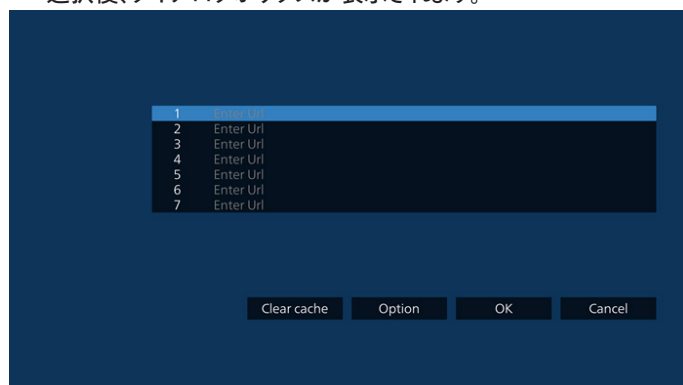
5.5. ブラウザー

この機能を使用する前に、システムがネットワークに正常に接続されていることを確認してください。

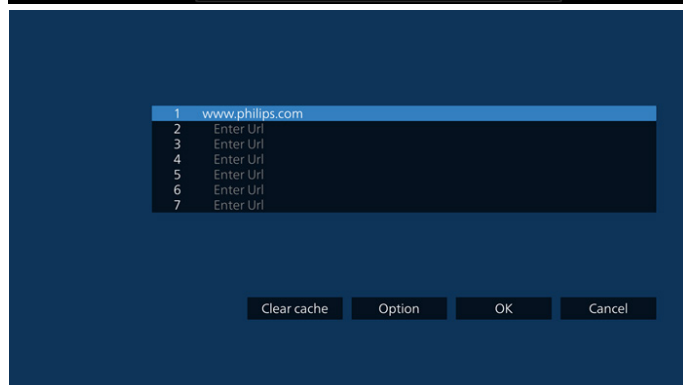
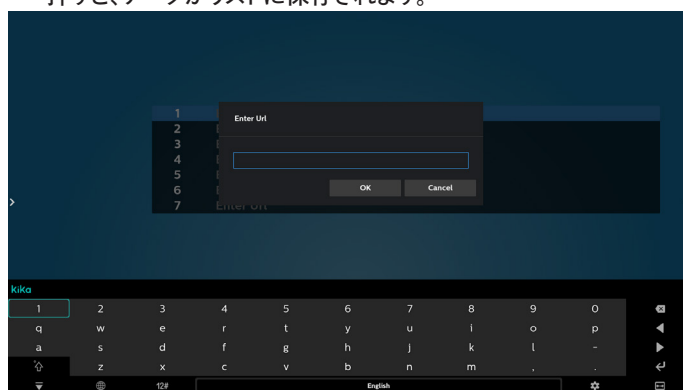
1. 関連する設定ができる「Browser(ブラウザー)」アプリのメインページ。



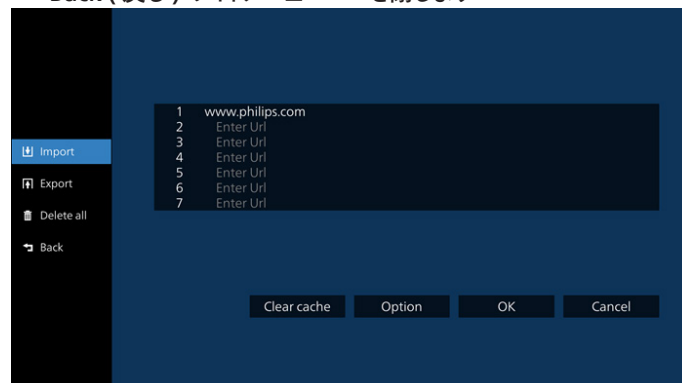
2. 「Compose(構成)」を押して、次のページに入ります。ユーザーは、1～7を選択することができます。選択後、ダイアログボックスが表示されます。



3. オンスクリーンキーボードを使用して URL を入力し、OK ボタンを押すと、データがリストに保存されます。

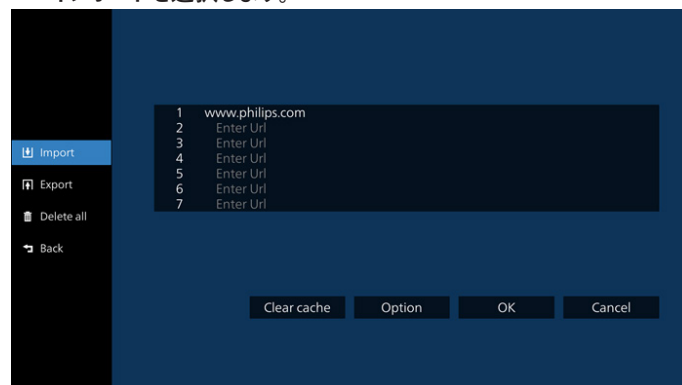


4. 「Option(オプション)」を押すと、左側に一覧が表示されます。
Import(インポート):URL リストのファイルをインポートします
Export (エクスポート):URL リストのファイルをエクスポートします
Delete all (すべて削除):メイン画面からすべての URL レコードを削除します
Back (戻る):サイドメニューバーを閉じます

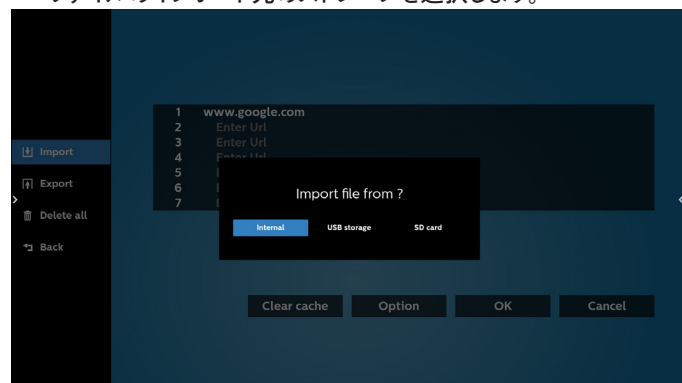


4.1 Import(インポート)

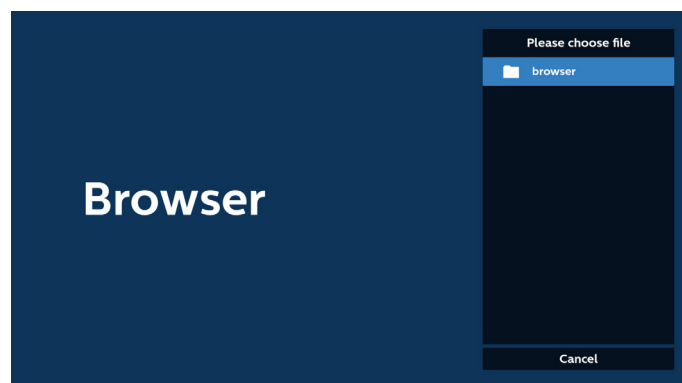
- インポートを選択します。



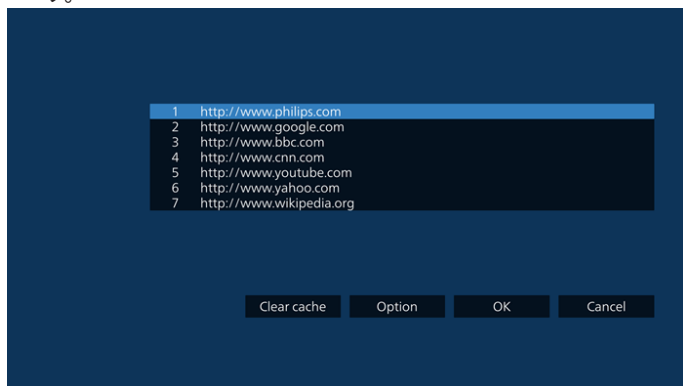
- ファイルのインポート元のストレージを選択します。



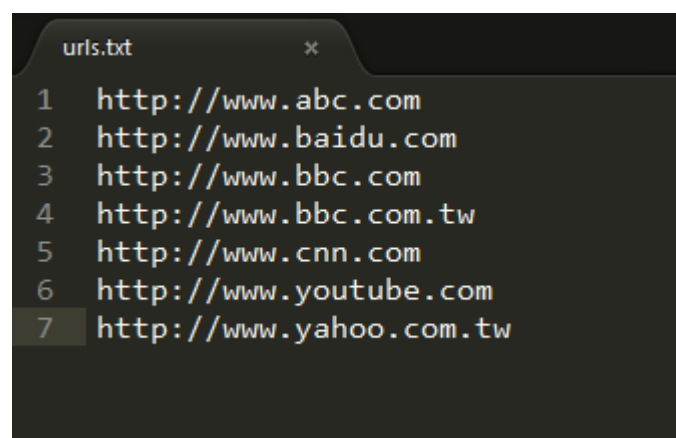
- ブラウザーファイルを選択します。



- ブラウザーファイルをインポートすると、URL が画面に表示されます。

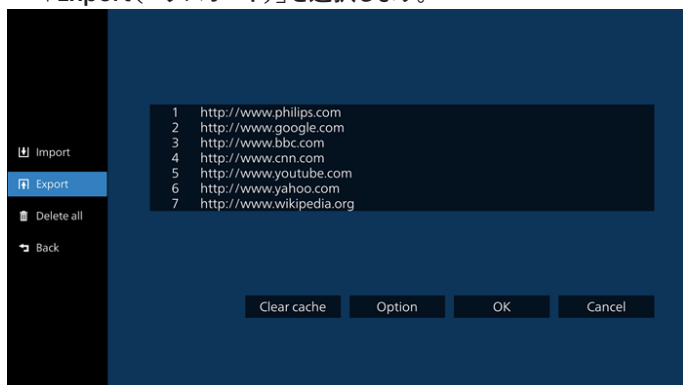


- インポートに利用できるファイル形式は「.txt」です。

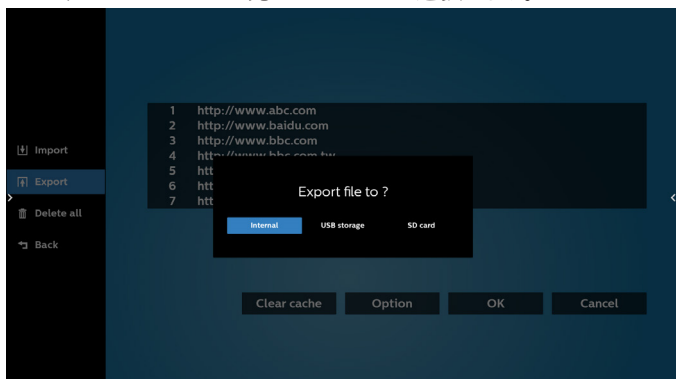


4.2 Export(エクスポート):

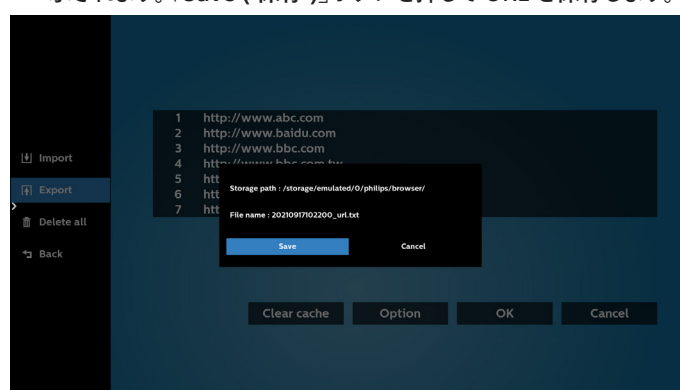
- 「Export(エクスポート)」を選択します。



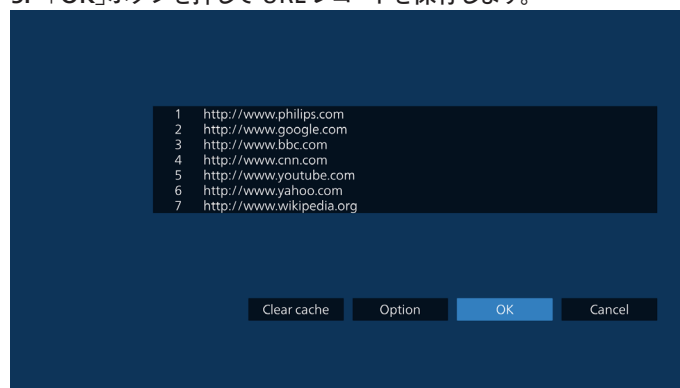
- ファイルのインポート先のストレージを選択します。



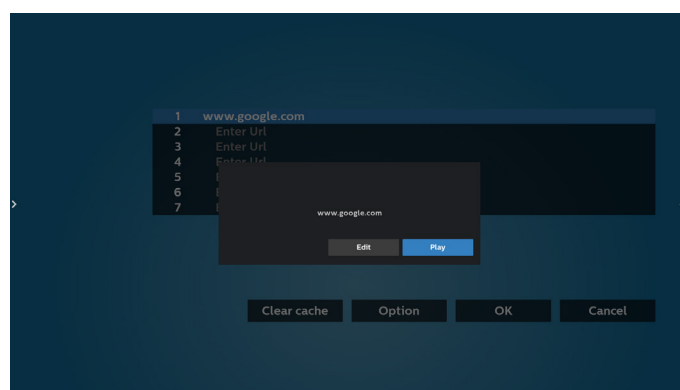
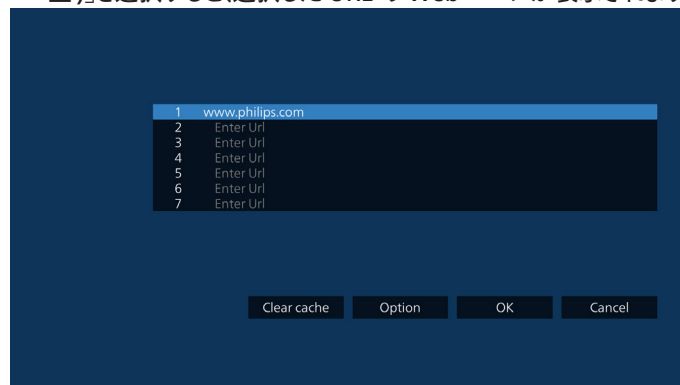
- ダイアログボックスに、保存するファイルのパスとファイル名が表示されます。「Save (保存)」ボタンを押して URL を保存します。



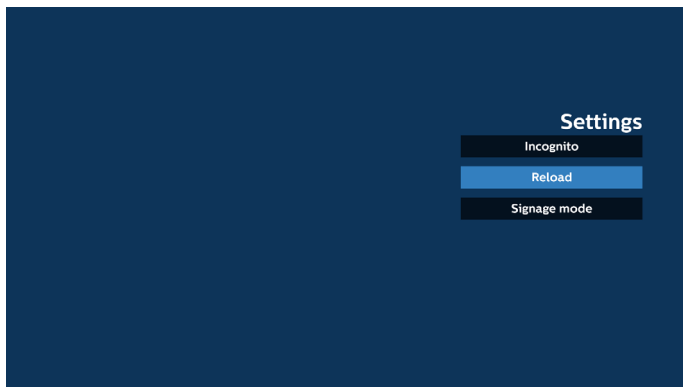
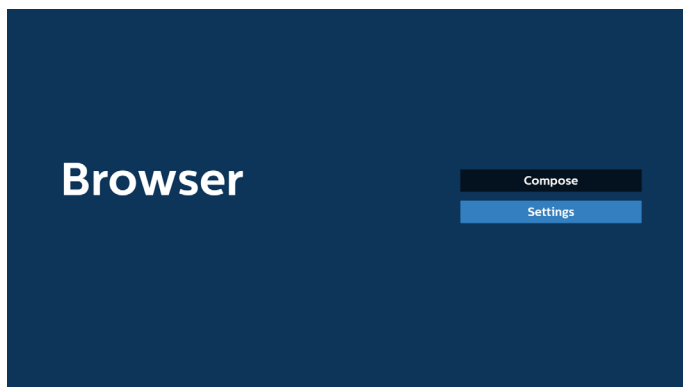
- 5. 「OK」ボタンを押して URL レコードを保存します。



- 6. URL 一覧から空でない項目を選択すると、URL を編集するか再生するかを尋ねるメッセージが表示されます。「Edit (編集)」を選択すると、ダイアログボックスで URL を編集できます。「Play (再生)」を選択すると、選択した URL の Web ページが表示されます。

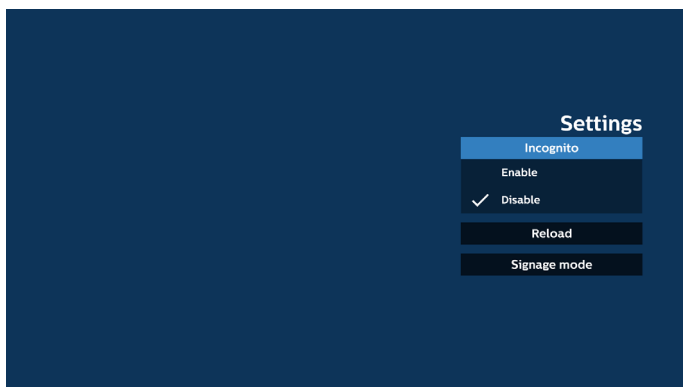


7. 「Settings(設定)」を押して、次のページに入ります。



7.1 Incognito(匿名)

- a. 有効: Incognito モードを使用してウェブページを表示します。
- b. Disable (無効): 非 Incognito モードを使用してウェブページを表示します。



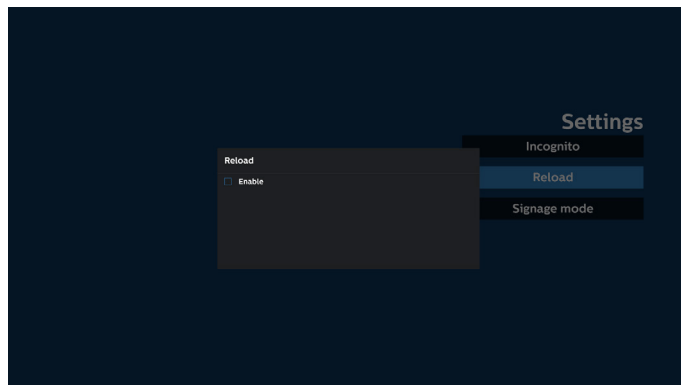
7.2 Reload (リロード)

ユーザーがウェブページのリロード時間を設定できるようにします。
a. 「Enable(有効)」チェックボックスにチェックが入っていない場合、デフォルトのリロード時間は 60 秒です。

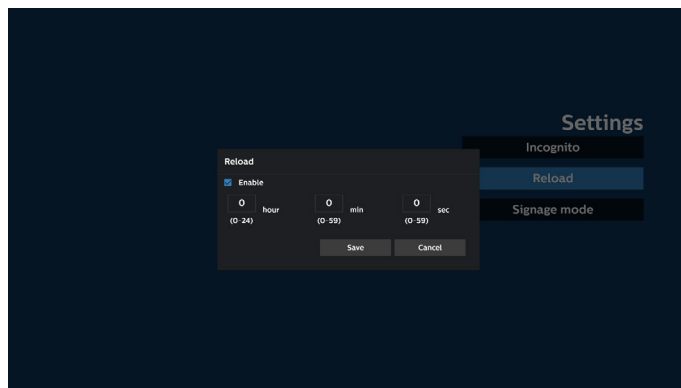
注記:

この場合、ウェブページは、ネットワークの状態が変更されたときにのみリロードされます。

ネットワーク状態が常に接続となっている場合、60 秒後にウェブページはリロードされません。



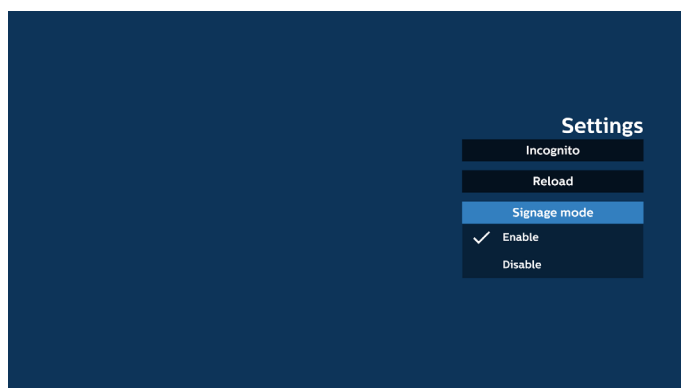
- b. 「Enable(有効)」チェックボックスにチェックが入っている場合、リロード時間を設定できます。



7.3 Signage mode(サイネージモード)

ユーザーが別のアプリのアクティビティから戻るとき、ブラウザー構成ページに戻れるようにします。ブラウザー画面を最新の Web ページに維持できないようにします。オプションはデフォルトで有効になっています。

www.google.com を開いて、「PDF デモファイル」を検索します。検索結果で 1 つの PDF ファイルをクリックすると、PDF ファイルがダウンロードされ、開きます。オプションが有効になっている場合、「Back(戻る)」ボタンを押すと、ブラウザー構成ページに戻ります。無効になっている場合、画面は検索結果に戻ります。



8. ブラウザーでの OSD メニューの操作

8.1 Boot on source(ソース起動)

- 「OSD メニュー」> 「設定1メニュー」> 「ソース起動」の順に移動し、「ブラウザー再生一覧」を 0 に設定します。再起動後の入力ソースが「Browser(ブラウザー)」になります。
- OSD メニュー => 設定1メニュー => Boot on source (ソース起動) 入力で「ブラウザー」を選択し、次に、PD はブラウザーアプリの最初の URL を使って Web ページを表示します。

8.2 Schedule (スケジュール)

「OSD メニュー」>「Advanced option (アドバンスドオプションメニュー)」>「Schedule (スケジュール)」に移動し、「On time1 (オンタイム 1)」、「Off time2 (オフタイム 2)」、「Browser as input (入力をブラウザー)」、「Any day of the week (任意の曜日)」、「Play List (再生一覧)」として設定します。

次に、PD はブラウザーアプリの URL を使って Web ページを時刻 1 に表示し、時刻 2 に終了します。

9. FTP を通して URL 一覧を編集する方法

ステップ 1、メディアプレーヤーのテキストファイルを作成します。

- ファイル名: bookmarklist.txt。
- 内容:



ステップ 2、bookmarklist.txt を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス: /storage/emulated/legacy/philips (DL、PL の場合)

例: /storage/emulated/legacy/philips/bookmarklist.txt

ステップ 3、ブラウザーアプリを起動すると、ブラウザーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記: プレイリストファイル (テキスト) がインポートされると、リモコンで行った変更はプレイリストテキストファイルに記録されません。

10. オフラインブラウジング

URL1 でアドレスを設定し、OSD スケジュールを使用して URL1 Web ページを開く場合、ブラウザーアプリは URL1 のホームページデータをローカルストレージに自動的に保存します。

OSD スケジューラーがブラウザーアプリを開いているときにネットワークが切断されると、ブラウザーアプリはローカルストレージから URL 1 アドレスのホームページを自動的に開きます。

注記:

- a. ブラウザーアプリは URL1 アドレスのホームページデータのみを保存でき、URL2 から URL7 のデータは保存できません。
- b. ローカルストレージ: /storage/sdcard0/Android/data/org.chromium.chrome/files/Download/OfflineBrowsing
- c. 「Clear cache (キャッシュのクリア)」ボタンを押すと、ローカルストレージから URL1 アドレスのホームページデータをクリアできます。

5.6. PDF Player(PDF リーダー)

5.6.1. PDF プレーヤーでの OSD メニューの操作:

1. Boot on source(ソース起動):
 - 入力:
 - 「PDF リーダー」をソースとして選択すると、起動プロセス完了後に PDF リーダーのページに自動的に移動します。
 - プレイリスト:
 - PDF プレーヤーのメインページに移動します。
 - プレイリスト 1 ~ 7:PDF リーダーに移動し、プレイリストのファイル 1 ~ ファイル 7 を自動的に再生します。
2. スケジュール:
 - Schedule list(スケジュール一覧):
 - 最大 7 つのスケジュールを設定します。
 - 有効:
 - スケジュールを有効 / 無効にします。
 - Start time(開始時間):
 - 開始時間を設定します。
 - End time(終了時間):
 - 終了時間を設定します。
 - プレイリスト:
 - 1 ~ 7: PDF プレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1 ~ ファイル 7 を自動的に再生します。
 - Days of the week(曜日):
 - 日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日を設定します。
 - Every week(毎週):
 - 毎週のスケジュールを設定します。

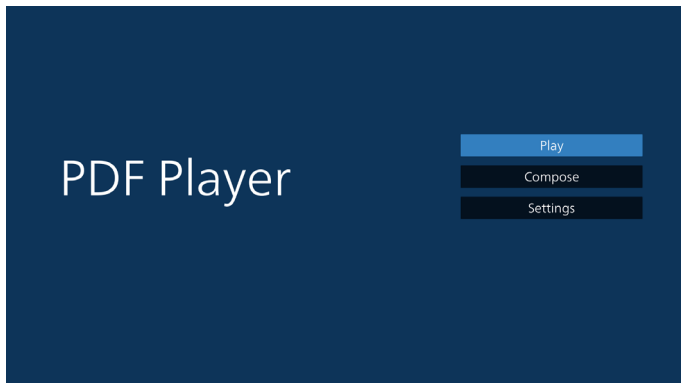
5.6.2. PDF プレーヤーのご紹介:

1. PDF リーダーのメインページです。このページは 3 つのオプション(「Play(再生)」、「Compose(構成)」、「Settings(設定)」)で構成されます。

Play(再生):再生するプレイリストを選択します。

Compose(構成):プレイリストを編集します。

Settings(設定):PDF リーダーのプロパティを設定します。



2. メインページで「Play(再生)」を選択し、最初に、ファイル 1 とファイル 7 の間から再生する 1 つのプレイリストを選択する必要があります。

鉛筆アイコンは、プレイリストが空ではないことを意味します。



3. メインページで「Compose(構成)」を選択します。最初に、ファイル 1 ~ ファイル 7 の中から編集するプレイリストを選択します。

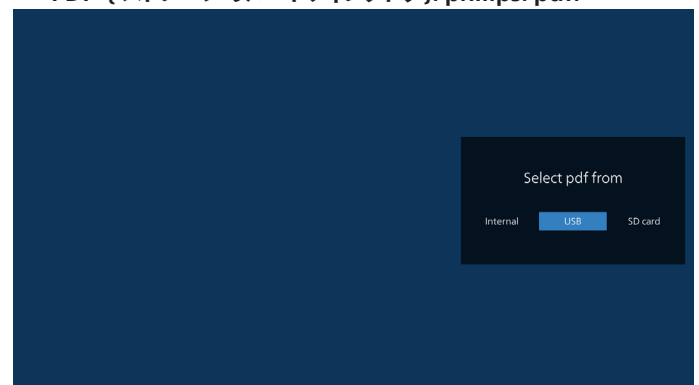
鉛筆アイコンは、プレイリストが空ではないことを意味します。



4. 空のプレイリストを選択した場合、アプリはメディアソースを選択するようにガイドします。

すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの /philips/ に保存する必要があります。例えば、

PDF:{ ストレージのルートディレクトリ }/philips/pdf/



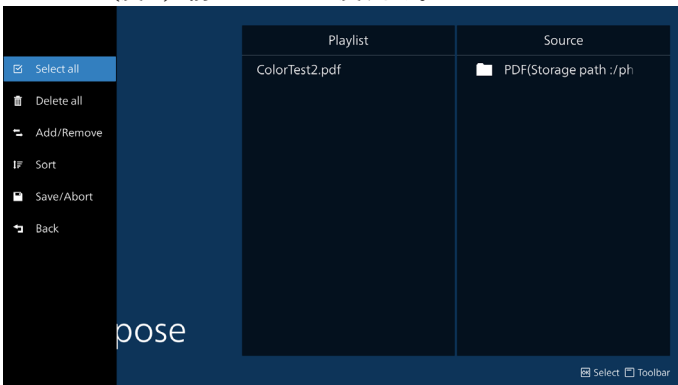
5. 空でないプレイリストを編集または削除するには、ファイルの右側に鉛筆アイコンが付いているプレイリストを選択します。



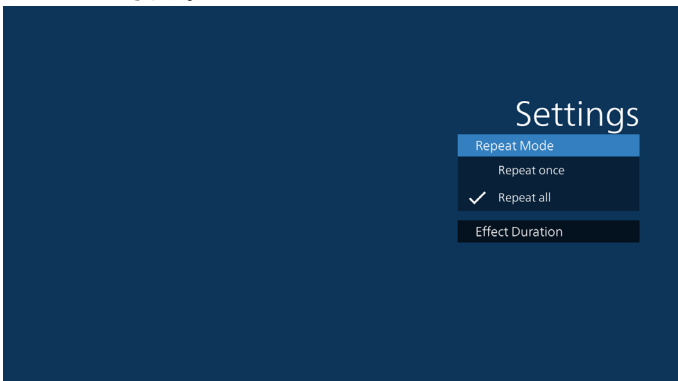
6. プレイリストを編集し始めると、メニューは次のように表示されます。
- Source(ソース) - メモリストレージに保存されるファイル。
 Playlist(プレイリスト) - プレイリストに保存されるファイル。
 以下の機能は、リモコンの対応するキーから操作できます。
 Option key(オプションキー) - サイドメニューバーを起動します
 Play key(再生キー) - メディアファイルを再生します。
 Info key(情報キー) - メディア情報を表示します。
 Ok key(OK キー) - ファイルを選択 / 選択解除します。

6-1. サイドメニューバーから、次の機能を使用できます。

- Select all(すべて選択) : ストレージ内に保存されたすべてのファイルを選択します。
- Delete all(すべて削除) : すべてのプレイリストファイルを削除します。
- Add/Remove(追加 / 削除) : ソースからプレイリストを追加または削除します。
- Sort(並び替え) : プレイリストを並び替えます。
- Save/abort(保存 / 中断) : プレイリストを保存または中断します。
- Back(戻る) : 前のメニューに戻ります。



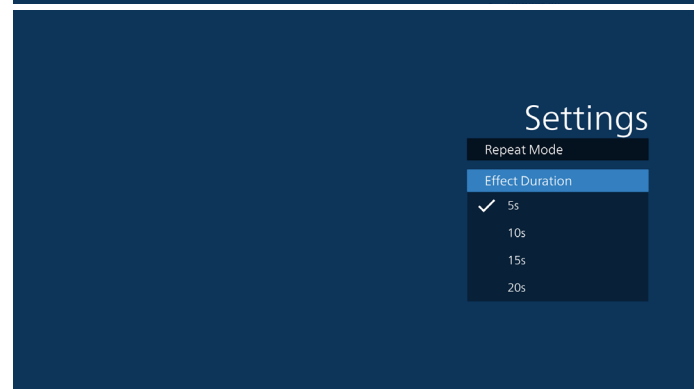
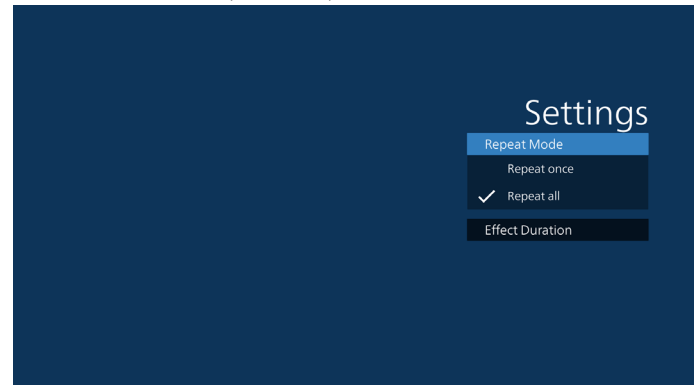
7. 「Sort (並び替え)」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタマイズできます。



8. メインページで「Settings(設定)」を選択します。2つのオプション: 繰り返しモードと効果時間があります。

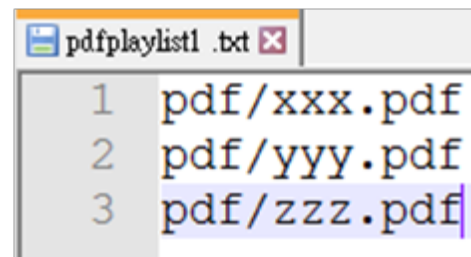
Repeat Mode(繰り返しモード) : 繰り返しモードを設定します。

Effect Duration(効果時間) : 写真の効果時間。



9. FTP を通して PDF 一覧を編集する方法:
 ステップ 1、PDF リーダーのテキストファイルを作成します。

- ファイル名: pdfplaylistX.txt。「X」が再生一覧の番号です(1、2、3、4、5、6、7)。
 例: pdfplaylist1.txt, pdfplaylist2.txt
- 内容:



ステップ 2、pdfplaylistX.txt を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス: /storage/emulated/legacy/philips (DL、PL の場合)
 例: /storage/emulated/legacy/philips/pdfplaylist1.txt

ステップ 3、内部ストレージの「Philips」フォルダにある「PDF」フォルダに PDF ファイルを追加します。

- 例: /storage/emulated/legacy/philips/pdf/xxx.pdf
 /storage/emulated/legacy/philips/pdf/yyy.pdf
 /storage/emulated/legacy/philips/pdf/zzz.pdf

ステップ 4、PDF リーダーアプリを起動すると、PDF リーダーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記: プレイリストファイル (テキスト) がインポートされると、リモコンで行った変更はプレイリストテキストファイルに記録されません。

メディアホットキー:

再生: メディアファイルを再生します。

一時停止: 一時停止します。

Fast forward (早送り): 次のページに移動します。ページがファイルの最後にある場合は、次のファイルに移動します。

Rewind (巻き戻し): 前のページに戻ります。ページがファイルの最初にある場合は、最後のファイルに移動します。

停止: ファイルの最初のページに戻ります。

矢印キー:

Left (左): 前のページに戻ります。

Right (右): 次のページに移動します。

組み合わせキー:

数字キー + OK キー: 特定のページを選択し、OK キーを押して、ページを変更します。

- 数字キーを押します。

- OK キーを押すと、ページ番号がページの下部に表示されます。ページ番号が合計ページ数を超えている場合、現在のページ番号はページの下部に表示されたままになります。

注記:

2 つ以上の USB ディスクを接続してプレイリストを編集する場合、USB ストレージパスが変更される可能性があるため、電源のオン / オフ後にプレイリストからの再生は保証されません。プレイリストを編集するときは、USB ディスクを 1 つだけ使用することを強くお勧めします。

5.7. カスタムアプリ

カスタマーソースに対してアプリケーションを設定します。

注記:

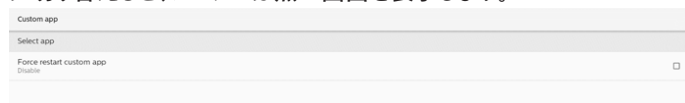
- (1) ユーザーがインストールしたアプリのみが表示されます。
- (2) プリインストールされているシステムのアプリは表示されません。

5.7.1. OSD メニューの操作:

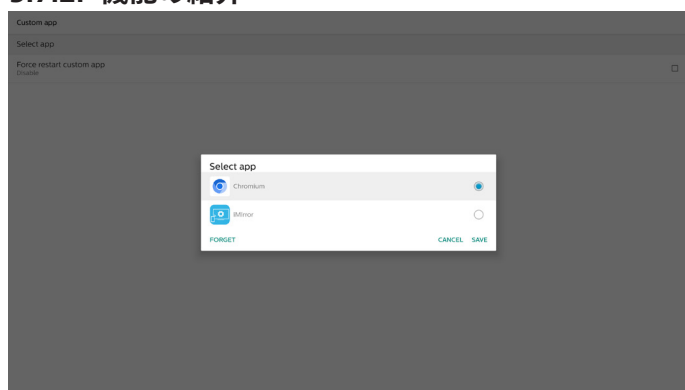
RCU:「Source(ソース)」->「Custom(カスタム)」

カスタマー APK を設定した場合、ソースをカスタマーモードに切り替えると、カスタマーアプリが起動します。

カスタマー APK が設定されていない場合、ソースをカスタマーモードに切り替えると、システムは黒い画面を表示します。



5.7.2. 機能の紹介



保存

「保存」を押すと、保存が実行されます。

Forget (削除)

「削除」を押すと、以前に保存した情報を削除できます。

キャンセル

ダイアログボックスをキャンセルして閉じます。

カスタマー APK がインストールされていない場合、一覧はブランクになります。

オプションがない場合は、「保存」/「削除」ボタンがグレー表示されます。

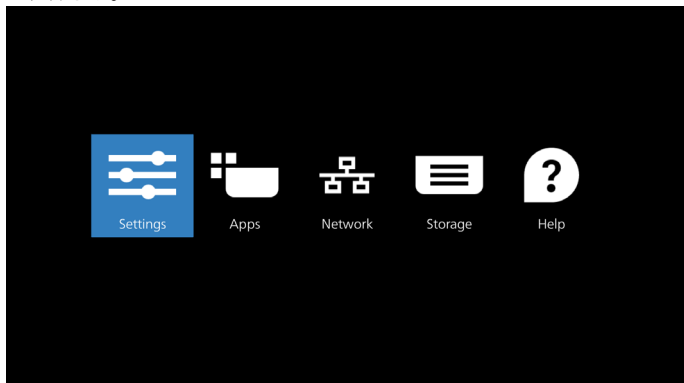
Force restart custom app(カスタムアプリの強制再起動)

例外によりアプリが終了した場合、アプリが自動的に再起動します。

6. 設定 UI

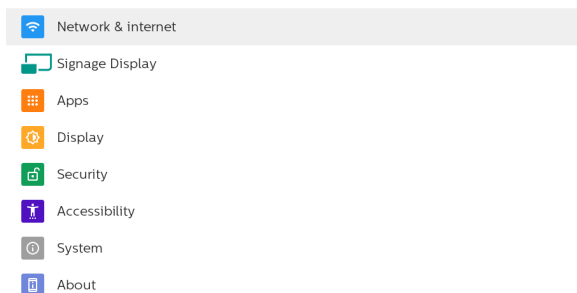
6.1. 設定

管理者モードで「Settings (設定)」アイコンをクリックして、PD 設定に入ります。



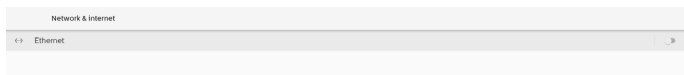
設定メニューは以下の項目で構成されています。

- (1). Network & Internet (ネットワークとインターネット)
- (2). Signage Display (サイネージディスプレイ)
- (3). Apps (アプリケーション)
- (4). Display (ディスプレイ)
- (5). Security (セキュリティ)
- (6). Accessibility (アクセシビリティ)
- (7). System (システム)
- (8). About (製品について)



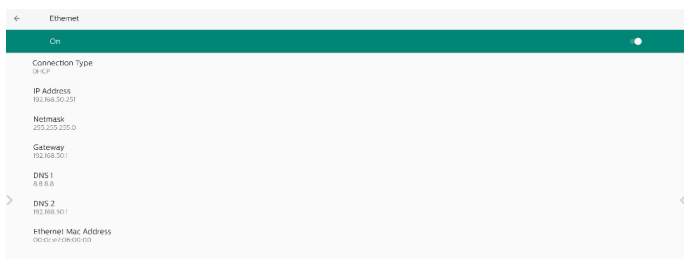
6.2. Network & Internet (ネットワークとインターネット)

イーサネット用の設定。



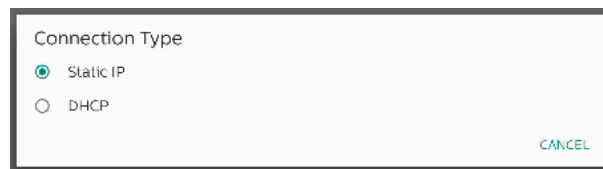
6.2.1. Ethernet (イーサネット)

タップしてイーサネットのオンおよびオフを切り替えます。



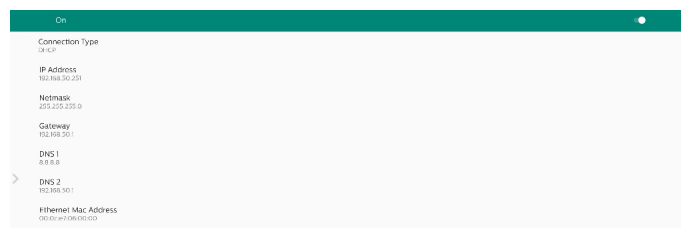
Connection Type (接続タイプ)

接続タイプを DHCP および静的 IP から選択します。



DHCP

IP アドレス、ネットマスク、DNS アドレス、ゲートウェイ設定は、DHCP サーバーによって割り当てられ、変更できません。接続に成功すると、現在のネットワーク設定が表示されます。

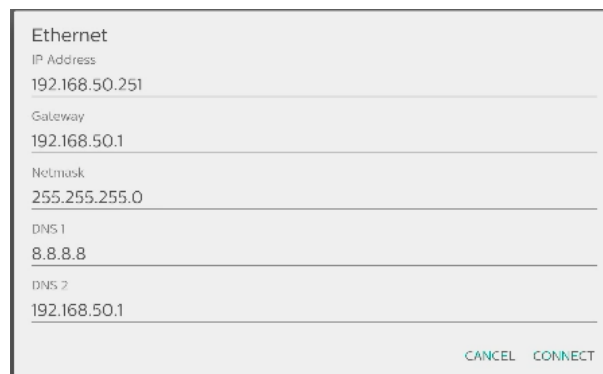


Static IP (静的 IP)

静的 IP 接続のタイプで、デバイスのイーサネットの IP アドレス、ネットマスク、DNS アドレス、ゲートウェイ設定を割り当てることができます。

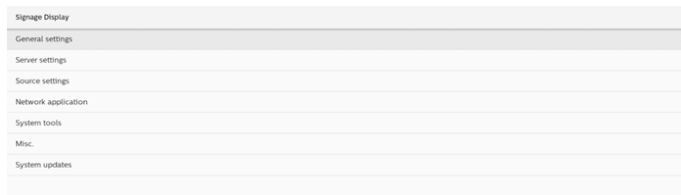
注記:

1. IP アドレス、ネットマスク、DNS サーバーアドレス、ゲートウェイアドレスが必要です。
2. 入力制限
形式: 数字の 0 ~ 9、小数点「.」

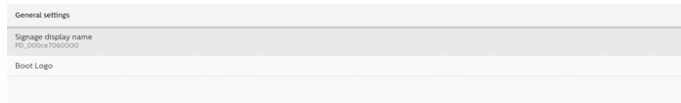


6.3. Signage Display(サイネージディスプレイ)

サイネージディスプレイの機能を設定します。



6.3.1. General Settings (一般設定)



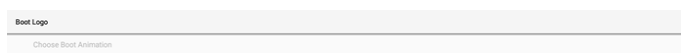
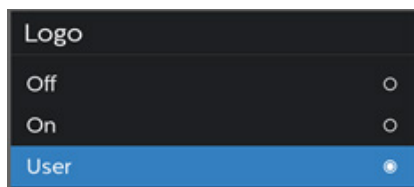
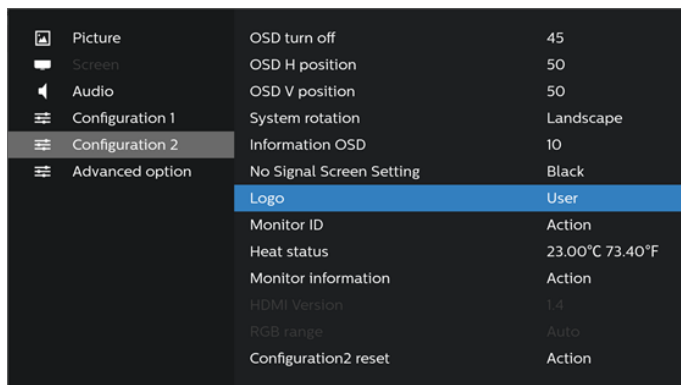
Signage Display Name(サイネージディスプレイ名)

デフォルトのサイネージディスプレイ名は「PD_{Ethernet_MAC_Address}」です。最大 36 文字で名前を変更できます。

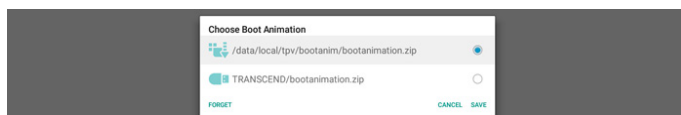


Boot Logo(ブートロゴ表示)

システム電源オン時の独自の起動アニメーションを設定します。このオプションは「OSD メニュー」->「Configuration(設定1メニュー)」で、「Logo(ロゴ)」が「User(ユーザー)」に設定されている場合のみ利用できます。



システムは、外部ストレージのルートフォルダで「bootanimation.zip」とユーザーが最後に保存した「bootanimation.zip」を検索して一覧表示します。「Save(保存)」が選択されると、システムは、/data/local/bootanimation/ フォルダに選択したファイルをコピーするか、bootanimation.zip ファイルを上書きします。



「FORGET(削除)」をクリックすると、/data/local/bootanimation/ フォルダに既に保存されている bootanimation.zip ファイルが削除されます。

6.3.1.1. Server Settings(サーバー設定)

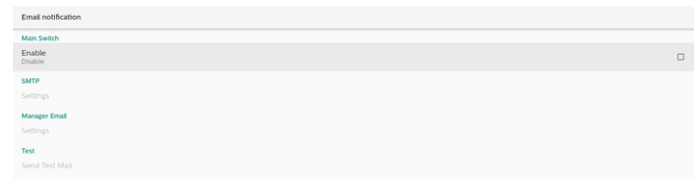
Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> Server Settings (サーバー設定)



Email Notification(電子メール通知)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> Server Settings(サーバー設定) -> Email Notification(電子メール通知)

チェックボックスをクリックして、電子メール通知機能を有効または無効にします。電子メール通知機能を有効にした後、SMTP および管理者メールアドレスを設定します。



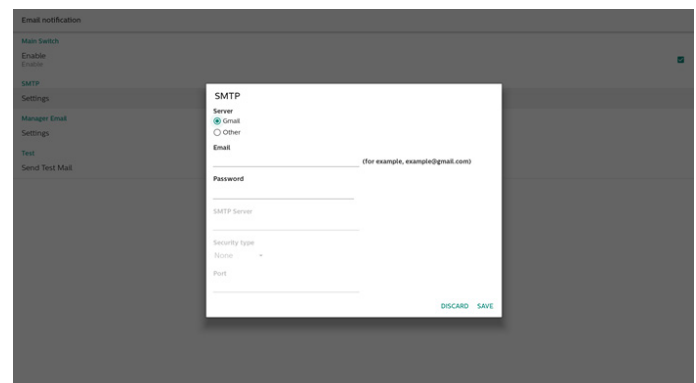
SMTP

送信者メールアドレスおよび SMTP サーバー情報を設定します。設定する次の 2 種類の SMTP サーバーがあります：「Gmail」および「Other(その他)」。「Other(その他)」オプションを使用すると、SMTP サーバー、セキュリティタイプ、サーバーポートを手動で設定できます。

注記:

1. パスワードは、6 ～ 20 文字の UTF8 形式にしてください。
2. ポート 5000(SICP デフォルトポート)およびポート 2121(FTP サーバーデフォルトポート)を設定できません。
「Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> Network Application(ネットワークアプリケーション) -> SICP network port(SICP ネットワークポート)」での SICP ネットワークポート設定。
「Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> Server settings(サーバー設定) -> FTP -> Port(ポート)」の FTP ネットワークポート設定。

Gmail: (SMTP サーバー、セキュリティタイプ、およびポートはグレー表示されています)



Google Account

← 2-Step Verification

Google Account

← 2-Step Verification

ステップ 4 - アプリのパスワードを作成

「App Password(アプリのパスワード)」オプションをクリックして、アプリの新規パスワードを作成します。

ステップ 5 - 新規アプリ名を追加

最初にデバイス(Windows コンピューターなど)を選択してから、「Select App(アプリの選択)」メニューをクリックして「Other (custom name)(その他(カスタム名))」をクリックします。

Google Account

← App passwords

カスタムのアプリケーション名を入力します(このフィールドには任意の名前を入力できます)。「Generate(生成)」ボタンをクリックします。(例:「SignageDisplay」をアプリ名として入力)

Google Account

← App passwords

自動生成されたアプリのパスワードを保存するか、選択してクリップボードにコピーし、後で使えるようにします。

Google Account

← App passwords

Manager Email(マネージャー電子メール)

電子メールを受信する宛先アドレスを指定します。

Test(テスト)

電子メールの設定が正しいかどうかを確認するには、「Send Test Mail(テストメールを送信)」を選択してテストメールを送信します。

FTP

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> Server Settings(サーバー設定) -> FTP

チェックボックスをクリックして、FTP サーバー機能を有効または無効にします。この機能を有効にした後、アカウント、パスワード、ポート番号を設定できます。

(1).Account(アカウント):FTP サーバーにログインするためのユーザ

一名の長さは、4 ～ 20 文字です。英数字 (a-z、A-Z、0 ～ 9) のみを使用できます。

- (2). Password (パスワード) : FTP サーバーにログインするためのパスワードの長さは、6 ～ 20 文字です。英数字 (a-z、A-Z、0-9) のみを使用できます。パスワードを設定すると、アスタリスクとして表示されます。
- (3). Storage path (ストレージパス) : FTP サーバーは、内部ストレージにのみアクセスします。ストレージパスは変更できません。
- (4). Port (ポート) : FTP サーバーのポート番号の範囲は、1025 ～ 65535 です。デフォルトは 2121 に設定されています。次のポート番号は使用できません:
8000/9988/15220/28123/28124 および SSCP ネットワークポート (デフォルト 5000)。

最後に、システムを手動で再起動して FTP 設定を適用します。

リモコン

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> Server Settings (サーバー設定) -> Remote Control (リモコン)



「Enable (有効)」チェックボックスをクリックして、リモートコントロールクライアントサービスを有効または無効にします。デフォルト設定は「Enabled (有効)」です。リモートコントロール機能を使用するには、デバイスがリモートコントロールサーバーにバインドされている必要があります。

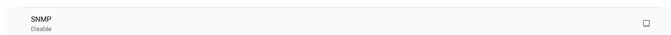
「Server (サーバー)」の入力フィールドに、プレフィックス「https://」を付けた URL アドレスを入力します。デバイスがリモートコントロールサーバーにバインドされていない場合は、サーバーから提供された PIN コードを入力してください。

バインドステータス:

- (1). デバイスに適切なネットワーク接続がない場合、「Network is disconnected (ネットワークが切断されました)」というメッセージが表示されます。
- (2). ネットワーク機能を搭載している状態で、リモコンサーバーに接続されていない場合は、「Server is disconnected (サーバーが切断されました)」というメッセージが表示されます。
- (3). サーバーが接続されている状態でバインドされていない場合、「Server is unbinded (サーバーはバインドされていません)」というメッセージが表示されます。
- (4). デバイスがサーバーに正常にバインドされると、「Server is binded (サーバーがバインドされました)」というメッセージが表示されます。
- (5). PIN コードが正しくない場合、「Error PIN code (エラー PIN コード)」というメッセージが表示されます。

SNMP

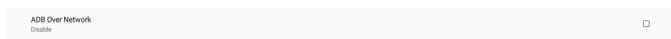
SNMP サービスを有効 / 無効にします。



SNMP ユーザーマニュアルを参照してください。

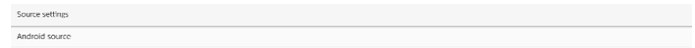
ADB over Network (ADB オーバーネットワーク)

ポート 5555 のネットワーク接続を介して ADB にアクセスできます。



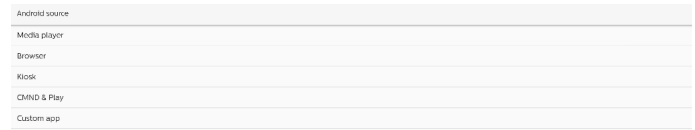
6.3.1.2. Source Settings (ソース設定)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> Source Settings (ソース設定)



Android Source (Android ソース)

Android ソース APK の詳細オプションを構成できます。



メディアプレーヤー

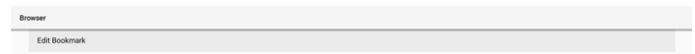
Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> Source Settings (ソース設定) -> Media Player (メディアプレーヤー)
メディアプレーヤー APK の再生一覧編集アクティビティを開き、効果設定アクティビティを編集します。



ブラウザー

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> Source Settings (ソース設定) -> Browser (ブラウザー)

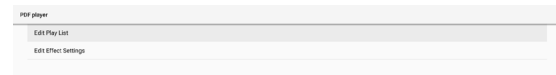
ブラウザー APK のメインアクティビティを開きます。



PDF プレーヤー

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> Source Settings (ソース設定) -> PDF Player (PDF リーダー)

PDF リーダー APK の再生一覧編集アクティビティを開き、効果設定アクティビティを編集します。



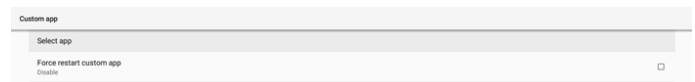
Custom app (カスタムアプリ)

「Settings (設定)」->「Signage Display (サイネージディスプレイ)」->「Source Settings (ソース設定)」->「Custom app (カスタムアプリ)」の順にアクセスします

カスタマーソース APK を設定できます。カスタマー入力ソースに切り替えると、選択された APK が起動します。カスタマーソース APK が設定されていない場合、カスタマー入力ソースに切り替えると、システムはホーム画面を表示します。

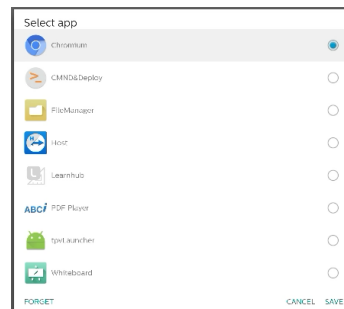
Select App (アプリの選択)

カスタムアプリソース用特定のアプリを選択します。



カスタムソースアプリ用の APK が設定すると、APK 名が表示されます。そうでない場合、カスタムアプリが構成されていないことを意味します。

カスタムアプリソース用特定のアプリを選択します。



注記:

ほとんどのプリインストール済みの APK は一覧に表示されません。ユーザーが手動でインストールした APK または削除可能な APK のみが一覧表示されます。

ボタン:

(1).FORGET(削除)

カスタムソースアプリケーションを消去します。カスタマーソースアプリケーションが設定されていない場合、グレー表示に変わります。

(2).CANCEL(キャンセル)

ダイアログボックスをキャンセルして閉じます。

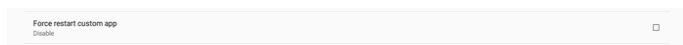
(3).SAVE(保存)

「SAVE(保存)」をクリックして、選択した APK をカスタムソースアプリケーションとして選択します。

カスタムアプリの強制再起動

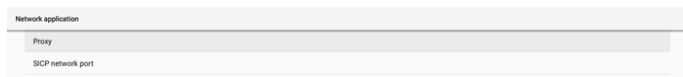
「カスタムアプリの強制再起動」が有効になっているとき、システムはカスタムアプリが存在するか、クラッシュしているかを監視できます。カスタムアプリが存在せず、「ソース起動」が「カスタムアプリ」に設定されている場合、システムはカスタムアプリの起動を再試行します。

デフォルトは無効です。



6.3.2. Network Application (ネットワークアプリケーション)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> Network Application(ネットワークアプリケーション)



Proxy(プロキシ)

「設定」->「サイネージディスプレイ」->「ネットワークアプリケーション」->「プロキシ」の順にアクセスします

「有効」チェックボックスをタップして、ネットワークプロキシを有効または無効にします。ホスト IP およびプロキシサーバーのポート番号を設定できます。デフォルトは無効です。



システムは次のプロキシタイプ: HTTP、HTTPS、SOCKS4、SOCKS5 をサポートします。プロキシサーバー用にいずれかを選択します。



プロキシサーバーにログイン名とパスワードによる認証が必要な場合、これらの項目のチェックボックスを有効にします。



SICP Network Port(SICP ネットワークポート)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> Network Application(ネットワークアプリケーション) -> SICP Network Port(SICP ネットワークポート)

SICP デフォルトポートを設定し、ネットワーク SICP を有効または無効にします。デフォルト SICP は有効で、ポート 5000 を使用します。

注記:

ポート番号は、1025 ~ 65535 の範囲です。

次のポートは占有されており、SICP ネットワークポートに割り当ててすることはできません: 8000、9988、15220、28123、28124 および FTP ポート(デフォルト 2121)。

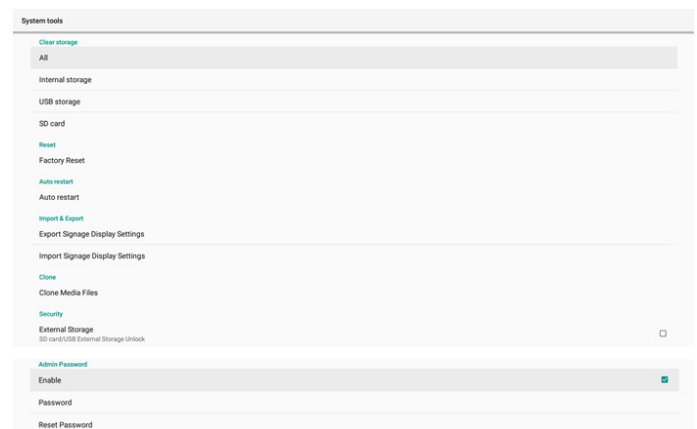


6.3.3. System tools (システムツール)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> System Tools(システムツール)

サイネージディスプレイのシステム機能を設定します。

- (1). Clear Storage(ストレージの消去)
- (2).リセット
- (3).Auto restart(自動再起動)
- (4).Import & Export(インポートおよびエクスポート)
- (5).Clone(複製)
- (6).Security(セキュリティ)
- (7).Admin Password(管理者パスワード)



Clear Storage(ストレージの消去)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> System Tools(システムツール) -> Clear Storage(ストレージの消去)



内部ストレージと外部ストレージの {ストレージ}/philips/ フォルダの下にあるすべてデータを消去するために使用します

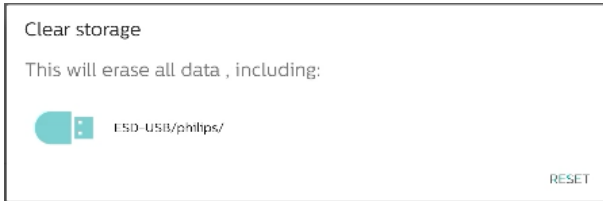
(1).すべて:内部ストレージ、USB および SD カードから philips/ フォルダを消去します。

(2).内部ストレージ
内部ストレージからのみ philips/ フォルダを消去します。

(3).USB ストレージ
USB ストレージからのみ philips/ フォルダを消去します。

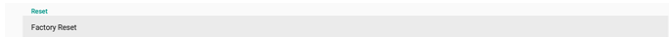
(4).SD カード
SD カードからのみ philips/ フォルダを消去します。

消去するフォルダが一覧表示されます。「リセット」を押して、一覧表示されたフォルダの下すべてのデータを消去します。または、「戻る」キーを押して、終了して何も行いません。



リセット

「Settings(設定)」->「Signage Display(サイネージディスプレイ)」->「System Tools(システムツール)」->「Reset(リセット)」の順にアクセスします



オールリセット

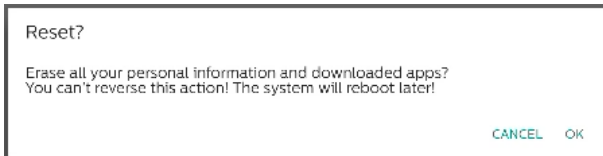
「Factory Reset(工場出荷時の設定にリセット)」を使用して、すべてのユーザーデータおよび設定を消去します。完了後、システムは自動的に再起動し、OOBE にジャンプします。

重要な注意事項:

- すべてのシステムデータは消去され、元に戻すことはできません。データには、デバイス設定、インストールされているアプリ、アプリのデータ、ダウンロードされたファイル、音楽、写真、および /data の下のすべてのデータが含まれます。ただし、USB ストレージおよび SD カード内のデータは消去されず、内部ストレージのデータのみが消去されます。
- 工場出荷時の設定にリセットしている間は、AC アダプタと電源を利用可能な状態に維持してください。OOBE が画面に再度表示されたときのみ、システムを電源オフにしてください。

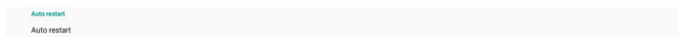


「Factory Reset(工場出荷時の設定にリセット)」をタップすると、リセットアクションを確認するように求められます。これを行うと、内部ストレージのすべてのデータが消去され、元に戻すことができないことに注意してください。

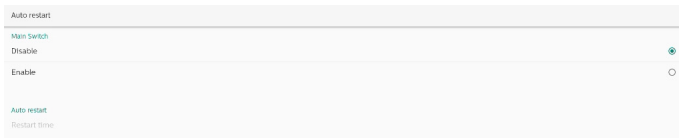


Auto restart(自動再起動)

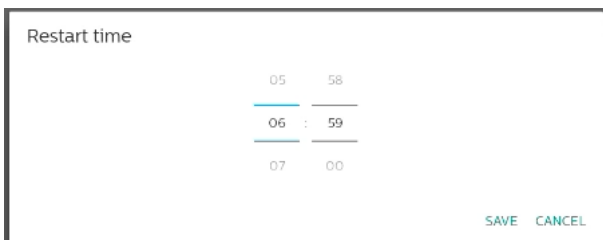
システムが毎日自動再起動する特定の時間を設定します。



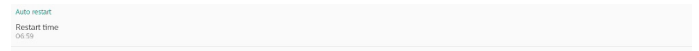
自動再起動機能を有効または無効に設定します。



タイムピッカーを使用して、再起動時間を設定します。

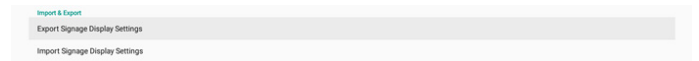


「SAVE(保存)」を選択すると、システムは指定した時間に再起動します。



Import & Export(インポートおよびエクスポート)

「Settings(設定)」->「Signage Display(サイネージディスプレイ)」->「System Tools(システムツール)」->「Export & Import(エクスポートおよびインポート)」の順にアクセスします



この機能を使用すると、データベース設定とサードパーティの APK を他のデバイスにインポートできます。以下に注意してください。

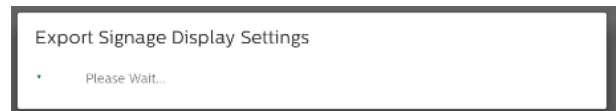
- データは {ストレージ}/philips/clone フォルダの下に BDL4050Q-clone.zip ファイルにエクスポートされます。
- 古いクローンファイルメソッドをサポートし、ファイルを {storage}/philips/sys_backup の下に置きます。
 - AndroidPDMediaPlayerData.db
 - AndroidPDURLListData.db
 - AndroidPDPdfData.db
 - menu_settings.db
 - runtime-permissions.xml
 - settings_global.xml
 - settings_secure.xml
 - settings_system.xml
 - signage_settings.db
 - smartcms.db

最新のエクスポートされたデータは、ZIP ファイルにアーカイブされます。

- 「サイネージディスプレイ名」はインポートされません。

Export Signage Display Settings(サイネージディスプレイ設定のエクスポート)

システムは、データベースデータとサードパーティの APK を、選択したストレージ(内部ストレージ、SD カード、または USB ストレージ)の {ストレージ}/philips/clone/BDL4050Q-clone.zip ファイルにエクスポートします。



注記:

選択したストレージ(内部ストレージ、USB、SD カード、外部ストレージ)に philips/ フォルダが含まれていない場合、システムはそれを自動的に作成します。

ユーザーが選択できるすべてのストレージメディアが一覧表示されます。



サイネージディスプレイ設定のインポート

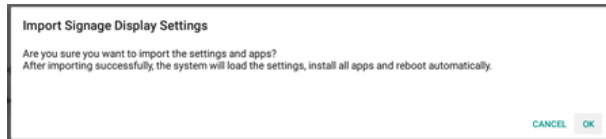
選択したストレージ(内部ストレージ、SD カードまたは USB ストレージ)の philips/clone/BDL4050Q-clone.zip ファイルからデータベースデータインポートします。システムは次のデータを ZIP ファイルにインポートします:

- BDL4050Q-clone.zip にデータベースをインポートする
- サードパーティの APK を BDL4050Q-clone.zip にインポートする

利用可能なすべてのストレージメディアが一覧表示されます(内部ストレージ、USB、SD カード)。

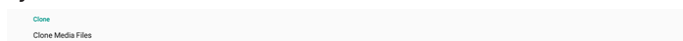


ダイアログボックスが表示され、ユーザーにインポート操作の確認を求めます。「OK」をクリックして、データのインポートを開始します。



Clone (複製)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> System Tools (システムツール) -> Clone (複製)



Clone Media File (メディアファイルの複製)

メディアファイルを選択したソースストレージからターゲットストレージに複製します。

(1). システムは、次のフォルダの一覧の下のファイルを複製します:

- a. philips/photo
- b. philips/music
- c. philips/video
- d. philips/cms
- e. philips/pdf
- f. philips/browser

(2). CMS ファイルの複製(ファイル拡張子は「.cms」):

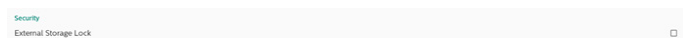
- a. ソースストレージ
ソースは内部ストレージです。
FTP に CMS ファイルがあるかどうかを確認します。
FTP に CMS ファイルがない場合は、ソースストレージの philips/ フォルダを確認してください。
ソースは外部ストレージです (SD カードまたは USB ストレージ)
ストレージのルートディレクトリにある CMS ファイルを確認します。
- b. ターゲットストレージ
ターゲットは内部ストレージです。
CMS ファイルは philips/ フォルダに保存されます。
ターゲットは外部ストレージです (SD カードまたは USB ストレージ)
ストレージのルートディレクトリに CMS ファイルは保存されます。



Security (セキュリティ)

External Storage Lock (外部ストレージロック)

チェックボックスをクリックして、外部ストレージ (SD カードおよび USB ストレージ) をロックまたはロック解除します。デフォルトはロック解除です。



注記:

有効状態の外部ストレージロックを無効にするときは、外部ストレージ (SD カードおよび USB ストレージの場合) を取り外して、もう一度取り付けてください。その後、システムが外部ストレージをもう一度検出できるようになります。

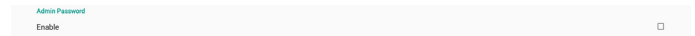
Admin Password (管理者パスワード)

「Settings (設定)」->「Signage Display (サイネージディスプレイ)」->「System Tools (システムツール)」->「Admin Password (管理者パスワード)」の順にアクセスします



有効

管理者パスワードを有効または無効にしますデフォルトは無効です。



(1). 未チェック: 無効です。

(2). チェック済み: 有効です。

注記:

有効した後、管理者モードにログインするために、パスワードが必要になります。デフォルトのパスワードは「1234」です。

パスワード

「設定」->「サイネージディスプレイ」->「システムツール」->「管理者パスワード」->「パスワードの」の順にアクセスします。

管理者モードにログインするためのパスワードを変更できます。次のステップに従います:

(1). 最初にパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは「1234」です。



現在のパスワードが正しくない場合、「Incorrect password (パスワードが間違っています)」というメッセージが表示されます。



(2). 新しいパスワードを入力します。



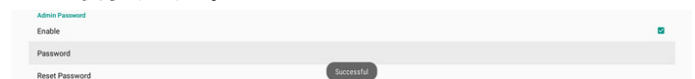
(3). 新しいパスワードを再度入力します。



新しいパスワードが正しくない場合は、再試行してください。



パスワードが正常に変更されると、「Successful (成功)」というメッセージが表示されます。



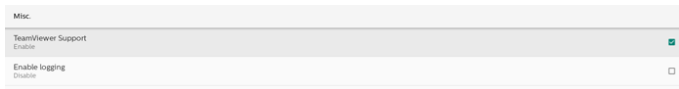
Reset password (パスワードのリセット)

「Settings (設定)」->「Signage Display (サイネージディスプレイ)」->「System Tools (システムツール)」->「Admin Password (管理者パスワード)」->「Reset password (パスワードのリセット)」の順にアクセスします。



パスワードをデフォルトの「1234」にリセットします。成功すると、「Successful (成功)」というメッセージが表示されます。

6.3.4. Misc.(その他)

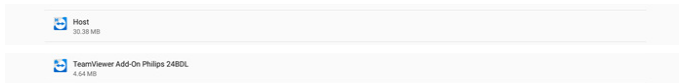


TeamViewer support (TeamViewer のサポート)

チェックボックスをクリックして、TeamViewer Support (TeamViewer への対応) を有効または無効にします。TeamViewer は、管理モードを開くための仮想ホームキーを送信します。デフォルトは有効です。

TeamViewerHost および TeamViewerQsAddOn APK がシステムに自動的にインストールされます。そうでない場合、「TeamViewer のサポート」を無効にすると、システムはそれらを削除します。

「TeamViewer Support (TeamViewer のサポート)」が有効になっている場合、次の APK が「Settings(設定)」->「Apps(アプリ)」に一覧表示されます。

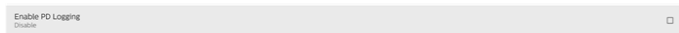


ロギングの有効化

チェックボックスでロギングを有効または無効にします。

有効にすると、PD が Android の logcat ログとカーネルメッセージのログへの記録を開始して、USB ストレージまたは内部ストレージに自動保存します。USB ストレージが優先されます。PD に接続されている USB デバイスがない場合、すべてのデータは内部ストレージに保存されます。

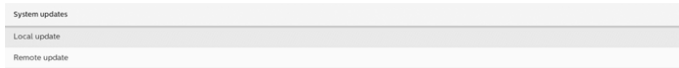
保存されたパスは、{USB ストレージのルートディレクトリ}/ philips/Log/xxBDL4050Q-Log-{ yyyy-MM-dd-HH-mm-ss } です。または { 内部ストレージのルートディレクトリ }/ philips/Log/xxBDL4050Q-Log{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss} です。



ロギングを無効にすると、すべてのデータは、{USB ストレージのルートディレクトリ}/ philips/Log/xxBDL4050Q-Log-{ yyyy-MM-dd-HH-mm-ss }.zip

または { 内部ストレージのルートディレクトリ }/ philips/Log/xxBDL4650D-LogLog-{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss}.zip などの ZIP ファイルに保存されます。

6.3.5. System updates (システムアップデート)



Local update (ローカルアップデート)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージディスプレイ) -> System updates(システムアップデート) -> Local update(ローカルアップデート)

システムは、外部ストレージのルートフォルダの「update.zip」を自動的に検索します。システムが外部ストレージに「update.zip」を見つけた場合、ユーザーが更新するファイルを選択するための一覧が表示されます。

一覧からファイルを選択すると、システムは再起動し、更新を実行します。

以下に注意してください。

- システム更新中は、電源をオンの状態に維持し、電源アダプタを取り外さないでください。
- 現在、システムは、Android のフル更新のみをサポートします。
- 更新ファイルの名前は、必ず、「update.zip」にしてください。
- 「update.zip」ファイルは、必ず、外部ストレージのルートフォルダにおいてください。

リモート更新

ネットワークに接続して利用可能な状態を維持してください。「最新」または「ダウンロードコード」を選択して、リモート FW サーバーからルートフォルダに「update.zip」をダウンロードします。「ダウンロードコード」を選択した場合は、リモート FW サーバーから取得した 10 桁のコードを入力する必要があります。

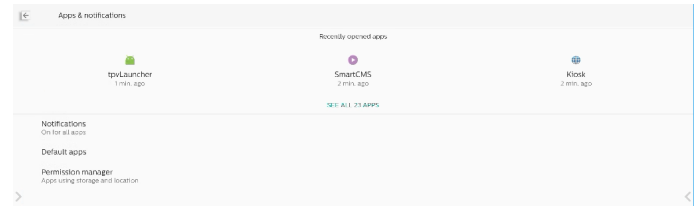


「OK」をタップし、ネットワーク速度に応じて「update.zip」をダウンロードするまで約 5 分間待ちます。ダウンロードが成功すると、システムは自動的に「ローカル更新」プロセスに移行します。システムが再起動し、システムの更新が行われます。以下に注意してください。

- システムアップデート中は、電源をオンの状態に維持し、電源アダプタを取り外さないでください。
- 現在のシステムは、Android のフルアップデートのみをサポートします。

6.4. Apps(アプリケーション)

システムにインストールされているアプリケーションのアプリケーション情報と通知設定。



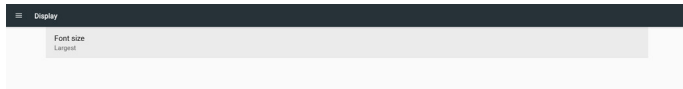
6.4.1. すべてのアプリを表示

システムにインストールされているすべてのアプリケーションを一覧表示し、各アプリケーションの現在の設定と情報を確認します。通知、許可、ストレージとキャッシュ、ネットワークの使用状況、その他の設定など。

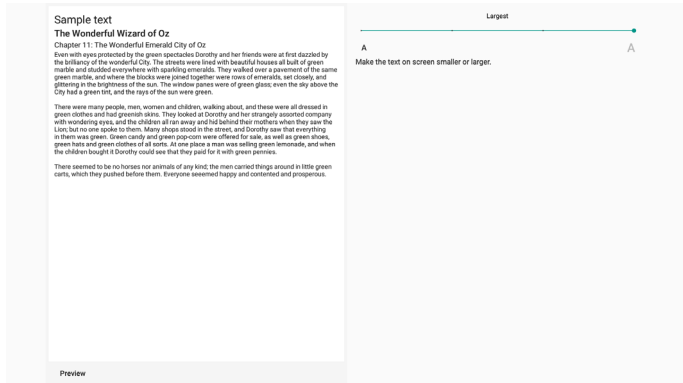
6.5. Display(ディスプレイ)

6.5.1. Font Size(フォントサイズ)

システムのデフォルトのフォントサイズを設定します。

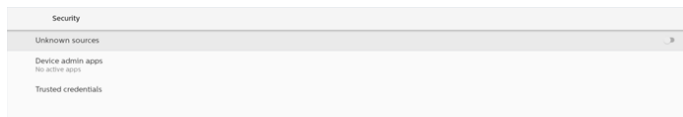


スライダーをドラッグしてシステムフォントサイズを調整します。デフォルトは「最大」です。



6.6. Security(セキュリティ)

Settings(設定) -> Security(セキュリティ)



6.6.1. Unknown Sources(不明なソース)

Android で不明なソースからアプリのインストールを許可します。

6.6.2. Device Admin Apps(デバイス管理アプリ)

管理者関連の操作と制御をサポートするアプリを一覧表示します。

6.6.3. Trusted Credentials(信頼できる認証情報)

デバイスのすべての信頼できる認証情報を表示します。

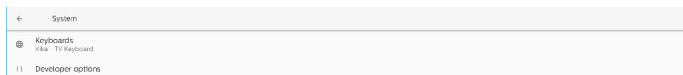
6.7. Accessibility(アクセシビリティ)

アクセシビリティサービスは、障害を持つユーザーや、特殊ニーズを抱えるユーザーが Android デバイスをもっと楽に操作できるよう支援するアプリです。

「Downloaded apps(ダウンロード済みアプリ)」メニューで、デバイスにインストールされているすべてのアクセシビリティアプリが表示されます。必要に応じて有効または無効にすることができます。また、リストでアクセシビリティアプリの名前をタップすると、各アプリの設定にアクセスできます。

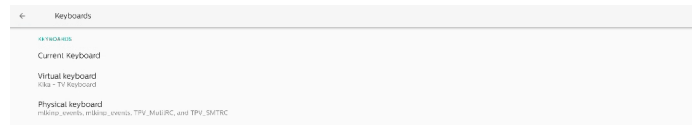
6.8. System(システム)

Android システムの入力方法と開発者向けオプション。



6.8.1. Keyboards(キーボード)

ソフトウェアキーボードと物理キーボードを制御します。



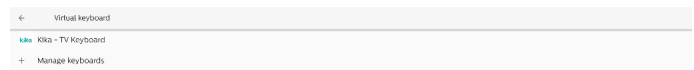
6.8.2. Current Keyboard(現在のキーボード)

デフォルトのキーボードを設定するには、使用可能なキーボードをすべて一覧表示します。



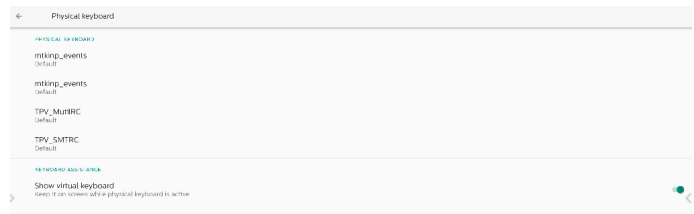
6.8.3. Virtual Keyboard(仮想キーボード)

各 IME の詳細設定を制御します。キーボードを管理し、IME を有効または無効にします。システムに IME が 1 つだけインストールされている場合、ユーザーはそれを無効にすることはできません。システム内に少なくとも 1 つの IME が必要です。



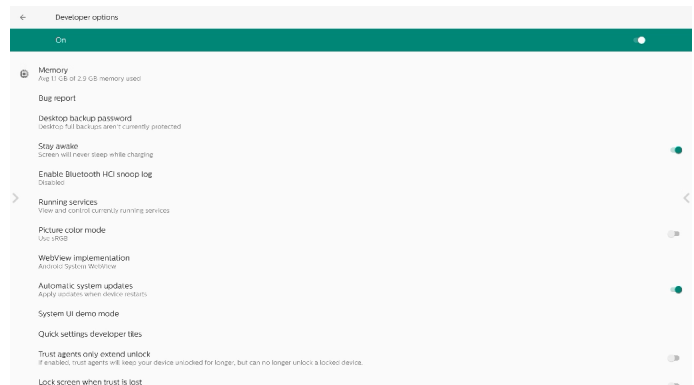
6.8.4. Physical Keyboard(物理キーボード)

物理キーボードの設定。



6.8.5. Developer Options(デベロッパーオプション)

エンジニア開発向けの Android システム開発者オプション。



6.9. About(製品について)

「製品について」ページに次の情報が表示されます。

- (1) Legal information(法的情報)
- (2) Model(モデル) (このデバイスのモデル名)
- (3) Android version(Android バージョン)
- (4) Build number(ビルド番号) (リリースバージョン)

About
Legal information
Model
Model: 55BDL4050Q
Android version
5.0
Build number
P801.00

Legal Information (法的情報)

すべてのオープンソースプロジェクトの法的情報とライセンスが表示されます。

Legal information
About Open Source License
Third-party licenses
System WebView licenses

Model (モデル)

Model
Model: 55BDL4050Q
Serial number
unknown

Android version (Android バージョン)

Android version
Android version
5.0
Android security patch level
October 5, 2021
Kernel version
4.14.160
#7 Mon Mar 19 11:20:32 CST 2023
Build number
P801.00

6.10. Supplementary (補足)

6.10.1. Quick Info (クイック情報)

「Info + 77」を押すと、クイック情報が起動します。

クイック情報には、「Network (ネットワーク)」と「Monitor Information (モニターインフォメーション)」が表示されます。

注記:

Operation hours (動作時間): 毎分更新されます。

Heat status (温度状態): 5 秒毎に更新されます。

6.10.2. Android ブートアニメーションをカスタマイズする方法

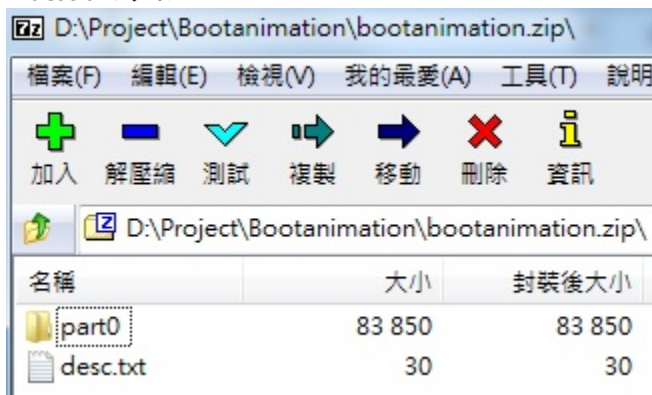
1. 概要

Android ブートアニメーションは、デバイスの起動時に PNG ファイルの読み込みに使用されるスクリプトです。「bootanimation.zip」という名前の展開された zip ファイルに含まれています。

2. bootanimation.zip ファイルの内訳

Bootanimation.zip ファイルには、次の内容が含まれています。

- イメージフォルダ (連番で名前が付けられた PNG イメージを含む)
- desc.tx ファイル



(1) イメージフォルダ

このフォルダには、数字で名前が付けられた PNG イメージが含まれています。0000.png または 0001.png から始まり、番号が 1 つずつ繰り上がります。フォルダの最小番号は「1」です。最大番号に上限はありません。

(2) desc.tx ファイル

このファイルは、ブートアニメーションの表示中に、次の形式でのフォルダ内のイメージの表示方法を定義します。

- 幅 高さ フレーム率
- モード ループ 遅延時間 フォルダ 1
- モード ループ 遅延時間 フォルダ 2

desc.txt ファイルの一例:

- 1920 1080 30
- p 1 0 part0
- p 0 0 part1

a. 1 行目

1920 と 1080 は画面解像度の幅と高さを定義しています。

30 は fps 単位のフレーム率 (フレーム / 秒)、つまり 1 秒あたりに表示される画像の枚数です。

b. 2 行目と 3 行目は同じ形式です。

最初の「p」は、起動プロセスが完了すると、再生モードが直ちに停止することを意味します。

「p」の隣の数字は、繰り返しモードを定義します。

- 「0」に設定すると、デバイスが起動するまで、この部分が無限ループします。
- 「1」に設定すると、この部分が一度再生されます。

次の数字は、遅延時間 (単位: ms、ミリ秒) を定義します。たとえば、「10」に設定すると、すべてのイメージファイルの再生が完了するまでの 10 ミリ秒間、システムが遅延されます。

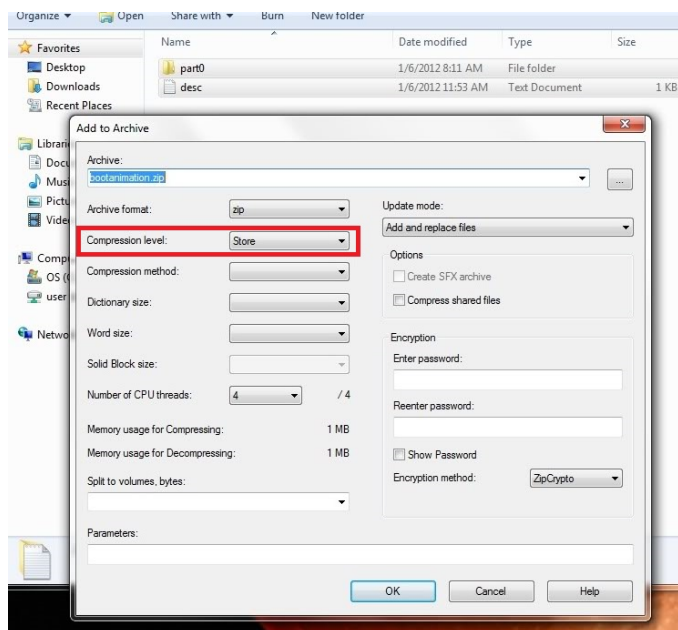
「Part0」と「Part1」は、イメージフォルダ名を指します。

上記の例のように、ブートアニメーションは、画素数 1920 x 1080 の解像度、フレームレート 30 fps で、「part0」フォルダのコンテンツから再生されます。1 つのループでコンテンツを再生した後、「part1」フォルダのコンテンツに切り替わり、デバイスが起動するまで継続的に再生されます。

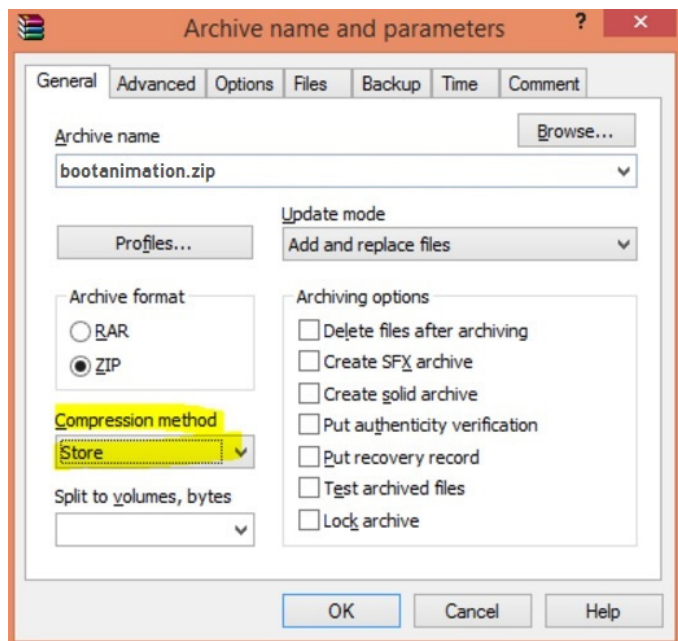
3. Zip ファイル:

「Bootanimation」フォルダ内のすべて (イメージフォルダと desc.txt を含む) を選択して、7zip や WinRAR などの圧縮ユーティリティを使用して圧縮し、展開された zip アーカイブに含めます。

7zip を使用する場合、圧縮レベルを「Store (保存)」に設定します。



WinRARを使用する場合、「Compression method(圧縮レベル)」を「Store(保存)」に設定します。



これ以外に設定した場合、ブートアニメーションは動作しません。

4. カスタムのブートアニメーションの適用

手順:

- (1) カスタムのブートアニメーションの zip ファイルを外部の USB に配置し、ストレージデバイスを Phillips PD プラットフォームに接続します。
- (2) 「Logo(ロゴ)」オプションが有効になっていることを確認します。
RCU でホームキーを押します。OSD メニュー -> 設定2メニュー -> ログ表示 -> 「ユーザー」に設定します。
- (3) RCU で「ホーム +1888」組み合わせキーを押して「Admin mode (管理者モード)」に移動します。

Settings(設定) > Signage Display(サイネージディスプレイ) > General Settings(一般設定) > Boot Logo(ブートロゴ) > Choose Boot Animation(ブートアニメーションの選択)

(4) システムは、外部 USB の bootanimation.zip を自動検索し、/data/local にコピーします。

(5) ステップ 1 ~ 4 まで完了したら、システムを再起動します。起動時に、新しいカスタムのブートアニメーションが表示されるはずですが。

6.10.3.Android アプリのインストール方法

Android アプリをインストールする方法は 3 つあります。

(a) 「Admin mode(管理者モード)」のファイルマネージャーを使用する

1. すでに APK がある場合

1.1 APK を USB ディスクにコピーし、ストレージデバイスを Philips Android サイネージディスプレイに接続します。

1.2 「Admin mode(管理者モード)」> 「Apps(アプリ)」> 「File Manager(ファイルマネージャー)」に移動します。

1.3 ファイルマネージャーで、インストールする APK を検索します。選択した APK で、「OK」を押します。

2.Chromium ブラウザで APK をダウンロードし、ファイルマネージャーで < 内部ストレージのパス >/Download に移動します。

2.1 次のステップは、上記と同じです。モデルごとに < 内部ストレージのパス > が異なる場合があります。

(b) Adb Shell を使用する

1.Adb を使って、PC を Philips Android サイネージディスプレイに接続できるか確認してください。

2.PC のフォルダ(例:C:\apkfolder)に APK を準備します。

3. コマンドラインツールで次の手順を実行します。

C:\apkfolder> adb install -r apk_name.apk

(c) カスタマイズされたIntentで実行

1.Android アプリをダウンロードできる APK を開発すると、APK がカスタムIntentを発行できるようになります。

2.APK の名前とパスを保存しておく、システムがプログラムによるインストールをサポートできるようになります。

説明	目的	パラメーター	
ソフトウェアアップデート	php.intent.action.UPDATE_APK	filePath	ファイル名を含めた絶対ファイルパス。ファイルのアクセス権が「664」以上であることを確認してください。
		keep	更新後のファイルの維持の有無を示します。デフォルト値は「False」です。
		packageName	アップデート後に自動的に起動するターゲットパッケージ。
		activityName	アップデート後に自動的に起動するターゲットアクティビティ。現時点で一番上にあるアクティビティが activityName でない場合は、何も起きません。
		isAllowDowngrade	"true":対象となる APK のバージョンが、現在のバージョン以前であるかどうかに関係なく、APK を更新します。 false: ダウングレードの場合はインストールを中止します。

例えば、

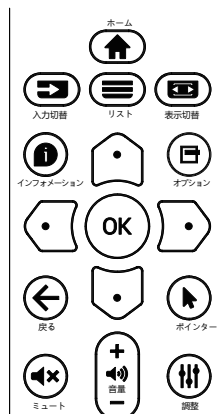
```
Intent intent = new Intent();
intent.setAction("php.intent.action.UPDATE_APK");
intent.putExtra("filePath", "/Download/sample.apk");
intent.putExtra("keep", true);
intent.putExtra("packageName", "com.tpv.example");
intent.putExtra("activityName", "com.tpv.example.
MainActivity");
intent.putExtra("isAllowDowngrade", true); // allow
downgrade
sendBroadcast(intent);
```

7. OSD メニュー

オンスクリーンディスプレイ (OSD) 構造の全体図を以下に示します。この全体図は、ディスプレイをさらに調整する場合の参照として使用できます。

7.1. OSD メニューをナビゲートする

7.1.1. リモコンを使用して OSD メニューをナビゲートする



1. リモコン上の [ホーム] ボタンを押して OSD メニューを表示します。
2. [入力切替] または [リスト] ボタンを押して、調整する項目を選択します。
3. [OK] または [オプション] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[入力切替] ボタンまたは [リスト] ボタンまたは項目を切り換えて、[戻る] ボタンまたは [オプション] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[OK] または [オプション] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [戻る] ボタンを押して前のメニューに戻るか、[ホーム] ボタンを押して OSD メニューを終了します。

7.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用して、OSD メニューをナビゲートする

1. [メニュー] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。
2. [+] ボタンもしくは [-] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [+] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[上] ボタンまたは [下] ボタンまたは項目を切り換えて、[+] ボタンまたは [-] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[+] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [メニュー] ボタンを押して直前のメニューに戻るか、または [メニュー] ボタンを押して OSD メニューを離れます。

7.2. OSD メニューの概要

7.2.1. 画像メニュー

画像メニュー	項目	値
画像メニュー	輝度(画像)	70
画面メニュー	コントラスト	75
オーディオメニュー	シャープネス	20
設定1メニュー	ブラックレベル	50
設定2メニュー	色合い(色調)	50
アドバンスドオプションメニュー	色(彩度)	55
	ノイズリダクション	中
	ガンマ選択	ネイティブ
	色温度	ネイティブ
	カラーコントロール	アクション
	スマートパワー	オフ
	オーバーキャン	オフ
	画像リセット	アクション

輝度 (画像)

本ディスプレイのバックライトの明るさを調整します。

コントラスト

入力信号に対する画像のコントラスト比を調整します。

注記: 動画ソースのみ

シャープネス

シャープネスを調整して、画像のディテールを改善します。

ブラックレベル

ビデオのブラックレベルは、ビジュアル画像のもっとも暗い (黒い) 部分のブライトネスレベルとして定義されます。このディスプレイのブラックレベルを調整します。

色合い(色調)

画像の色合いを調整します。

[オプション] ボタンを押すと、緑がかった色になります。[戻る] ボタンを押すと、紫がかった色になります。

注記: この項目は動画モード (YUV 色空間) に対してのみ適用されます。

色(彩度)

画像の色の濃さを調整します。

注記: この項目は動画モード (YUV 色空間) に対してのみ適用されます。

ノイズリダクション

映像ノイズを低減します。適切なノイズリダクションレベルを選択できます。

オプションは次の通りです: { オフ } / { 低 } / { 中 } / { 高 }。

注記: この項目は、VGA 入力にのみ適用されます。

ガンマ選択

ガンマは画像の全体的なブライトネスを制御するものです。正しく補正されない画像は、白すぎまたは黒すぎとなります。したがって、ガンマを適切に制御することで、ディスプレイ全体の映像品質に大きな影響を与えることができます。

オプションは次の通りです: { ネイティブ } / { 2.2 } / { 2.4 } / { S gamma } / { D 画像 }。

色温度

画像の色温度を選択します。低い色温度は赤みを、高い色温度は青みを持ちます。

オプションは次の通りです。{3000K} / {4000K} / {5000K} / {6500K} / {7500K} / {9300K} / {10000K} / {ネイティブ} / {ユーザー 1} / {ユーザー 2}。

カラーコントロール

R (赤)、G (緑)、B (青) 設定を個別に変更することで、画像の色調を正確に調整することができます。

{ 画像メニュー } - { 色温度 } - { ユーザー } 設定が [ユーザー 1]

または、100K ごとの色調を 2000K ~ 10000K に調整することができます。

{ 画像メニュー } - { 色温度 } - { ユーザー } 設定が [ユーザー 2]

スマートパワー

消費電力を自動的に下げるようディスプレイを設定します。

オプションは次の通りです。{ オフ } / { 中 } / { 高 }。

オーバースキャン

本ディスプレイの画像領域を変更します。

- { オン } - 画像を元の約 95% の大きさで表示します。画像を囲む残りの領域はカットされます。
- { オフ } - 元のサイズで画像を表示します。

画像リセット

画像メニューですべての設定をリセットします。

7.2.2. 画面メニュー

画像メニュー	水平位置	50
画面メニュー	垂直位置	50
オーディオメニュー	クロック	127
設定1メニュー	クロック位相	31
設定2メニュー	ズームモード	フル
アドバンスドオプションメニュー	自動調整	アクション
	画面リセット	アクション

水平位置

画像を右に移動するには [右] b ボタンを、左に移動するには [左] ボタンを押します。

メモ:

- 水平位置調整は VGA 入力のみ適用されます。
- { ピクセルシフト } がアクティブになっているとき、水平位置は調整できません。

垂直位置

画像を上に移すには [上] ボタンを、下に移動するには [下] ボタンを押します。

メモ:

- 垂直位置調整は VGA 入力のみ適用されます。
- { ピクセルシフト } がアクティブになっているとき、垂直位置は調整できません。

クロック

画像の幅を調整します。

注記: この項目は、VGA 入力にのみ適用されます。

クロック位相

焦点、画像の明瞭さ、および安定度を改善するよう調整します。

注記: この項目は、VGA 入力にのみ適用されます。

ズームモード

動画入力用に以下のいずれかを選択します。{ フル } / { リアル } / { 21:9 } / { 4:3 }。

	フル このモードでは、全画面表示を使用して、16:9 で送信された映像を正しい映像比に戻します。
	リアル このモードでは、オリジナルの画像サイズを変えずに、画面に画素ごとの画像を表示します。
	21:9 この映像は 21:9 フォーマットで再現され、上下には黒い部分が表示されます。
	4:3 この画像は 4:3 フォーマットで再現され、画像の両側には黒い部分が表示されます。

自動調整

「設定」を押すと、水平位置、垂直位置、クロック、位相を自動的に検出して調整します。

注記: VGA 入力のみ。

画面リセット

画面メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7.2.3. オーディオメニュー

画像メニュー	バランス	50
画面メニュー	高音	50
オーディオメニュー	低音	50
設定1メニュー	音量	20
設定2メニュー	音声出力 (ラインアウト)	20
アドバンスドオプションメニュー	最大音量	100
	最小音量	0
	オーディオリセット	アクション
	オーディオ出力同期	オフ
	スピーカー設定	オン

バランス

左右の音声出力のバランスの強弱を調整します。

高音

高音の増減を調整します。

低音

低音の増減を調整します。

音量

音量を調整します。

音声出力 (ラインアウト)

ライン出力の出力レベルの増減を調整します。

最大音量

最大音量設定に独自の制限を付けて調整します。これにより、設定した音量で音量が止まります。

最小音量

最小音量設定に独自の制限を付けて調整します。

オーディオリセット

オーディオメニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

オーディオ出力同期

内蔵スピーカーの音量と音量同期を調整します。

{ オン } : 機能を有効にして、音声出力(ラインアウト) 音量をグレー表示します。

{ オフ } : 機能を無効にします。

スピーカー設定

内蔵スピーカーをオン / オフにします。

注記: この機能はと [同期音量] がオンの場合にのみ使用できます。

7.2.4. 設定1メニュー

🖼️ 画像メニュー	スイッチオン状態	強制オン
🖥️ 画面メニュー	パネルセーブ	アクション
🔊 オーディオメニュー	RS232ルーティング	RS232
⚙️ 設定1メニュー	ソース起動	アクション
⚙️ 設定2メニュー	WOL	オフ
⚙️ アドバンスドオプションメニュー	Light sensor	オフ
	Human sensor	オフ
	設定1リセット	アクション
	工場出荷時の設定にリセット	アクション

スイッチオン状態

次回電源コードを接続するときに適用されるディスプレイの状態を選択します。

- { 電源オフ } - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオフのままになります。
- { 強制オン } - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオンのままになります。
- { 最後のステータス } - 電源コードを外して再び取り付けると、ディスプレイは前の電源ステータス (オン / オフ / スタンバイ) に戻ります。

パネルセーブ

パネルの焼き付きやゴーストの発生を抑えるために、Panel saving を有効または無効にします。

- { ブライトネス } - { オン } を選択すると、画像の輝度が適切なレベルに減少されます。選択されているとき、画像メニューのブライトネス設定は使用できなくなります。
- { ピクセルシフト } - 画像のサイズを変更したり、上下左右に画像をずらすための時間間隔を設定します。{ 自動 } { 10 ~ 900 } 秒 / { オフ } ピクセルシフトをアクティブにすると、画面メニューの水平位置、垂直位置、ズームモードが無効になります。

RS232 ルーティング

ネットワーク制御ポートを選択します。

オプションは次の通りです: { RS232 } / { LAN -> RS232 }。

ソース起動

起動時のソースを選択します。

- 入力: 起動時に入力ソースを選択します。
- プレイリスト: メディアプレーヤー、ブラウザー、PDF リーダーのプレイリストインデックスを選択します。
- 0: プレイリストなし。OSD からの切り替えソースと同じ。
- 1 ~ 7: プレイリストの番号。
- USB 自動再生: メディアプレーヤーの自動再生オプション。

WOL(ウェイクオン LAN)

Wake on LAN 機能をオンまたはオフを選択します。

こちらより選択します: { オフ } / { オン }

Light sensor

環境の明るさに応じて、バックライト調整のオンまたはオフへの切り替えを選択します。

こちらより選択します: { オフ } / { オン }

Human sensor

人感センサーは、人がディスプレイに近づいているかどうかを検出することができます。

設定された時間内に何も検出されない場合、ディスプレイはバックライトをオフに切り替えます。

人がディスプレイに近づいてくると、ディスプレイはバックライトをオンに切り替えます。

オプションは次の通りです: { オフ } (デフォルト)、{ 10 Min. }、{ 20 Min. }、{ 30 Min. }、{ 40 Min. }、{ 50 Min. }、{ 60 Min. }

設定1リセット

設定1のすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

工場出荷時の設定にリセット

OSD メニューの中のすべての設定、{ 画像メニュー }、{ 画面メニュー }、{ オーディオメニュー }、{ 子画面メニュー }、{ 設定1メニュー }、{ 設定2メニュー }、{ アドバンスドオプションメニュー } を工場出荷時の値にリセットします。

[⏮] または [⏭] ボタンを押して { リセット } を選択し、[OK] を押しでリセットします。

7.2.5. 設定2メニュー

🖼️ 画像メニュー	OSDをオフにする	45
🖥️ 画面メニュー	OSD 水平位置	50
🔊 オーディオメニュー	OSD 垂直位置	50
⚙️ 設定1メニュー	回転	横長
⚙️ 設定2メニュー	インフォメーション OSD	10
⚙️ アドバンスドオプションメニュー	無信号画面設定	黒
	ロゴ	オン
	モニターID	アクション
	温度ステータス	24.21°C 75.57°F
	モニターインフォメーション	アクション
	HDMI バージョン	1.4
	RGB範囲	自動

OSD をオフにする

OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューが画面に表示される時間を設定します。

オプションは次の通りです: { 0 ~ 120 } 秒。

OSD 水平位置

OSD メニューの水平位置を調整します。

OSD 垂直位置

OSD メニューの垂直位置を調整します。

回転

画面を横長 / 縦長モードに変更します。

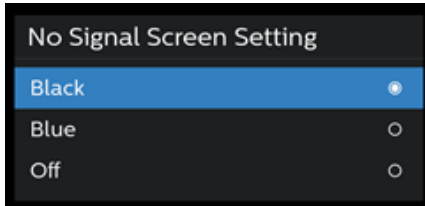
注記: ディスプレイ (PD) を反時計回りに 90 度回転させます。

インフォメーション OSD

インフォメーション OSD が画面の左上に表示される時間を設定します。インフォメーション OSD は、入力ソースと信号が変更されると表示されます。

オプションは { オフ、1 ~ 60 } 秒です。

無信号画面メニュー



ブラック: 信号が検出されないときは、背景色をブラックに切り替えます。

青: 信号が検出されないときは、背景色を青に切り替えます。

オフ: 信号ダイアログをオフにして、背景色をブラックに切り替えます。

ロゴ

ディスプレイをオンにしたときにロゴの画像を有効または無効にすることを選択します。

オプションは次の通りです:

- { オフ }
- { オン }
- { ユーザー }

注記: { ユーザー } に設定すると、回転機能はユーザーロゴに使用できません。

モニター ID

RS232 接続経由で本製品を制御するための ID 番号を設定します。本製品を複数台接続する場合には、各ディスプレイに一意の ID を割り当てる必要があります。モニター ID の番号範囲は 1 ~ 255 の間です。

温度ステータス

現在の温度状態。

モニターインフォメーション

モデル名、SW バージョン、シリアル番号、動作時間など、ディスプレイに関する情報を表示します。

モニターインフォメーション	
モデル名	
シリアル番号	該当なし
動作時間	0
SWバージョン	FBXX.XX

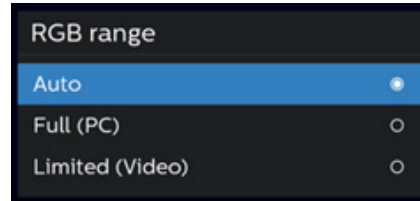
HDMI バージョン

HDMI バージョンを 1.2、1.4 または 2.0 に設定します。

注記: HDMI 入力ソースのみ。

RGB 範囲

「RGB 範囲」を「自動」「フル(PC)」または「リミテッド(ビデオ)」に変更します。



注記: Android/VGA ソースはサポートされていません。

「シャープネス」、「色合い (色調)」、「色 (彩度)」は、「フル」または「リミテッド」モードでは無効です。

設定2リセット

設定2のすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7.2.6. アドバンスドオプションメニュー

画像メニュー	リモコンロック	ロック解除
画面メニュー	電源LEDライト	オン
オーディオメニュー	キーボード制御	ロック解除
設定1メニュー	タイトル	アクション
設定2メニュー	オフタイマー	オフ
アドバンスドオプションメニュー	日時	アクション
	スケジュール	アクション
	HDMI with one wire	オフ
	HDMI One Wire Power off	オフ
	オートサーチ	オフ
	言語選択	日本語
	OSDの透明度	オフ
	パワーセーブモード	モード1

画像メニュー	タイトル	アクション
画面メニュー	オフタイマー	オフ
オーディオメニュー	日時	アクション
設定1メニュー	スケジュール	アクション
設定2メニュー	HDMI with one wire	オフ
アドバンスドオプションメニュー	HDMI One Wire Power off	オフ
	オートサーチ	オフ
	言語選択	日本語
	OSDの透明度	オフ
	パワーセーブモード	モード1
	エコモード	オン
	OPS 設定	自動
	アドバンスドオプションのリセット	アクション

リモコンロック

RS232 接続によって複数のディスプレイが接続されている場合、リモート制御の操作モードを選択します。

- { ロック解除 } - すべてのディスプレイを、リモコンで正常に動作させることができます。
- { プライマリ } - このディスプレイを、リモコン操作の 1 次ディスプレイとして指定します。リモコンでは、このディスプレイのみを操作できます。(プライマリモードでは、IR キーがモニター ID / グループ設定に関係なく常に処理されます)。
- { セカンダリ } - このディスプレイを 2 次ディスプレイとして指定します。このディスプレイはリモコンでは操作できず、RS232 接続を通して 1 次ディスプレイからの制御信号のみを受信します。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - このディスプレイのリモコン機能をロックします。ロック解除するには、リモコンの INFO ボタンを 6 秒間長押しします。

電源 LED ライト

電源表示 LED のオンまたはオフの設定を選択します。

通常使用の場合は、{ オン } を選択してください。

キーボード制御

このボタンを選択すると、キーボード (コントロールボタン) 機能が有効または無効になります。

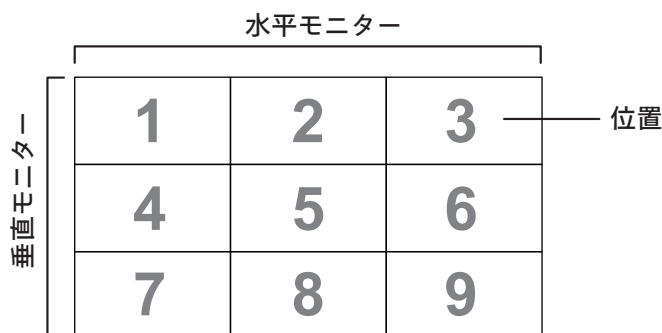
- { ロック解除 } - キーボード機能を有効にします。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - キーボード機能を無効にします。

注記: キーボード制御ロックの有効 / 無効を切り替えるには、
[+] ボタンと [⏻] ボタンを同時に 3 秒以上押し続けます。

タイル

最大 9 台のディスプレイ (縦に最大 3 台、横に最大 3 台) からなる 1 つの大型画面マトリクス (ビデオウォール) を作成します。この機能にはデジチェーン接続が必要です。

- 水平モニター: 水平側のディスプレイ数を選択します。
- 垂直モニター: 垂直側のディスプレイ数を選択します。
- 位置: 画面マトリクス (配列) でディスプレイの位置を選択します。



- フレーム補正: フレーム補正機能をオンまたはオフにします。ディスプレイは画像を調整して、画像を正確に表示するためにディスプレイベゼルの幅を補正します。
- 有効: チェックすると、タイル機能が有効になります。
- パワーオンディレイ: パワーオンディスプレイ時間 (秒) を設定します。複数台のディスプレイが接続されている場合、デフォルトのオプション { 自動 } を使って、モニター ID に従って各ディスプレイを順番にパワーオンすることができます。オプションは次の通りです: { オフ、自動、2-255 }。
- ブライトネス: { ノーマル } - 画面メニューで画像全体と背景画面の輝度 (バックライト) を調整します。{ ACS } - MIC ツールで調節された輝度値 (バックライト) を適用します。調整前のデフォルト値は、画面メニューの輝度設定と同じです。

オフタイマー

指定時間内にディスプレイがオフになりスタンバイモードになるよう設定します。

オプションは次の通りです: 現在の時刻から { オフ、1 ~ 24 } 時間。

注記: 「オフタイマー」がアクティブになっているとき、「スケジュール」設定は無効になります。

日時

本製品の内部時計の日付 / 時刻設定を調整します。

- { 自動同期 } - ディスプレイの時計を NTP サーバーと自動同期します。

スケジュール

ユーザーが最大 7 つの異なるスケジュールされた表示アクティビティの間隔を設定できるようにします。

- { スケジュール一覧 } - 編集する 1 ~ 7 のスケジュールを選択します。
- { 有効 } - 選択したスケジュールを有効 / 無効にします。時間が他のスケジュールまたは開始 / 終了時間と競合する場合、入力ソースは空になり、ユーザーはこのスケジュールを有効にできません。
- { 開始時間 } - 開始時間を設定します。
- { 終了時間 } - 終了時間を設定します。
- { 入力 } - 入力ソースを設定すると、システムは開始時に選択したソースに自動的に移動します。
- { 再生一覧 } - メディアプレーヤー、PDF プレーヤー、およびブラウザーソースの再生一覧 1 ~ 7 を設定します。
- { 曜日 } - 日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日に設定します。
- { 毎週 } - ライフサイクルを設定します。
- { 輝度 (画像) } - スケジュールソースの明るさを設定します。
- { 戻る } - キャンセルし、スケジュールデータを変更しません。
- { 保存 } - スケジュールデータを保存します。

HDMI with one wire

HDMI CEC を有効または無効にします。

HDMI One Wire Power off

ユーザーが電源ボタンを押すことで、複数のデバイスをスタンバイモードに設定できるようにします。この機能は、HDMI CEC が有効になっている場合にのみ使用できます。

オートサーチ

この機能により、システムは利用可能な信号源を自動的に検出して表示することができます。

- { オフ } - 信号が接続されると、手動での選択のみとなります。

選択した入力からの信号がある場合は、システムが各オプションの検索順序に従って自動的に画像を表示するように設定します。

オプションは次の通りです: { すべて } / { フェールオーバー }

- { すべて } - [DP] -> [DVI-I] -> [VGA] -> [HDMI1] -> [HDMI2] -> [メディアプレーヤー] -> [ブラウザ] -> [PDFリーダー] -> [カスタム]。
- { フェールオーバー } - 信号が接続されると、手動での選択のみとなります。
 - フェールオーバー 1 ~ 10: ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI。

言語選択

OSD メニューで使用する言語を選択します。

オプションは次の通りです: English/Español/Français/Italiano/Latviešu/Lietuvių/Nederlands/Norsk bokmål/PolSKI/Português/Suomi/Svenska/Türkçe/Русский/العربية / 简体中文 / 繁體中文 / 日本語 /Čeština/Dansk/Deutsch/Eesti.

OSD の透明度

OSD の透明度を調整します。

- { オフ } - 透明度オフ。
- { 1-100 } - 透明度レベル 1 ~ 100。

パワーセーブモード

モード 1 [TCP オフ、WOL オン、自動オフ]

モード 2 [TCP オフ、WOL オン、自動オン / オフ]

モード 3 [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフ]

モード 4 [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフなし]

パワーセーブモード	RCU 電源ボタンオフ	信号なし	WOL	Android (ARM)
モード 1	DC オフ	DC オフ	V	ARM オフ
モード 2	DC オフ	信号が戻ると、システムがウェイクアップします	V	ARM オフ
モード 3	バックライトオフ	信号が戻ると、システムがウェイクアップします	X	ARM オン
モード 4	バックライトオフ	バックライト常時オン、信号表示なし	X	ARM オン

以下の表は、異なる電源モードでの Android ボードに対する動作です。

電源モード	モード 1、モード 2	モード 3、モード 4
DC オフ	システムシャットダウン	1. メディアプレーヤー、ブラウザー、PDF プレーヤーが閉じます。 2. Android システムはデフォルトの黒いランチャーに移動します。
DC オン	システムの起動	Android システムが再起動します。ロゴ設定がオフの場合、システムは再起動せずにバックライトを直接オンにします。

エコモード

エコモードでは、ダイナミックバックライトコントロールを有効または無効にします。

エコを有効にすると、全体的な画像パフォーマンスが向上し、消費電力が削減されます。

エコを無効にすると、画面の明るさが最高になります。

OPS 設定

OPS 電源を制御します。OPS 対応モジュールでのみ使用可能です。

- { 自動 } - OPS ソースに切り替えると、システムは OPS の電源をオンにします。
- { 常時オフ } - システムは常に OPS デバイスの電源をオフにします。
- { 常時オン } - システムは起動後に常に OPS デバイスの電源をオンにします。

アドバンスドオプションのリセット

アドバンスドオプションメニューの { 日時 } 以外のすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

8. 対応するメディア形式

USB マルチメディアのフォーマット

ビデオデコード						
タイプ	ビデオコーデック	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	備考
MPEG1/2	MPEG1/2	MPEG プログラムストリーム (.DAT、.VOB、.MPG、.MPEG) MPEG トランスポートストリーム (.ts) MP4 (.mp4) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度: 1920x1080@60fps 最大ビットレート: 80Mbps
MPEG-4	MPEG4	MP4 (.mp4) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度: 1920x1080@60fps 最大ビットレート: 40Mbps
H.263	H.263	FLV (.flv) AVI (.avi)	V			最大解像度: 1920x1080@60fps 最大ビットレート: 40Mbps
H.264	H.264	FLV (.flv) MP4 (.mp4) MPEG トランスポートストリーム (.ts) ASF (.asf) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度: 4K2K@60fps 最大ビットレート: 135Mbps
H.265	H.265	MP4 (.mp4) MPEG トランスポートストリーム (.ts) MKV (.mkv)	V			最大解像度: 4K2K@60fps 最大ビットレート: 100Mbps
VP8	VP8	MKV (.mkv) WebM (.webm)	V			最大解像度: 1080P@60fps 最大ビットレート: 50Mbps
VP9	VP9	MKV (.mkv) WebM (.webm)	V			最大解像度: 4K2K@60fps 最大ビットレート: 50Mbps
Motion JPEG	MJPEG	AVI (.avi)	V			最大解像度: 1920*1080 @30fps

オーディオデコード						
タイプ	オーディオコーデック	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	備考
MPEG オーディオ	MPEG1/2/2.5 オーディオレイヤー 1/2/3	MP3	V		2	ビットレート: 8Kbps ~ 320Kbps サンプリングレート: 16KHz ~ 48KHz
AAC オーディオ	MAIN、ADIF、ATDS ヘッダー AAC - LC および AAC-HE	ファイル形式: AAC、 M4A	V		5.1	ビットレート: 該当なし サンプリングレート: 8KHz ~ 48KHz

画像デコード						
タイプ	画像デコード	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	備考
JPEG	JFIF ファイル形式 1.02	ファイル形式: JPG、JPEG	V			最大解像度: 3840x2160
BMP	BMP	ファイル形式: BMP	V			最大解像度: 3840x2160
PNG	PNG	ファイル形式: PNG	V			最大解像度: 3840x2160

メモ:

- コンテンツが上記のテーブルに記された対応フレーム / 秒以上の標準ビットレート / フレーム率である場合、音声や動画が作動しない可能性があります。
- コンテンツが上記のテーブルに記述された比率以上のビットレートやフレーム率である場合、再生すると途切れがちな映像になる可能性があります。

9. 入力モード

タイミングサポート:

項目	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)
1	720 × 400 @70Hz DOS	31.469	70.087
2	640 × 480 @60Hz DMT	31.469	59.94
3	640 × 480 @67Hz MAC	35	66.667
4	640 × 480 @72Hz DMT	37.861	72.809
5	640 × 480 @75Hz DMT	37.5	75
6	800 × 600 @56Hz DMT	35.156	56.25
7	800 × 600 @60Hz DMT	37.879	60.317
8	800 × 600 @72Hz DMT	48.077	72.188
9	800 × 600 @75Hz DMT	46.875	75
10	832 × 624 @75Hz MAC	49.725	74.5
11	1024 × 768 @60Hz DMT	48.363	60.004
12	1024 × 768 @70Hz DMT	56.476	70.069
13	1024 × 768 @75Hz DMT	60.023	75.029
14	1152 × 864 @75Hz DMT	67.5	75
15	1152 × 870 @75Hz MAC	68.681	75.062
16	1280 × 720 @60Hz CVT16:9	44.772	59.855
17	1280x800 @60Hz CVT16:10	49.702	59.81
18	1280 × 1024 @60Hz DMT	63.981	60.02
19	1440 × 900 @60Hz CVT16:10 R	55.469	59.901
20	1440 × 900 @60Hz CVT16:10	55.935	59.887
21	1600 × 1200 @60Hz CVT16:9	75	60
22	1680 × 1050 @60Hz CVT16:9 R	64.674	59.883
23	1680 × 1050 @60Hz CVT16:9	65.29	59.954
24	1920 × 1080 @60Hz CVT-RB / XBOX360	66.7	60
25	1920 × 1080 @60Hz DMT-RB	67.5	60
26	480i@60Hz	15.734	59.94
27	480P@60Hz	31.469	59.94
28	720P@60Hz	44.955	59.94
29	1080I@60Hz	33.716	59.94
30	1080P@60Hz	67.433	59.94
31	576P@50Hz	31.25	50
32	720P@50Hz	37.5	50
33	1080I@50Hz	28.125	50.08
34	1080P@50Hz	56.25	50
35	3840x2160@24Hz	54	24
36	3840x2160@25Hz	56.25	25
37	3840x2160@30Hz	67.5	30
38	3840x2160@50Hz	112.5	50
39	3840x2160@60Hz	135	60

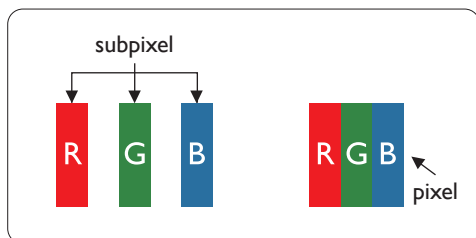
- PC のテキスト品質は、UHD モード(3840 x 2160、60Hz)で最適です。
- お使いの PC ディスプレイ画面は、メーカー（および Windows の特定のバージョン）により異なって表示されることがあります。
- PC をディスプレイに接続する情報については、お使いの PC の取扱説明書を確認してください。
- 垂直と水平の周波数選択モードが存在する場合、60Hz(垂直)と 31.5KHz(水平)を選択します。場合によって、PC の電源がオフの場合（または PC が接続されていない場合）に異常な信号（筋など）が画面に表示されることがあります。その場合はディスプレイ本体の「入力」ボタンを押してビデオモードに入ります。また、PC が接続されていることを確認してください。
- 水平同期信号が RGB モードで不規則に見えるときは、PC の省電力モードまたはケーブル接続を確認してください。
- 本ディスプレイの設定表は IBM/VESA 規格に準拠しており、アナログ入力に基づいています。
- DVI サポートモードは PC サポートモードと同じと見なされます。
- 各モードの最適な垂直周波数は 60Hz です。

10. 画素欠陥ポリシー

当社は最高品質の製品をお届けすることを目指して、業界でもっとも進んだ製造プロセスと可能な限りもっとも厳しい品質管理を採用しています。しかしながら、プラズマおよび LCD ディスプレイで使用する PDP/TFT パネルの画素またはサブ画素に欠陥が生じるのはやむを得ない場合があります。すべてのパネルに画素欠陥がないことを保証できるメーカーはありませんが、Philips では保証期間中であれば、地域の保証条件と一致して、受け入れられない数の欠陥があるプラズマおよび LCD ディスプレイを修理または交換することを保証します。

この通知はさまざまな種類の画素欠陥を説明し、LCD 画面について受け入れられる欠陥レベルを定義するものです。保証に基づき修理の資格を得るには、欠陥画素の数が参照表で示した特定のレベルを超えている必要があります。LCD 画面が仕様の範囲内である場合、保証による交換 / 返金はお断りいたします。また、ある種類または組み合わせの画素欠陥が他のものより顕著であることもあるため、Philips ではこれらのものに対してより高い品質規格を設定しています。

10.1. 画素とサブ画素



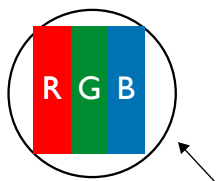
画素、または画像要素は赤、緑、青の原色の 3 つのサブ画素で構成されています。多くの画素が集まって画像を形成します。画素のすべてのサブ画素が明るいと、3 つの色の付いたサブ画素が 1 つの白い画素として一緒に表示されます。すべての画素が暗くなると、3 つの色の付いたサブ画素は 1 つの黒い画素として集まって表示されます。点灯するサブ画素と暗いサブ画素のその他の組み合わせは、他の色の 1 つの画素として表示されます。

10.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義

画素とサブ画素の欠陥は、さまざまな方法で画面に表示されます。画素欠陥には 3 つのカテゴリーがあり、各カテゴリーにはいくつかの種類のサブ画素欠陥があります。

ドット定義 = 欠陥のある「ドット」とは何か？

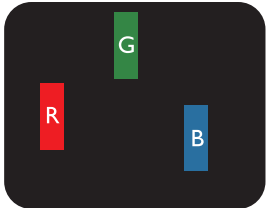
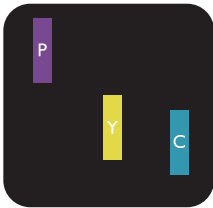
1 つ以上の欠陥、隣接するサブ画素は 1 つの「ドット」として定義されます。欠陥のあるサブ画素の数は、欠陥ドットの定義に関連しません。つまり、欠陥ドットは 1、2 または 3 つの暗いまたは点灯する、欠陥サブ画素で構成されることがあります。



1 つのドット = 赤、緑、青の 3 つのサブ画素で構成される 1 つの画素。

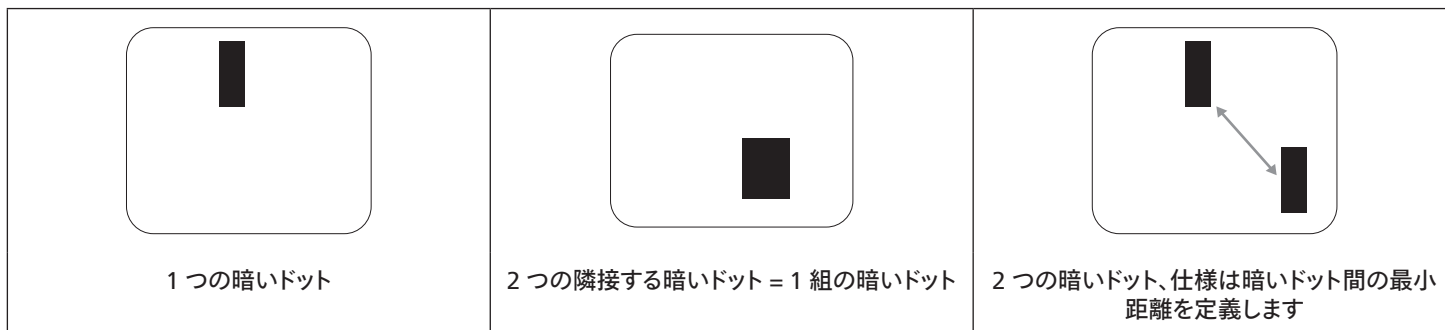
10.3. 明るいドット欠陥

明るいドット欠陥は、常時点灯または「オン」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、明るいドット欠陥の例を紹介します。

 1 つの点灯する赤、緑または青いサブ画素。	 2 つの隣接する点灯サブ画素： 赤 + 青 = 紫 赤 + 緑 = 黄 緑 + 青 = 青緑 (ライトブルー)	 3 つの隣接する点灯サブ画素 (1 つの白い画素)
--	--	--

10.4. 暗いドット欠陥

暗いドット欠陥は、常に暗いかまたは「オフ」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、暗いドット欠陥の例を紹介します。



10.5. 画素欠陥の近接

互いに近くにある同じ種類の画素とサブ画素欠陥はとても目立つため、Philips では画素欠陥の近接の許容範囲についても指定しています。以下の表で、その仕様をご確認ください。

- 許容される量の隣接する暗いドット = (隣接する暗いドット = 1 組の暗いドット)
- 暗いドット間の最小距離
- すべての欠陥ドットの総数

10.6. 画素欠陥の許容範囲

保証期間中に画素欠陥による修理または交換の資格を得るには、Philips プラズマ /LCD ディスプレイの PDP/TFT モニタパネルに、次の表に一覧された許容範囲を超えた画素またはサブ画素欠陥がある必要があります。

明るいドット欠陥	受け入れられるレベル
1つの明るいサブ画素	2
黒いドット欠陥	受け入れられるレベル
1つの暗いサブ画素	10
すべての種類の総ドット欠陥	12

注記: * 1 つまたは 2 つの隣接するサブ画素欠陥 = 1 つのドット欠陥

10.7. MURA

一部の LCD (液晶ディスプレイ) パネルには、暗い点またはパッチがときどき現れることがあります。この現象は、日本語の「ムラ」という用語である Mura として業界では知られています。これは、均一でない画面均一性が特定の条件下で現れる領域の一樣でないパターンを説明するために使用されます。Mura は液晶配向層の劣化の結果で、高い周辺温度下での長期間の操作が原因でもっとも一般的に引き起こされます。これは業界全体の現象で、Mura は修理できません。これも、当社の保証条件の対象外です。

Mura は LCD 技術の導入から、画面が大きくなり 1 日 24 時間休みなしに稼働するようになり、多くのディスプレイが低い低光量の条件下で動作されるようになってからずっとつきまっています。こういったことすべてが、ディスプレイに影響を与える Mura の可能性を高めています。

Mura を見分ける方法

Mura には多くの症状と、複数の原因があります。これらのいくつかを、以下に一覧します。

- 結晶マトリックスの混入物または異物
- 製造中の液晶マトリックスの不均等な分布
- バックライトの付近位置な輝度分布
- パネル部品誘発ストレス
- LCD セル内部の傷
- 熱誘発ストレス - 長期間にわたる高温での操作

Mura を避ける方法

毎回 Mura を完全に根絶する保証はできませんが、一般に Mura の出現は以下の方法により最小限に抑えることができます。

- バックライトの明るさを下げる
- スクリーンセーバーを使用する
- 装置周囲の空気温度を下げる

11. 清掃とトラブルシューティング

11.1. 清掃

本ディスプレイを使用する際の注意

- 手や顔、物を本ディスプレイの通気口に近づけないでください。本ディスプレイの上部は、通気口から放出される高温の排気のため、通常は高温となっています。身体の一部を近づけすぎると、火傷や怪我をすることがあります。本ディスプレイの上部近くになんらかの物を置くと、この物およびディスプレイ自体に熱関連の損傷が起こることがあります。
- 本ディスプレイを移動する際は、必ずすべてのケーブルを抜いてください。ケーブルが接続されたままディスプレイを移動させると、ケーブルが損傷し、その結果、火事や感電の恐れがあります。
- あらゆる種類の清掃や保守作業を行う前に、安全対策として電源プラグをコンセントから抜いてください。

前面パネル清掃手順

- 本ディスプレイの前面には特別な処理が施されています。表面は布巾または柔らかい糸くずの出ない布で優しく拭いてください。
- 液晶パネル表面が汚れた場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい糸くずの出ない布を浸し、布を強く絞り、余分な水分を除きます。本ディスプレイの表面を拭き、埃を除いてください。その後、同じ種類の乾いた布で拭いてください。
- 液晶パネル表面を爪で引っ掻いたり、硬い物をぶつけたりしないで下さい。
- 殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないで下さい。

キャビネット清掃手順

- キャビネットが汚れたら、柔らかい乾いた布で拭いてください。
- キャビネットがひどく汚れている場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい、糸くずの出ない布を浸します。布を絞り、できるだけ水分を除きます。キャビネットを拭き取ります。表面が乾くまで、別の乾いた布で拭きます。
- プラスチック部品の洗浄に油を含む溶液を使用しないでください。このような製品はプラスチック部品を損傷し、保証を無効にします。
- 本ディスプレイの表面には、水や洗剤が触れないようにしてください。水や水分が本ディスプレイ内部に入り込むと動作上の問題、電氣的障害、および感電事故が起こる恐れがあります。
- 爪やあらゆる種類の堅い物でキャビネットを引っ掻いたり、ぶつけたりしないでください。
- キャビネットには殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないでください。
- 長期間ゴムまたはポリ塩化ビニル製の物をキャビネット近くに置かないでください。

11.2. トラブルシューティング

症状	想定される原因	対処
画像が表示されない	1. 電源コードが抜けています。 2. 本ディスプレイの背面にある主電源スイッチが ON になっていません。 3. 選択された入力が接続されていません。 4. ディスプレイがスタンバイモード中です。	1. 電源コードをコンセントに差し込みます。 2. 電源スイッチが ON であることを確認します。 3. 本ディスプレイに信号接続を接続します。
本ディスプレイで表示される画像が乱れる、または音声にノイズが聞こえる	周囲の電子機器や蛍光灯が原因です。	干渉が少なくなるような別の場所に本ディスプレイを移動させます。
色がおかしい	信号ケーブルが正しく接続されていません。	本ディスプレイの背面に信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。
画像が異常なパターンで歪んでいる	1. 信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 入力信号が本ディスプレイの能力を超えています。	1. 信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。 2. 本ディスプレイの範囲を超えていないか、ビデオ信号ソースを確認します。本ディスプレイの仕様のセクションで、仕様を確認してください。
表示画像が画面サイズいっぱいに表示されない	1. ズームモードが正しく設定されていません。 2. スキャンモードが間違っていてアンダースキャンに設定されています。 3. 画像が画面サイズを超える場合、スキャンモードをアンダースキャンに設定する必要があります。	画面メニューのズームモードまたはカスタムズーム機能を使用して、ディスプレイのジオメトリーと周波数パラメータを微調整します。
音声は聞こえるが、画像が表示されない	ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。	ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。
画像は表示されるが、音声聞こえない	1. ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 音量が一番低く設定されています。 3. { 消音 } がオンになっている。 4. 外部スピーカーが接続されていません。	1. ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。 2. [+] または [-] ボタンを押して音声が聞こえるか確認します。 3. [] ボタンを使って消音をオフにします。 4. 外部スピーカーを接続し、適切なレベルに音量を調整します。
一部の画素が光らない	ディスプレイの一部のピクセルがオフになっています。	本ディスプレイは超ハイレベルな精密技術で製造されています。しかし、画面の一部に画素欠けが存在する場合があります。これは故障ではありません。
電源をオフにした後も残像が表示されています。(例: ロゴ、ビデオゲーム、コンピュータ画像、4:3 のノーマルモードで表示された画像を含む静止画像)	静止画像が時間より長く表示されていました。	長期間静止画像を表示しないようにしてください。本ディスプレイ上に永続的な残像が残る原因となるためです。

12. 技術仕様

ディスプレイ:

項目	仕様		
	43BDL4050Q	50BDL4050Q	55BDL4050Q
画面サイズ(アクティブ領域)	108 cm/42.5 インチ	125.7 cm/49.5 インチ	138.7 cm/54.6 インチ
縦横比	16:9	16:9	16:9
画素数	3840(水平) x 2160(垂直)	3840(水平) x 2160(垂直)	3840(水平) x 2160(垂直)
画素ピッチ	0.2451 (横) x 0.2451 (縦) [mm]	0.2854 (横) x 0.2854 (縦) [mm]	0.315 (横) x 0.315 (縦) [mm]
表示可能色	8 ビット +FRC、10 億 7 千万色	8 ビット +FRC、10 億 7 千万色	8 ビット +FRC、10 億 7 千万色
ブライトネス(標準)	500 cd/m ²	500 cd/m ²	500 cd/m ²
コントラスト比(標準)	1200:1	4000:1	5000:1
表示角度	178 度	178 度	178 度

入 / 出力端子:

項目		仕様
スピーカー出力	内部スピーカー	10W (左) + 10W (右) [RMS]/8Ω 82dB/W/M/160Hz ~ 13KHz
音声出力	3.5mm フォンジャック x 1	0.5V[rms](標準)/2 チャンネル (左 + 右)
音声入力	3.5mm フォンジャック x 1	0.5V[rms](標準)/2 チャンネル (左 + 右)
RS232	2.5mm フォンジャック x 2	RS232 入力 / RS232 出力
RJ-45	RJ-45 ジャック x 1 (8 ピン)	10/100 LAN ポート
HDMI 入力	HDMI ジャック x2 (タイプ A) (19 ピン)	デジタル RGB:TMD5 (ビデオ + 音声) 最大: 動画 - 720p、1080p、3840x2160/60 Hz 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (左 + 右) LPCM のみサポート
DVI-I 入力	DVI-I ジャック	デジタル RGB:TMD5 (ビデオ) アナログ RGB:0.7V [p-p] (75Ω)、H/CS/V: TTL (2.2kΩ)、 最大: 1920 x 1080/60 Hz (WUXGA)
IR 入力 / 出力	3.5mm x 2	IR パススルーまたは IR デイジーチェーン
USB 入力	USB2.0 x 2 (タイプ A)	USB マルチメディア再生およびサービスポート
USB 入力	USB3.0 x 1 (タイプ A)	USB マルチメディア再生
拡張スロット	USB 3.0 x 1	CRD22 用にリザーブ
SD カード	マイクロ SD カード	1TB まで対応

一般:

項目	仕様		
	43BDL4050Q	50BDL4050Q	55BDL4050Q
電源入力	100 ～ 240V～、50/60Hz	100 ～ 240V～、50/60Hz	100 ～ 240V～、50/60Hz
消費電力 (最大)	121 W	128 W	163 W
消費電力 (標準)	65 W	73 W	111 W
消費電力(スタンバイモード & オフモード)	<0.5 W	<0.5 W	<0.5 W
AC スイッチオフモード (W)	0 W	0 W	0 W
寸法(スタンドなし)[幅 x 高さ x 奥行]	973.0 x 561.2 x 63.5 mm	1128.4 x 649.0 x 63.5 mm	1241.8 x 712.6 x 63.6 mm
重量(スタンドなし)	11.1 Kg	14.3 Kg	17.2 Kg
総重量(スタンドなし)	14.5 Kg	18.4 Kg	21.7 Kg

環境条件:

項目		仕様
温度	操作時	0 ～ 40℃
	保管時	-20 ～ 60℃
湿度	操作時	20 ～ 80%RH(結露なし)
	保管時	5 ～ 95%RH(結露なし)
高度	操作時	0 ～ 5,000 m
	保管時 / 輸送中	0 ～ 9,000 m

索引

入力 / 出力端子 10
入力モード 55
外部機器の接続(マルチメディアプレーヤー) 18
外部機器を接続する 18
各部の機能 9
安全上の注意 1
対応するメディア形式 54
技術仕様 61
取り扱い 21
画素欠陥ポリシー 56
画像形式を変更します。21
情報 44
接続されたビデオソースから鑑賞する 21
梱包箱に含まれているもの 6
清掃とトラブルシューティング 59
設定 35
設定 UI 35
設置に関する注意 6
開梱 4
開梱と設置 4
概要 21
補足 45
壁に取り付ける 7
縦長向きの設置について 8
アクセシビリティ 44
アプリ 43
カスタムアプリ 34
ケーブルを使ったネットワーク接続 20
コントロールパネル 9
サインージディスプレイ 36
システム 44
セキュリティ 44
デジタイゼーション構成で複数のディスプレイを接続する 19
ディスプレイ 44
ネットワークとインターネット 35
ブラウザ 27
メディアプレーヤー 23
リモコン 11
リモコンに乾電池を挿入する 15
リモコンの取り扱い 15
リモコンの動作範囲 15

A

AC スイッチカバー 17

I

IR 接続 19
IR バススルー接続 19

O

OSD メニュー 48
OSD メニューの概要 48
OSD メニューをナビゲートする 48

P

PC の接続 18
PDF リーダー 31

U

USB カバー 16



2026 © TOP Victory Investments Ltd. 無断複製および転載を禁じます。

本製品は、Top Victory Investments Ltd., によって製造され、その責任の下で販売されており、Top Victory Investments Ltd., が本製品に関する保証人です。Philips および PhilipsShield Emblem は、Koninklijke Philips N.V. の登録商標であり、ライセンスに基づいて使用されています。

仕様は、事前の通知なしに変更することがあります。

バージョン: V1.00 2026-02-06